THE SAISON FOUNDATION

ANNUAL REPORT 2018

APRIL 2018 TO MARCH 2019





APRIL 2018 TO MARCH 2019









## 公益財団法人 セゾン文化財団

2018年度 事業報告書 2018年4月 - 2019年3月





- 7 事業概要
- 12 本年度の事業について
- 17 助成事業
- 18 I. 芸術家への直接支援
- 40 II. パートナーシップ・プログラム
- **56 Ⅲ**.フライト・グラント
- 59 自主製作事業·共催事業
- 70 事業日誌
- 71 会計報告
- 74 評議員·理事·監事·顧問名簿

- 5 MESSAGE FROM THE PRESIDENT
- 7 PROGRAM OUTLINE
- 14 THE SAISON FOUNDATION'S PROGRAMS IN 2018
- 17 GRANT PROGRAMS
- 20 I. Direct Support to Artists
- 42 II. Partnership Programs
- 57 III. Flight Grant
- 59 SPONSORSHIP AND CO-SPONSORSHIP PROGRAMS
- 70 REVIEW OF ACTIVITIES
- 71 FINANCIAL REPORT
- 74 TRUSTEES, DIRECTORS, AUDITORS AND ADVISER

現代の社会では、問題を早く、効率的に解決することこそが価値とされ、そうした能力に長け ているか否かが人間を評価する尺度になりつつあるようにみえます。しかし、われわれが実人生 において抱え込む葛藤は、そんなに早く、効率的に解決できることばかりではありません。むしろ、 それができないから苦しいのです。では、こうした"簡単に解決しない問題"に、人はどう向き合 えばよいのでしょうか。

そんなことを考えていたとき、ネガティブ・ケイパビリティという言葉に出会いました。この言葉 を最初に用いたのは英国の詩人ジョン・キーツですが、作家で精神科医の帚木蓬生氏は、これを 「どうにも答えの出ない、どうにも対処しようのない事態に耐える能力」と説明しています。つまり、 素早く、効率的に問題処理を行う能力=ポジティブ・ケイパビリティの対概念というわけです。

迅速で効率的な問題解決能力ばかりに関心が集まる現代において、実はますます必要とされ ているのが、このネガティブ・ケイパビリティなのではないでしょうか。そして、この能力を備えて いた人物としてキーツが真っ先に挙げたのがシェイクスピアであったように、われわれが支援 する舞台芸術は、まさにこの能力と深く結び合っているように思われるのです。

昨今は、芸術の効用について、さまざまな政策課題の解決や経済・産業への貢献という文脈 で語ることが盛んです。もちろんそれはそれで大事なことでしょう。しかし私はむしろ、問題はすぐ には解決できないけれども、それでも何とかやっていく心性を涵養するところにこそ、芸術活動 のより大きな社会的価値を見出すべきではないかと思います。

セゾン文化財団ではこれからも、舞台芸術を中心とした創造活動への支援を、いっそう精力的 に展開していく所存です。引き続きご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

> 公益財団法人セゾン文化財団 理事長 片山 正夫

Society today seems increasingly to value speedy and efficient problem-solving, with our skill in this regard or lack thereof forming the yardstick by which we are measured. And yet the troubles that we face in actual life are not ones that can always be so speedily and efficiently solved. Rather, it is precisely because of this that we suffer difficulties in the first place. In which case, how should people address these problems that cannot be solved easily?

Following this train of thought led me to encounter the phrase "negative capability." Originally used by the British poet John Keats, the Japanese writer and psychiatrist Hosei Hahakigi explains that it is the "capability to endure situations in which there is no answer, where there is no way to deal with them." As such, the capacity to deal with problems quickly and efficiently forms a conceptual pair with negative capability.

In the present, where interest centers almost entirely on our ability to solve problems rapidly and efficiently, isn't this negative capability what we more and more truly require? And in the same way that Keats first raised Shakespeare as an example of someone so endowed, then the performing arts that we support can also be regarded as deeply intertwined with this capability.

Recent years have seen much discussion about the contributions that the arts can make to industry and the economy or to solving various challenges faced by government policy. The arts are, needless to say, important in that sense. However, I think we should now discover the greater social value of artistic practices rather in the way that they cultivate a disposition of nonetheless somehow pushing on even when faced by problems that cannot be solved immediately.

At The Saison Foundation, we will strive to offer even more robust support for creative endeavors with a focus on the performing arts. We hope to receive your continued guidance and assistance.

> Masao Katayama President, The Saison Foundation

事業概要 PROGRAM OUTLINE 2018年度事業概要

助成事業

## I. 芸術家への直接支援

#### 1.現代演劇・舞踊助成 – セゾン・フェロー

演劇界・舞踊界での活躍が期待される劇作家、演出家、また は振付家の創造活動を支援対象としたプログラム。フェロー に選ばれると、自らが主体となって行う創造活動に当財団か らの助成金を充当することができるほか、必要に応じて森下 スタジオの稽古場・ゲストルームや情報の提供が受けられ る。原則として、ジュニア・フェローは2年間、シニア・フェロー は3~4年間にわたって助成を行う(ジュニア・フェローの助 成歴がなく、シニア・フェローとして新規採択された場合は4 年間)が、継続の可否に関しては毎年見直す。対象は、下記 の条件を満たしている劇作家、演出家、または振付家。

ジュニア・フェロー

- ・日本に活動の拠点を置いている
- ・申請時点で35歳以下である
- ・申請時点で過去3作品以上の公演実績がある
- ※過去のジュニア・フェローでも、条件を満たしていれば計3回まで助成 可能。

#### シニア・フェロー

- ・日本に活動の拠点を置いている
- ・原則申請時点で45歳以下である
- ・申請時点で過去3作品以上の公演実績がある
- ・以下のいずれかの要件を満たしている
- ・芸術団体の主宰者としてセゾン文化財団の助成歴がある (フライト・グラントを除く)
- ・戯曲賞/演出家賞/振付家賞等の受賞歴がある
- ・海外の著名なフェスティバルのメイン部門/劇場から招
   ・ 聴歴がある
- ※ただし、過去に当財団の「芸術創造活動Ⅱ」プログラムで支援を受けた 芸術団体の主宰者は対象外。

#### 2.現代演劇・舞踊助成 — サバティカル(休暇・充電)

日本を拠点に活動する劇作、演出、振付の専門家として10年 以上の活動歴を有し、1ヶ月以上の海外渡航を希望する個人 に対し、100万円を上限に、渡航・滞在費用の一部に対し助成 金を交付。

申請時点までに継続的に作品を発表・制作し、一定の評価を 受けているアーティストで、2018年度中にサバティカル(休 暇・充電)期間を設け、海外の文化や芸術などに触れながら、 これまでの活動を振り返り、さらに今後の展開のヒントを得た いと考えている者を優先する。

#### Ⅱ. パートナーシップ・プログラム

「パートナーシップ・プログラム」では、芸術創造を支える機関・事業や、国際的な芸術活動を展開する個人/団体を当財団のパートナーとし、日本の舞台芸術の活性化や国際的な協業の推進を目指している。

#### 1.現代演劇・舞踊助成 – 創造環境イノベーション

現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その創造的解決を目指した事業に対する助成プログラム。当財団で課題を設定する「課題解決支援」、および「スタートアップ支援」の2つのカテゴリーで公募。

課題解決:2018年度テーマを「舞台芸術の観客拡大策」とし、観客拡大のための新しい手法で、効果が客観的に検証 でき、普及可能な事業を対象とする。

**スタートアップ**:現代演劇・舞踊界に変化をもたらすことが 期待できる新規事業を立ち上げから支援。

#### 2.現代演劇・舞踊助成 — 国際プロジェクト支援

演劇・舞踊の国際交流において特に重要な意義をもつと思 われる複数年にわたる国際プロジェクトへの支援を目的と した助成プログラム。海外のパートナーとの十分な相互理解 に基づき、発展的に展開していくプロジェクトを重視。リサー チや、ワークショップなどプロジェクトの準備段階から、申請 することが可能。企画経費の一部に対して助成金を交付。希 望者には森下スタジオ、ゲストルームを提供。3年を上限とし て助成を行う。対象となるのは、日本と海外双方に事業の パートナーが決定しており、申請時点で国際交流関係の事 業の実績を持つ個人/団体。

#### 芸術交流活動【非公募】

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づい た芸術創造活動、日本文化紹介事業等に対して資金を提供 する。

## 自主製作事業·共催事業

## Ⅲ. フライト・グラント

海外からの招聘に伴う渡航費が緊急に必要となった場合の 支援プログラム。 自主製作事業としてセゾン・アーティスト・イン・レジデンス、 セミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレ ターの刊行などを行う。

共催事業では、日本の舞台芸術界を活性化させるために非 営利団体等と協力して事業を実施する。

## I. Direct Support to Artists

## 1. Contemporary Theater and Dance Saison Fellows

This program supports creative activities and projects by promising playwrights, directors, and choreographers. Fellows are awarded grants that they may spend on their creative work, given priority use of the Foundation's rehearsal and residence facilities in Tokyo (Morishita Studio), and may receive information services that are necessary to their work. Junior Fellows (artists 35 years old or younger) receive ¥1,000,000 in principle for two years; Senior Fellows (artists 45 years old or younger) receive grants (range of grants given in this program in 2018: ¥1,000,000 –¥3,000,000) for 3–4 years.

## 2. Contemporary Theater and Dance Sabbatical Program

This category gives partial support to individuals who wish to travel abroad to come into contact with intercultural experiences by awarding fellowships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) a base in Japan; (b) more than ten years of professional working experience in one of the following occupations: playwriting, directing, or choreography; and (c) a plan to travel abroad for more than one month.

Priority is given to artists who have been creating and presenting works continuously until the time of applying to this program, have an established reputation in their respective fields, and are considering to take sabbatical leave during fiscal 2018 to review their past activities and receive inspiration for future activities through intercultural experiences.

## II. Partnership Programs

## 1. Contemporary Theater and Dance Creative Environment Innovation Program

Grants and studio/guest room awards are given to individuals and organizations conducting projects aimed at improving the infrastructure of the contemporary performing arts in Japan. There are two categories within this program: Support for Problem-Solving Projects (2018 theme: Audience Expansion Solutions) and Support for Startup Projects.

## 2. Contemporary Theater and Dance International Projects Support Program

This is a grant program that awards long-term, maximum three-year grants to international exchange projects in which contemporary Japanese theater or dance artists/companies are involved. Priority use of Morishita Studio is also awarded upon request. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan or have partners in Japan, and (b) those with a history of artistic achievements in the area of intercultural exchange activities at the time of application.

## Artistic Exchange Project Program (designated fund program)

This designated fund program supports activities by not-for-profit organizations outside of Japan with a continuous partnership with The Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

## SPONSORSHIP AND CO-SPONSORSHIP PROGRAMS

# Ⅲ. Flight Grant

This outbound (from Japan to overseas) program supports those in immediate need of travel funds.

Apart from making grants, The Saison Foundation sponsors and organizes Saison Artist in Residence, seminars, workshops, and symposia, and publishes a newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, The Saison Foundation also organizes projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program.

## 常務理事 久野敦子

2018年度の舞台芸術の概況を見ると、依然として2020 年の東京オリンピック、パラリンピック開催に向け公的な文 化予算は増加の傾向が続いている。日本文化の継承、次世 代育成、国際交流、人材交流の活性化と様々な事業が行わ れ、大型フェスティバルの開催も目白おしだ。地域アーツカ ウンシルの活動にも勢いがある。しかしながら、2020年まで の期間限定のプログラムやイベント志向の施策が大勢であ り、オリンピック後に「文化的レガシー」をどのようにして、引 き継ぎ、次世代へとつなげていくのか。2020年以降の具体 的な方策はあまり提示されておらず、不安感が増している。

一方、文化庁は創設から50年を迎え、「新・文化庁」への 体制刷新が発表された。文化庁が各省庁にまたがる文化関 連施策の軸となり、連携協力しながら観光振興、食文化、文 化産業などを推進していく考えだ。2021年度中には文化庁 の京都への全面的な移転も予定されており、動向を注視し たい。

国内の経済状況に目を向けると、国内の長期金利は概ね 0.0~0.1%で推移。米国など主要国も概ね低金利で横ばい であり、運用の困難な状況が継続した。株式市場は、米中貿 易摩擦や英国の欧州連合(EU)離脱問題の混迷など、世界 経済の先行きに不透明感が高まり軟調だったが、REIT市場 は総じて堅調だったこともあり、例年とほぼ同額の助成金を 支給することができた。

本年は、特定非営利活動促進法(NPO法)の制定/施行 20周年、公益法人制度改革10周年を迎え、各方面で特集記 事、シンポジウムなどが多く開催され、長年、この分野で活動 を続ける片山正夫理事長の寄稿、登壇の機会が多かった。

\* \* \*

2018年度は現代演劇・舞踊分野での諸活動に対して、前 年度と同数の51件の助成を行った。助成金の総額は、 63,814千円となった。予算より微減しているのは、セゾン・ フェローからの助成金の戻り分が生じたこと、およびフライ ト・グラントの支援が航空費の実費支払いであるためだ。期 初に計画された事業は、予定通り順調に実施された。セゾン・ フェロープログラムの35才以下を対象にしたジュニア・フェ ローへの申請件数が昨年比で15%ほど減っているのは、過 去の落選者の再チャレンジが減っていることが起因してい ると思われる。申請者には、二度三度の挑戦を促すため、広 報に努めたい。

本年度も多くの助成対象者が国内外での目覚しい活躍 を遂げ、関心を集めた。特に、文芸誌などで演劇特集が組ま れる機会が多くあり、これからの活動が期待される演劇人と して多くのセゾン・フェローが紹介された。また、国際交流基 金が中心となって実施した日仏友好160周年を記念してパ リを中心にフランスで開催された総合的な日本文化紹介事 業「ジャポニスム2018」でも、多くのセゾン・フェローが招聘 公演を実現させ、日本の現代演劇への関心を集めた。

文化庁の補助金交付を受け自主製作事業として実施して いる「セゾン・アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」事業で は、海外のAIR実施団体をパートナーに、3件の交流事業を 行った。加えて、海外から「ヴィジティング・フェロー」として アーティスト/アーツ・マネジャーを5名、招聘した。また、AIR の普及を目的に、国際舞台芸術ミーティング(TPAM)と共 催で国際会議も開催した。

共催事業では、庭劇団ペニノに、新作『蛸入道 忘却の 儀』の創作と上演のために森下スタジオを提供した。公演に 併せて、作品をより深く理解するために、演劇体験拡張講座 を公演前に実施、多方面から講師を招き好評を博した。ほ かにも、これまで支援してきた助成対象者の新たな活動の 開始を支援するため、森下スタジオを提供した。

助成事業の創造環境イノベーションプログラムの課題 テーマである「舞台芸術の観客拡大策」への申請の導入と して「舞台芸術の広報・宣伝」研究会を実施し、多くの参加 希望者を得ることができ、広報・宣伝についての関心の高さ をうかがわせた。そのほか、ブリティッシュ・カウンシルから 講師派遣の共催を得て実施している「リアル・アーティスト・ カンバセーション(RAC)」は10年度目を迎えた。地味なが ら長く継続している事業だが、2017年度末に、当財団の ニュースレターviewpointで特集した「たかが英語、されど 英語-舞台芸術の"語学問題"」に関連して新聞社から取材 を受けるなどした。

このほか、本年度も国内外から多くの視察訪問を得たほ か、助成対象者間のネットワーク拡充のための機会を作り、 ミーティング、懇親会なども開催した。 ニュースレター「viewpoint」では、「演出は著作物か?」、 「民間による公共」、「『国際的な舞台芸術祭』とは?」「その土 地と踊る-アーティストが地域に入っていく時」の特集を組 み、四号発行した。

森下スタジオは、主としてセゾン・フェローの作品制作や、 助成対象事業のために使用されているが、本年度もフル稼 働であった。4つのスタジオの年間利用日数はのべ1,394日 となり、これは稼働率(13日間の休館日を除いて計算)でい うと99%となり、助成対象者にとって必須の稽古場となって いる。ゲストルームについても、のべ510日の利用があった。

2018年に文化庁創立50周年を迎え、芸術文化助成財団 協議会の一員として、当財団は文化庁より「文化庁創立50 周年記念表彰」を受けた。 2019年度法人賛助会員に以下の企業にご入会頂きました。 セゾン投信株式会社 株式会社パルコ 株式会社良品計画

また、2018年度は、匿名でお一方より、2019年度には、中野 晴啓様よりご寄附を頂きました。当財団の活躍へのご理解、 ご支援に、深く感謝いたします。

\* \* \*

2018年度の助成先の選考に際しては、下記の方々にご協 力いただきました。有益なご示唆を頂戴しましたことに、深く 感謝申し上げます。

石井達朗(舞踊評論家、当財団評議員)

稲田奈緒美(舞踊評論家)

岩城京子(演劇パフォーマンス学研究者)

- 佐々木敦(批評家、HEADZ主宰)
- 高橋宏幸(演劇批評家、桐朋学園芸術短期大学常勤講師)
- 山田せつ子(ダンサー/コレオグラファー、京都造形芸術大学主任研究員)

(敬称略・肩書はアドバイザリー・ミーティングが開催された2017年12月当時のもの)

\* \* \*

## Atsuko Hisano Managing Director

When one looks at the overall state of the performing arts in 2018, one continues to see an increase in public funding for cultural activities ahead of the 2020 Olympic and Paralympic Games in Tokyo. From passing on traditional Japanese culture to cultivating the next generation, international exchange, and interchanging human resources, various initiatives are now taking place along with many large-scale festivals. The activities of regional arts councils are also strong. And yet, while there are a great many measures for programs and events during this period up to 2020, what of the question of continuing this "cultural legacy" and connecting it with future generations after the Olympics are over? Concrete post-2020 policies are as yet not apparent and a sense of unease about this is rising.

On the other hand, the Agency for Cultural Affairs marked 50 years since it was established and announced a full overhaul in order to shift toward a new kind of agency. This involves it becoming an organization that serves as the central axis for cultural policies across various government ministries, promoting tourism, food culture, and cultural industries through partnerships with these other bodies. The agency also plans to relocate entirely to Kyoto during the 2021 fiscal year and I want to follow closely how things develop next.

Turning to the economic situation in Japan, long-term interest rates changed by approximately 0.0–0.1%. In the United States and other major nations, too, rates are low and flat, resulting in sustained difficulties for fund management. The stock markets were weak as the directions of the global economy remained unclear in the wake of uncertainty following trade conflict between the USA and China, and the UK's imminent departure from the EU, though the real estate investment trust market was robust overall and we could maintain almost the same level of grants as usual.

Given that it marked 20 years since Japan's NPO Law, which promotes nonprofit organizations, was enacted and went into force as well as ten years since reforms were made to the public interest corporations system, 2018 ushered in a flurry of symposia and feature articles in the media, and the Foundation's president, Masao Katayama, who has long worked in this field, had numerous opportunities to contribute articles or speak at events. \* \* \*

In 2018, 51 grants were awarded to practitioners in the fields of contemporary theater and dance, which was the same number as the previous year. The total amount of grants came to ¥63,814,000. This was slightly under budget, due to the return of some grant monies by Senior Fellows as well as cases for Flight Grants where the actual airfare paid was lower than the originally estimated cost. The originally proposed activities were all implemented as planned. Though the number of applicants for Junior Fellows, which are grants in the Saison Fellows program available to people aged 35 or younger, fell by around 15% in comparison with the previous year, the cause for this seems to lie in a lower number of previously unsuccessful applicants trying again. I hope we can make efforts in our publicity to better communicate to applicants that it is indeed worthwhile reapplying.

This year, many grantees carried out impressive activities at home and abroad, garnering much interest in their work. Theater was frequently covered in the media, such as literary magazines, and many Saison Fellows were showcased as highly anticipated figures in the scene. At Japonismes 2018, a comprehensive introduction to Japanese culture organized mainly by the Japan Foundation in Paris and elsewhere in France to mark 160 years of friendship between Japan and France, many Saison Fellows were invited to present performances and could attract interest in Japanese contemporary theater.

The Saison Artist in Residence program, which is organized as part of the Sponsorship Program with support from the Agency for Cultural Affairs, implemented three exchange initiatives with overseas artist residency organizations. In addition, five artists or arts managers from overseas were invited as Visiting Fellows. An international conference was also co-organized with Performing Arts Meeting in Yokohama (TPAM), aiming to spread information about AIR programs.

In the Co-Sponsorship Program, Morishita Studio was provided to Niwa Gekidan Penino for developing and premiering *Octopus Monks*. A special series of lectures held with various invited guest speakers to complement the performances and help audiences understand the play had a favorable reception, too. Morishita Studio was also provided for use by previous grantees who wanted to launch new projects.

To encourage applications for the Support for Problem-Solving Projects: Audience Expansion Solutions category in the Creative Environment Innovation Program (in the Grant Programs), the Foundation held the Performing Arts PR and Marketing Study Sessions (as part of the Sponsorship Program), attracting many participants and revealing the level of interest in marketing and publicity. In addition, the Real Artist Conversations program, which is held with instructors provided by the British Council, marked its tenth edition. A low-key yet sustained program, it was also picked up and covered by a newspaper at the end of the 2017 fiscal year in relation to the issue of the Foundation's newsletter, viewpoint, which focused on the issue of English-language proficiency in the performing arts.

Moreover, we also welcomed many inspections by visitors from Japan and abroad as well as created opportunities for expanding the networks of grantees, and held various meetings and social events.

Our newsletter, *viewpoint*, published four editions focusing, respectively, on whether directing is something that can be copyrighted, on private sector contributions to the public, on the meaning of an international performing arts festival, and on artists working in local communities.

Mainly available as a facility for Senior Fellows to produce work and for other activities by the grantees, Morishita Studio was this year once again put to full use. The number of days of use annually across the four studio spaces totalled 1,394, an occupancy rate of 99% (if excluding the 13 days when the facility is closed) and demonstrating the indispensability of the facility as a rehearsal space for grantees. The guest rooms were used for a total of 510 days.

2018 also marked 50 years since the establishment of the Agency for Cultural Affairs and, as a member of the Culture and Arts Grant-Making Foundations Council, the Foundation received an Agency for Cultural Affairs 50th Anniversary Commemoration Award. We would like to take this opportunity to express our sincere gratitude to the following people for their generous and insightful assistance during the 2018 grant selection process.

Naomi Inata (Dance critic)

Tatsuro Ishii (Dance critic; Trustee, The Saison Foundation) Kyoko Iwaki (Theater and performance scholar) Atsushi Sasaki (Critic; Director, HEADZ) Hiroyuki Takahashi (Theater critic; Lecturer, Toho

Gakuen College of Drama and Music) Setsuko Yamada (Dancer and choreographer; Senior

Researcher, Kyoto Performing Arts Center, Kyoto University of Art and Design)

(Titles are correct as of December 2017 when the advisory meeting took place.)

\* \* \*

The following corporations are our Legal Entity Supporters for fiscal 2019: PARCO CO., LTD. Ryohin Keikaku Co., Ltd. Saison Asset Management Co., Ltd.

(in alphabetical order)

In 2018, we received a financial contribution from an anonymous individual donor. In 2019, we received a contribution from Mr. Haruhiro Nakano.

The Saison Foundation would like to express its gratitude to these donors for their generous contributions and support for our activities.

\* \* \*

GRANT PROGRAMS

\*名称は2018年度事業報告当時

このプログラムは、対象となる劇作家/演出家/振付家が 主宰または所属する劇団やダンスカンパニー以外の芸術活 動にも助成金を使用できることが特徴である。公演などの事 業はもちろん、リサーチ、芸術家としての自己研鑽のための 勉強や研修などにも使用し、芸術家としての幅を広げてもら うことを意図している。助成金の交付の他、森下スタジオおよ びゲストルームの提供による支援を行っている。

2018年度のジュニア・フェローへの申請数は、過去に複数 回申請のあった方々の見送り等により減少した。舞踊では昨 年はストリートダンス系の人たちからの申請が数件あった が、今年度はなかった。

#### ジュニア・フェロー

35歳以下を対象とするジュニア・フェローでは、演劇分野 から市原佐都子、木ノ下裕一、スズキ拓朗、谷賢一、村川拓也、 舞踊分野からきたまり、三東瑠璃の7名が選抜された。スズキ、 谷は2016-2017年度、きたまりは2009-2010年度のジュニ ア・フェローに続いて2回目、木ノ下、村川は2014-2015、 2016-2017年度に続いて3回目の助成となる。

市原佐都子は2011年、演劇ソロユニット「Q」を設立。人間 の行動を、動物を観察するかのような目線でとらえ、再構築し た作品を創作し、生きることの不条理さ、混迷する世界で輝く 人間の生命力を女性の視点で語っている。2011年、AAF戯曲 賞受賞。2013年、フェスティバル/トーキョー13公募プログラ ムに選出。2017年、岸田國士戯曲賞にノミネート。同年、ソウ ル・マージナル・シアターフェスティバルに招聘された。2018 年度は海外で作品が紹介されたり、KYOTO EXPERIMENT では2作品を上演するなど、活躍が目立った。

三東瑠璃はダンスカンパニー「レニ・バッソ」での活動を経 て、2012年に演出・振付作品『ESQUISSE』を初演後、イスラ エル、スペインの国際コンペティションで1位を獲得および横 浜ダンスコレクションEX2014 MASDANZA賞を受賞。2015 年に演出・振付作品『matou』を初演後、ポーランドの国際コ ンペティションで1位を獲得。人種を超えた身体の美しさに惹 かれる一方で日本人の繊細な身体に着目して創作している。 2018年度は、初カンパニー作品として発表した『MeMe』が高 い評価を受け、振付家としての認知度と評価も高めている。

またジュニア・フェロー6名が今年度で2年間の助成対象期 間終了となった。 カゲヤマ気象台は、2018年度に主宰団体名を「sons wo:」から「円盤に乗る派」に改名し、活動方針を広がりのあ るものにした。2017年度のAAF戯曲賞の受賞によって、他の 演出家による上演機会が複数生まれたこと、2018年度にフェ スティバル「これは演劇ではない」に企画メンバーとして参加 したことが、活動やネットワークの広がりにつながった。運営 基盤や創作における協力体制を築き、より一層の活動の広 がりに期待したい。

西尾佳織は、2年間で公演だけではなく、ワークショップ、 勉強会、リサーチなど広範に亘る活動を行った。演劇の創作 過程や上演形式についての問題意識の提示が、『鳥公園の アタマの中展』という通常の公演とは異なる形態で行われ た。マレーシアのリサーチからは今後の戯曲執筆における大 きなテーマが見つかったようだ。またレクチャー・パフォーマ ンスという方法での発表も行われた。創作の基盤となるブレ インチームが築けたことも収穫の1つである。今後も独自の 演劇の形の模索が続きそうだ。

山本健介は、ワークショップの実施や公演方法を2段階に する、これまでとは違うアプローチを試してきた。京都芸術セ ンターの「演劇計画 II」にも委嘱劇作家として参加した。現代 の社会を切り取る優れた視点と、リサーチ、戯曲、演出これら の要素が今まで以上に相乗効果を生み出し、更なる活躍を 期待する。最終的な作品になるまでの過程も作品として提示 する実験の集大成として、2019年5月に本公演が行われた。

山本卓卓は2年間で、国際共同制作を通じて、多くを学び、 考えを深めた。2018年度には、日本に暮らす外国人や海外に ルーツを持つ人々と創作を共にする公演にも取り組んだ。一 方で、劇団公演に比べて、国際共同制作への観客の関心が低 いとの報告があり、公演に加えて、国際共同制作から得た知 見を観客にも伝え、関心を持ってもらえるような取り組みも必 要かもしれない。2019年度は米日・アジア間の国際的な芸術 交流のためのフェローシップを提供するアジアン・カルチュラ ル・カウンシル(ACC)のグランティーとしてニューヨークで調 査研究を予定しており、帰国後の変化、成果が楽しみである。

白神ももこは2年間を通じて、自主企画、キラリふじみのア ソシエイト・アーティストとしての活動、委嘱事業と幅広い活 動を行った。グループ活動のかんきつトリオ、ワーク・イン・プ ログレスなど新しい取り組みにも挑戦し、成果も得た。時間を かけて創作することも経験し、今後の創作にも継続されそう だ。2019年度からはキラリふじみの共同芸術監督にも就任し ており、地域とのかかわりや舞台芸術界に資する活動にお いてもリーダーシップを発揮してほしい。

MIKEYは、活躍と多忙になるタイミング、本人の中でダン スやパフォーマンスのとらえ方が変化する時期と助成期間が 重なった。フランスでツアーをしながら長期滞在を経て経験 値もあがり、更なる人気を実力とともに獲得している。これま でのダンスや振付以上に動きと一体となった音楽性を重視 したパフォーマンスを追求していくなかで次の展開に期待し たい。

#### シニア・フェロー

原則45歳以下を対象とするシニア・フェローでは、演劇分野から**糸井幸之介、シライケイタ**の2名が選抜された。

糸井幸之介は2004年の「FUKAIPRODUCE羽衣」旗揚げ 公演より、全作品の作、演出、音楽を手掛ける。芝居と音楽を 融合した「妙ージカル」と称する独自の手法で、一貫して「生・ 死・性・愛」をテーマに、オリジナル楽曲を使い、人間の根底 にある魅力や複雑な豊かさを表現する。2007年にサンモー ルスタジオ最優秀演出賞、2012年にCoRich舞台芸術まつ り!2012春グランプリを受賞。近年は木ノ下歌舞伎の演出も 手掛けている。2018年度は、劇団本公演のほか、商業演劇や 木ノ下歌舞伎の演出等、様々な仕事に取組んだ。

シライケイタは2010年、「劇団温泉ドラゴン」旗揚げ公演 にて脚本を執筆、第2回公演より演出も行っている。「生と死」 「人を愛するということ」「国家とは」など、骨太なテーマを扱 いながら、抒情的で繊細な作品作りが特徴。2014年に日本 演出者協会の若手演出家コンクール優秀賞および観客賞を 受賞。2015年に韓国の密陽国際演劇祭に招聘され、戯曲賞 を受賞。2018年に読売演劇大賞杉村春子賞を受賞。2018年 度は非常に多忙な1年で、劇団公演に加えて委嘱の仕事も 多く、数多くの劇評が出ている。

本年度で助成期間が終了したのは、劇作家、演出家の山 口茜、振付家、ダンサーの東野祥子の2名である。

山口茜は、関東では知る人が多くはなかった存在であった のが、3年間の助成期間に定期的に東京、神奈川、愛媛、沖縄 公演を実施し、その実力と存在が認められるようになった。特 に再演を重ねた『悪童日記』の評価は高く代表作となった。 劇団運営も、目的であった法人化を実現させ制作体制を整 備している。若手制作者の協力も得、2019年度には初の海外 公演も控える。今後も、様々な地域で上演を継続できる活動 と安定した劇団運営を期待している。

東野祥子は、ダンスのみならず音楽、演劇、美術、映像、 ファッション、CGなど幅広い分野のアートを巻き込み、オフィ スビルや講堂、街中などで回遊型パフォーマンスを展開。そ れ以外にもライブハウスなどで数多くのパフォーマンス公演 を行った。助成最終年度に実施した瀬戸内海に位置する岡 山県犬島全島を使っての公演は、その集大成とも言える。高 評価を得て、瀬戸内国際芸術祭2019での再演も決まった。 様々なアイデアを持ち機動力もあるので今後の活躍が益々 期待される。

それぞれの3年間の活動については、期間中、モニターを お願いした有識者の方に総括していただいた。

また、各フェローの本年度の活動概要については後述の データ編を参照されたい。

## 1. Contemporary Theater and Dance Saison Fellows

This program allows playwright, director, or choreographer grantees to use their grant money for activities other than those related to their theater or dance company. It is intended for grantees to use funds for holding performances as well as research and training or self-development so that they can expand themselves as artists. In addition to providing grant money, the program also offers support through providing the use of Morishita Studio and its guest rooms.

The number of applications for Junior Fellow grants in 2018 declined from previous years, due to such factors as people who had applied many times in the past not applying this time. Among dance applicants, though last year received several from street dance artists, this year had none.

#### Junior Fellows

For the Junior Fellow grant, which is given to artists aged 35 or younger, seven applicants were selected: **Satoko Ichihara, Yuichi Kinoshita, Takuro Suzuki, Kenichi Tani**, and **Takuya Murakawa** from the theater field; and **Kitamari** and **Ruri Mito** from dance. It was the second grant for Kitamari, who had previously been a Junior Fellow from 2009 to 2010, and also for Suzuki and Tani, who were 2016–17 Junior Fellows, while Kinoshita and Murakawa received grants for the third time, having previously received them for 2014–15 and 2016–17.

Satoko Ichihara founded her one-woman theater company Q in 2011. Capturing and reconstructing human actions as if observing animals, her plays relate a female perspective on the vitality of humanity that shines in a world of confusion as well as the absurdity of life. In 2011, she received the AAF Playwriting Prize. In 2013, she was selected for the Festival/Tokyo 2013 Emerging Artists Program. In 2017, she was nominated for the Kishida Kunio Drama Award and her work invited that same year to appear at the Seoul Marginal Theatre Festival. After another packed year in 2018 that saw her work staged in New York and a double bill at Kyoto Experiment, her career continues to go from strength to strength.

Following her work with the dance company Leni-Basso, Ruri Mito premiered *ESQUISSE*, which she directed and choreographed, in 2012, since when she has received top prizes at international competitions in Israel and Spain as well as the MASDANZA Prize at Yokohama Dance Collection EX 2014. Premiering *matou*, which she again both directed and choreographed, in 2015, she won another first prize at an international competition in Poland. Her work is enamored with the beauty of the body that transcends race, while also focusing on the particularly subtle nature of the Japanese body. In 2018, she staged *MeMe*, her first piece with a dance company, receiving much praise and further raising her profile as a choreographer.

In addition, six Junior Fellows reached the end of their two-year grants this year.

In 2018, Kishodai Kageyama changed his company's name from sons wo: to Gettingontheflyingsaucerists and aimed to expand his practice. Receiving the AAF Playwriting Prize in 2017 led to his plays being staged by other directors many times, while participating in the This is not the Theater festival in 2018 as one of the planners also meant that his activities and network broadened. We look forward to seeing how he will continue building up creative and management partners, and to the ways in which he further extends his activities in the future.

Kaori Nishio has spent the two years of her grant not only staging work but also pursuing a wide range of activities including workshops, study sessions, and research. With *Exhibition "Inside the Encephalon of Bird Park*," she presented her awareness of issues related to the theater creative process or staging formats in a style unlike a conventional performance. Her research in Malaysia seemed to yield a major theme that will appear in her subsequent playwriting. She also presented a work in a lecture performance format. The construction of a core team that can form the basis of her creativity is also one of the fruits of this. She looks set to continue searching for her own original form of theater.

Kensuke Yamamoto attempted a new kind of two-stage approach for holding workshops and presenting performances. He was also one of the playwrights commissioned to take part in Kyoto Art Center's Theater Project II. Producing previously unachieved levels of synergy between the elements of directing, playwriting, research, and superb perspectives extracted from contemporary society, his future endeavors also hold much promise. As the culmination of his experiment in presenting the creative process as an artwork in its own right, he held a performance in May 2019.

Suguru Yamamoto spent two years learning and deepening his ideas through international co-production. In 2018, he worked on a performance created jointly with foreign residents in Japan as well as people with roots overseas. Since he reported that audience interest in international co-productions was lower than for regular theater company performances, it seems necessary to build up a system whereby audiences develop an interest in the project and can see what insights are acquired by international co-productions besides the performance itself. In 2019, he plans to undertake research in New York as a grantee of the Asian Cultural Council, which offers fellowships for cultural exchange between America, Japan, and Asia, and we look forward to seeing the changes that result from this after he returns home.

Momoko Shiraga spent the two years of her grant working widely on her own projects, as an associate artist for Cultural Centre of Fujimi City / KIRARI FUJIMI, and on commissions. She also achieved some results by attempting new kinds of projects such as developing a work with the group Kankitsu trio. She valued the experience of taking time to create something and this approach looks set to continue in her future work. She was appointed as the vice artistic director of KIRARI FUJIMI in 2019 and we hope she continues to demonstrate her leadership in regard to developing regional connections and contributing to the performing arts.

For MIKEY, the grant coincided with an immensely busy period when his interpretation of dance and performance underwent changes. He gained valuable experience by staying overseas for a long time while touring in France, acquiring both further popularity and ability. We look forward to seeing how he develops next as he seeks out a performance style focused on musicality unified with movement much more than in his previous dance and choreography.

#### Senior Fellows

For the Senior Fellow grants, which are given in principle to artists aged 45 or younger, two applicants were selected from the theater field: **Yukinosuke Itoi** and **Keita Shirai**.

Yukinosuke Itoi has handled all the writing, directing, and music for the productions of FUKAIPRODUCEhagoromo since it was founded in 2004. Developing a unique "myo- sical" style fusing music and plays, he has continued to explore themes of life, death, sex, and love, employ original music, and express the complex richness and allure that lie at the core of humanity. In 2007, he won the Sun Mall Studio Best Director Award and, in 2012, the Spring Grand Prize at the CoRich Performing Arts Festival. He has recently also worked as a director for Kinoshita-Kabuki. In 2018, he was involved with a wide range of projects, including directing jobs for commercial theater and Kinoshita-Kabuki as well as staging the work of his own company.

Keita Shirai wrote the script for the debut production of Onsen Dragon in 2010 and, from its second production, also began undertaking directing duties. It has established a reputation for lyrical and subtle productions that nonetheless deal with robust themes like life and death, love, and the nation-state. In 2014, he won both the Excellence Prize and Audience Award at the Young Directors Contest by the Japan Directors Association. In 2015, he was invited to take part in the Miryang Summer Performing Arts Festival in South Korea, where he won the Best Script Award. In 2018, he won the Haruko Sugimura Prize at the Yomiuri Theater Awards. 2018 was an extremely busy year for him, with many commissions and reviews in addition to his work for his regular company.

This year also saw two Senior Fellows come to the end of their grants: the playwright and director Akane Yamaguchi and the dancer Yoko Higashino.

Akane Yamaguchi was relatively little known in the Kanto region, but gained recognition by regularly holding performances in Tokyo, Kanagawa, Ehime, and Okinawa over the three years of her grant. The performances and subsequent revival of *Le grand cahier*, in particular, were highly praised and established it as one of her major works. In terms of running her theater company, she was able to achieve her goal of incorporating it as a legal entity and reformed its production system. With the support of a young production team, she will present her first performance overseas in 2019. In the future, we hope she can stabilize the way her company is run and continue to stage her work in various regions.

Yoko Higashino developed a practice involving performances that "roam" around office buildings, halls, and the city itself, incorporating not only dance but also artistic elements from a wide range of fields such as music, theater, visual art, fashion, and computer graphics. In addition, she held many performances at other places like live music venues. The performance that she staged in the final year of her grant across the entire island of Inujima in the Seto Inland Sea could be regarded as the culmination of these efforts. It enjoyed a strong reception and will be revived at the 2019 Setouchi Triennale. As an artist, she is furnished with an array of ideas as well as impressive mobility, so we anticipate great things from her forthcoming activities.

We also received reports from experts commissioned to monitor the two grantees' activities over the past three years, which are published elsewhere in this report.

Further information on the activities of the Saison Fellows in 2018 is provided on the following pages.

#### 2018年度より From 2018



**市原佐都子** (劇作家・演出家 「Q」主宰)[演劇/ 東京]

#### Satoko Ichihara (playwright, director, artistic director of Q) [theater / Tokyo] http://qqq-qqq-qqq.com/

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで

▶2018年度の助成内容 金額:1,000,000円(公演、リサーチ、自己研修等に充当) スタジオ提供:17日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年4月:Q『地底妖精』東京(早稲田小劇場どらま館) 10月:Q『毛美子不毛話』『妖精の問題』 京都(「KYOTO EXPERIMENT 2018」公式プログラム) 11月:『毛美子不毛話』演出:Kristine Haruna Lee/Q『妖精の 問題』ニューヨーク(Segal Theatre「Japanese Playwrights Project」) 12月:韓国・香港・日本共同製作プレ公演『私とセーラームーンの

地下鉄旅行』ソウル(南山アートセンター)

#### Grant-receiving term

From 2018 to 2019

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.) Studio Rental: 17 days

#### Major activities during fiscal 2018

April 2018: *The underground fairy*, Q / Drama-Kan Theatre, Tokyo

October: Favonia's Fruitless Fable / The Question of Faeries, Q / Kyoto (Kyoto Experiment 2018)

November: Favonia's Fruitless Fable, directed by Kristine

Haruna Lee / The Question of Faeries, Q / Japanese

Playwrights Project, Segal Theatre, New York

December: *Me and Sailor Moon's Subway Trip* / South Korea, Hong Kong Japan co-production / Preview performances at Namsan Arts Center, Seoul



Q『妖精の問題』京都、2018年10月 <sup>撮影:前谷開</sup>提供:KYOTO EXPERIMENT事務局 *The Question of Faeries*, Q, in Kyoto, October 2018 Photo: Kai Maetani courtesy of Kyoto Experiment



#### **木ノ下裕一** (監修・補綴 「木ノ下歌舞伎」主宰) [演劇/京都]

#### Yuichi Kinoshita (supervisor, adapter, artistic director of Kinoshita-Kabuki) [theater / Kyoto] http://kinoshita-kabuki.org/ #8:mea Photo: Naoko Azuma

▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで

2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(法人化の費用、連続講座企画、リサーチ等の交 通費に充当) スタジオ提供:22日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年5月:コクーン歌舞伎『切られの与三』補綴 東京、長野(シアターコクーン、まつもと市民芸術館)

6月:木ノ下歌舞伎『三番叟』『娘道成寺』長野(まつもと市民芸術館) 11月:木ノ下歌舞伎『勧進帳』パリ(「ジャポニスム2018」公式企画) 秋の連続講座企画「キノカブの学校ごっこ」東京(YKK60ビルAZ1 ホール)

2019年2-3月:木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』京都、愛知、神 奈川(ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場) 講座・講義・執筆等多数

## Grant-receiving term

#### From 2018 to 2019

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for lecture series, etc.) Studio Rental: 22 days

#### Major activities during fiscal 2018

June 2018: *Sambaso / Musume Dojoji*, Kinoshita-Kabuki / Matsumoto Performing Arts Centre, Nagano November: *Kanjincho*, Kinoshita-Kabuki / Japonismes 2018, Paris

Lecture series, Kinoshita-Kabuki / YKK60 AZ1 Hall, Tokyo February–March 2019: *Sessyu Gappougatsuji*, Kinoshita-Kabuki / ROHM Theatre Kyoto; Toyohashi Arts Theatre PLAT, Aichi; Kanagawa Arts Theatre



木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』京都、2019年2月 <sub>撮影:東直子</sub> Sessyu Gappougatsuji, Kinoshita-Kabuki, in Kyoto, February 2019 Photo: Naoko Azuma



## 谷賢-

(作家、演出家、翻訳家 「DULL-COLORED POP」主宰)[演劇/東京]

#### Kenichi Tani

(writer, director, translator, artistic director of DULL-COLORED POP) [theater / Tokyo] http://www.dcpop.org 撮影:源賀津己 Photo: Katsumi Minamoto

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで

#### ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演、自己研修、リサーチに充当) スタジオ提供:42日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年4月:SMA\_Stage『High Life』演出 東京(あうるすぽっと) 7-8月:DULL-COLORED POP vol.18/福島3部作第1部先行上演 『1961年:夜に昇る太陽』福島、東京(いわき芸術文化交流館アリオ ス、こまばアゴラ劇場)

9月:リーディング・シアター『レイモンド・カーヴァーの世界』演出 兵庫(兵庫県立芸術文化センター)

11-12月:ワタナベエンターテインメント/ゴーチ・ブラザーズ『光より前に ~夜明けの走者たち~』作・演出 東京、大阪(紀伊國屋 ホール、ABCホール)

2019年2月:DULL-COLORED POP第19回本公演/新人加入記念 公演「あつまれ!『くろねこちゃんとベージュねこちゃん』まつり」東京 (新宿サンモールスタジオ)

#### Grant-receiving term

#### From 2018 to 2019

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performance, study, research) Studio Rental: 42 days

#### Major activities during fiscal 2018

April 2018: *High Life*, SMA\_Stage / Directing / Owlspot Theatre, Tokyo

July–August: Fukushima Trilogy Part 1, 1961: *Sun Rising in the Night*, DULL-COLORED POP #18 / Alios Iwaki Performing Arts Center, Fukushima; Komaba Agora Theater, Tokyo

September: Stage reading *Raymond Carver's World* / Directing / Hyogo Performing Arts Center

November-December: Two Runners-Before the Light,

Watanabe Entertainment / Gorch Brothers / Writing, directing / Kinokuniya Hall, Tokyo; ABC Hall, Osaka

February 2019: *A black cat and a beige cat*, DULL-COLORED POP #19 / Sun-mall Studio, Tokyo



DULL-COLORED POP vol.18/福島3部作第1部先行上演 『1961年:夜に昇る太陽』福島、2018年7月 <sub>撮影:田子和可</sub>

Fukushima Trilogy Part1 *1961: Sun Rising in the Night,* DULL-COLORED POP #18, in Fukushima, July 2018 Photo: KAZUSHI TAGO



#### **村川拓也** (演出家) [演劇/京都

[演劇/京都]

## Takuya Murakawa

(director) [theater / Kyoto] http://murakawatakuya.blogspot.jp/ 撮影:相模友士郎 Photo: Yujiro Sagami

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで

## ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演、ワークショップ、ウェブサイト制作に充当) •2018年度の主な活動

#### ▶2018年度の王な沽動

2018年6月:『インディペンデントリビング』ドイツ公演(「Festival Theaterformen」)

7月:ワークショップ+映画上映『北京を撮る』北京(蓬蒿劇場) 12月:『ムーンライト』京都(西文化会館ウエスティ・ロームシアター 京都企画「サーキュレーション京都」)

#### Grant-receiving term

From 2018 to 2019

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, workshop, website)

► Major activities during fiscal 2018

June 2018: Independent Living / Festival Theaterformen, Germany

July: *Document Beijing* / Penghao Theater, Beijing December: *Moonlight* / Kyoto City Nishi Culture Hall (ROHM

Theatre Kyoto, Circulation Kyoto)



『ムーンライト』京都、2018年12月 <sup>撮影:前谷開</sup> *Moonlight*, in Kyoto, December 2018 Photo: Kai Maetani



**きたまり** 

(振付家・ダンサー 「KIKIKIKIKIKI] 主宰)[舞踊/京都]

## Kitamari

(choreographer, dancer, artistic director of KIKIKIKIKI) [dance / Kyoto] https://ki6dance.jimdo.com/ 撮影:成田舞 Photo: Mai Narita

# ▶ 継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで ▶2018年度の助成内容

▶2018年度の助成内谷

金額:1,000,000円(公演、リサーチ、自己研修費に充当) スタジオ提供:2日間 ゲストルーム提供:3日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年6月:木ノ下歌舞伎『娘道成寺』振付・出演 長野(まつもと 市民芸術館)

 10月:「きたまりダンス食堂」京都(UrBANGUILD)
 12月:「名曲ダンサーズ」京都(UrBANGUILD)
 2019年1月:「きたまりダンス食堂」京都(UrBANGUILD)
 2月:『RE/PLAY Dance Edit』振付・出演東京(吉祥寺シアター)
 3月:『あたご』京都(右京ふれあい文化会館・ロームシアター京都 企画「サーキュレーション京都」)

## Grant-receiving term

From 2018 to 2019

## Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research ,study) Studio Rental: 2 days Guest Room Rental: 3 days

#### Major activities during fiscal 2018

June 2018: *MUSUME Dojyo-ji*, Kinoshita-Kabuki / Choreography, dance / Matsumoto Performing Arts Centre, Nagano

October: Kitamari Dance Cafeteria / UrBANGUILD, Kyoto December: Master Piece Dancers / UrBANGUILD January 2019: Kitamari Dance Cafeteria / UrBANGUILD February: *RE/PLAY* Dance Edit / Choreography, dance / Kichijoji Theatre, Tokyo

March: *ATAGO* / Kyoto Ukyo Fureai Culture Hall, Kyoto (ROHM Theatre Kyoto, Circulation Kyoto)



『あたご』京都、2019年3月 <sup>撮影:前谷開</sup> ATAGO, in Kyoto, March 2019 Photo: Kai Maetani



## スズキ拓朗

(振付家・ダンサー「CHAiroiPLIN」主宰) [舞踊/東京]

#### Takuro Suzuki

(choreographer, dancer, artistic director of CHAiroiPLIN) [dance / Tokyo] http://www.chairoiplin.net/ 撮影許要拖 Photo: Tasuku Konomi

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで 2018年度の助成内容 金額:1,000,000円(公演等に充当) スタジオ提供:115日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年4月:チャイロイプリン踊る小説『ERROR』(原作:太宰治「人間失格」) 東京(三鷹市芸術文化センター) 8月:としまアート夏まつり2018 子どもに見せたい舞台vol.12 おどる童話『ザ・ジャイアントピーチ』振付・構成・演出 東京(あう るすぽっと) 9月:オフィスコットーネ『US/THEM』振付・構成・演出 東京(小劇場B1)

11月:室蘭VOX『カモメのジョナサンのハクチョウの湖』(原作:リ チャード・バック「かもめのジョナサン」)振付・構成・演出 北海道 (室蘭市市民会館ホール)

2019年1月:チャイロイプリン 踊るシェイクスピア『TIC-TAC~ハム レット~』東京(東京グローブ座)

## Grant-receiving term

From 2018 to 2019

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, etc.) Studio Rental: 115 days

Major activities during fiscal 2018

April 2018: CHAiroiPLIN Dance Drama *ERROR*, based on *No Longer Human* by Osamu Dazai / Mitaka City Arts Center, Tokyo August: Dance Performance for Kids #12 Roald Dahl's *James and the Giant Peach* adapted for the stage by Takuro Suzuki, 2018 Toshima Art Summer Festival / Choreography, arrangement, directing / Owlspot Theatre, Tokyo

September: US/THEM, Office Cottone / Choreography,

arrangement, directing / Shogekijo B1, Tokyo

November: lake of the swan of Jonathan of the seagull, based on Jonathan Livingston Seagull by Richard Bach, Muroran VOX / Choreography, arrangement, directing / Muroranshi Shiminkaikan, Hokkaido

January 2019: CHAiroiPLIN Shakespeare *TIC-TAC—Hamlet /* Tokyo Globe Theatre



チャイロイプリン 踊るシェイクスピア『TIC-TAC〜ハムレット〜』 東京、2019年1月 <sup>撮影:福井理文</sup> CHAiroiPLIN Shakespeare *TIC-TAC - Hamlet*, in Tokyo, January 2019 Photo: Ribun Fukui



三東瑠璃

(演出家・振付家・ダンサー 「Co. Ruri Mito」主宰) [舞踊/東京]

## Ruri Mito

(director, choreographer, dancer, artistic director of Co. Ruri Mito) [dance / Tokyo] http://rurimito.com/

## ▶継続助成対象期間

2018年度から2019年度まで

## ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演等に充当) スタジオ提供:95日間 ゲストルーム提供:23日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年7月:ソロ作品『Matou』シンガポール(「M1 Contact Contemporary Dance Festival) 8月:「Rita Gobi x 三東瑠璃ダブルビル公演」にてグループ作品 『住処』初演 東京(セッションハウス) 10月:ソロ作品『Matou』long version 台北(「Kuandu Arts Festival I) 11月:ソロ作品『沈黙』秋田(「踊る。秋田 vol.4」土方巽記念賞エキ シビション公演) ソロ作品『Matou』高雄(「Taiwan Dance Platform」) 2019年2月:グループ作品『MeMe』東京(三鷹市芸術文化センター)

## Grant-receiving term

From 2018 to 2019

## Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances)

Studio Rental: 95 days

## Guest Room Rental: 23 days

Major activities during fiscal 2018

July 2018: Matou / M1 Contact Contemporary Dance Festival, Singapore

August: Sumika / Session House, Tokyo

October: Matou (long version) / Kuandu Arts Festival, Taipei Silence / Odoru Akita 4 (Tatsumi Hijikata Memorial Award Exhibition Performance). Akita

November: Matou / Taiwan Dance Platform, Kaohsiung February 2019: MeMe / Mitaka City Arts Center, Tokyo

## <u>2017年度より</u> From 2017



#### カゲヤマ気象台 (劇作家・演出家 「円盤に乗る派」主 宰)[演劇/東京]

Kishodai Kagevama (playwright, director, artistic director of Gettingontheflyingsaucerists) [theater / Tokyo] http://noruha.net/ 撮影:笠原玄也 Photo: Hiroya Kasahara

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2018年度まで

#### ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

## 2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演、リサーチ、自己研修等に充当) スタジオ提供:52日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年6-7月:円盤に乗る派『正気を保つために』静岡、東京(万年 橋パークビルhachikai、BUoY) 2019年1月: 『幸福な島の誕生』作・演出 東京 (フェスティバル

「これは演劇ではない」)

## Grant-receiving term

From 2017 to 2018

#### Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study, etc.)

Studio Rental: 52 days

#### Major activities during fiscal 2018

June–July 2018: To maintain sanity, Gettingontheflyingsaucerists /hachikai, Shizuoka; BUoY Arts Center Tokyo

January 2019: Birth of Happy Islands / Writing, directing / This is not the Theater festival, Tokyo



グループ作品『MeMe』東京、2019年2月 撮影:bozzo MeMe, in Tokyo, February 2019 Photo: bozzo



円盤に乗る派『正気を保つために』東京、2018年7月 撮影:濱田晋

To maintain sanity, Gettingontheflyingsaucerists, in Tokyo, July 2018 Photo: Shin Hamada



## 西尾佳織

(劇作家·演出家 「鳥公園」主宰) [演劇/東京]

#### Kaori Nishio

(playwright, director, artistic director of Bird Park) [theater / Tokyo] http://bird-park.info 撮影:引地信彦 Photo: Nobuhiko Hikiji

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2018年度まで

▶2018年度までの助成金額(単位:円)

# 2018年度 合計 1,000,000 2,000,000

#### 1,000,000 ▶2018年度の助成内容

2017年度

金額:1,000,000円(公演、リサーチに充当) スタジオ提供:14日間

#### 2018年度の主な活動

2018年5月:ワークショップ「一人でつくる」企画・運営 東京(スパ イラルホール)

西尾佳織ソロ企画『遠い親密』東京(スパイラルホール)

5-8月:マレーシアでからゆきさんをリサーチ/報告会:クアラルン プール、ジョージタウン(ファイブアーツセンター、シンケー)

12月:レクチャーパフォーマンス『なぜ私はここにいて、彼女たちは あそこにいるのか~からゆきさんをめぐる旅~』山口(YCAM「呼吸 する地図たち」展)

2019年3月:芸劇eyes plus『鳥公園のアタマの中展2』東京(東京 芸術劇場)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2018

Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research) Studio Rental: 14 days

#### Major activities during fiscal 2018

May 2018: Workshop "Creating Alone" / Facilitator / Spiral Hall, Tokyo

Solo performance *Far Intimacy /* Writing, directing, performing / Spiral Hall, Tokyo

May-August: Research Karayuki-san in Malaysia /

Presentation in Kuala Lumpur, Georgetown (Five Arts Centre, Sinkeh)

December: Lecture performance *Why I am here, why she is there—Journeys around Karayuki-san /* Text, directing, performing / YCAM, Yamaguchi

March 2019: Exhibition "Inside the Encephalon of Bird Park 2" / Tokyo Metropolitan Theatre



レクチャーパフォーマンス「なぜ私はここにいて、彼女たちはあそこにいるのか ~からゆきさんをめぐる旅~」山口、2018年12月 撮影:※商功

Lecture performance *Why I am here, why she is there* —*Journeys around Karayuki-san*, in Yamaguchi, December 2018 Photo: Yasuhiro Tani



## 山本健介

(劇作家・演出家 「The end of company ジェン社」主宰)[演劇/東京]

## Kensuke Yamamoto

(playwright, director, artistic director of The end of company Jiensha) [theater / Tokyo] http://elegirl.net/jiensha/

#### ▶継続助成対象期間

#### 2017年度から2018年度まで

#### ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

## ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演に充当)	
スタジオ提供:23日間	

#### ▶2018年度の主な活動

2018年12月:ジエン社13回公演『ボードゲームと種の起源・基本 版』東京(アーツ千代田3331)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2018

#### Amount of continuous grants (in yen)

[	2017	2018	Total
[	1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances) Studio Rental: 23 days

#### Major activities during fiscal 2018

December 2018: The Board Game and the Origin of Species, The end of company Jiensha / 3331 Arts Chiyoda, Tokyo



ジエン社13回公演『ボードゲームと種の起源・基本版』東京、2018年10月 <sup>撮影:刑部準也</sup>

The Board Game and the Origin of Species, The end of company Jiensha, in Tokyo, October 2018 Photo: Osakabe Junya



## 山本卓卓

(劇作家・演出家 「範宙遊泳」主宰) [演劇/東京]

#### Suguru Yamamoto

(playwright, director and artistic director of Theatre Collective HANCHU-YUEI) [theater / Tokyo] http://hanchuyuei.com

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2018年度まで

#### ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計	
1,000,000	1,000,000	2,000,000	
▶2018年度の助成内容			
金額:1,000,000円(公	演、リサーチ、自己研修	§に充当)	
フタジオ提供・23日間			

スタジオ提供:23日間 ゲストルーム提供:5日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年11月:ドキュントメント 映画『Changes』 東京(「フェスティバル/トーキョー18」) 範宙遊泳『#禁じられたた遊び』東京(吉祥寺シアター) 2019年1-2月:範宙遊泳『うまれてないからまだしねない』 東京(本多劇場)

#### Grant-receiving term

#### From 2017 to 2018

Amount of continuous grants (in yen)

	• •	
2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000
Details of support du	ring fiscal 2018	

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study)

Studio Rental: 23 days

Guest Room Rental: 5 days

#### Major activities during fiscal 2018

November 2018: DOCU(NT)ment *Changes* / Festival/Tokyo 2018 # *Forbidden Games*, HANCHU-YUEI / Kichijoji Theatre, Tokyo January–February 2019: *I can't die without being born*, HANCHU-YUEI / Honda Theater, Tokyo



範宙遊泳『#禁じられたた遊び』東京、2018年11月 <sup>撮影:鈴木竜一朗</sup>

# Forbidden Games, Theatre Collective HANCHU-YUEI, in Tokyo, November 2018 Photo: Ryuichiro Suzuki



# 白神ももこ

(振付家・演出家 「モモンガ・コンプ レックス」主宰)[舞踊/東京]

#### Momoko Shiraga

(choreographer, director, artistic director of Momonga Complex) [dance / Tokyo] http://momongacomplex.info/

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2018年度まで

▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

## ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演、自己研修に充当) スタジオ提供:20日間

## ▶2018年度の主な活動

2018年6月:キラリふじみ・ダンスカフェ『病める舞姫に向けて』白 神ももこ×長峰麻貴 埼玉(富士見市民文化会館キラリふじみ) 7月:かんきつトリオ(長峰麻貴、西井夕紀子、白神ももこ)「土方巽 著『病める舞姫』を上演する」東京(d倉庫企画「ダンスがみたい!」) 9月:モモンガ・コンプレックス『となりの誰か、向こうの何か。』ワー ク・イン・プログレス 東京(森下スタジオ) 10月:キラリふじみ・ダンスカフェ モモンガ・コンプレックス『とな りの誰か、向こうの何か。~キラリふじみバージョン』 埼玉(富士 見市民文化会館キラリふじみ) 2019年3日:モモンガ・コンプレックス『となりの誰か、向こうの何

2019年3月:モモンガ・コンプレックス『となりの誰か、向こうの何か。』神奈川(若葉町WHARF)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2018

#### Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performances, research and study) Studio Rental: 20 days

#### Major activities during fiscal 2018

June 2018: Kirari Fujimi Dance Café *For Sick Dancer*, Momoko Shiraga & Maki Nagamine / Cultural Centre of Fujimi City / KIRARI FUJIMI / Fujimi, Saitama

July: *Sick Dancer by Tatsumi Hijikata*, Kankitsu trio (Maki Nagamine, Yukiko Nishii, Momoko Shiraga) / Dance ga mitai!, Tokyo

September: Someone next to you, Something over there, work in progress, Momonga Complex / Morishita Studio, Tokyo October: Kirari Fujimi Dance Café Someone next to you, Something over there, Kirari Fujimi version, Momonga Complex / Cultural Centre of Fujimi City / KIRARI FUJIMI March 2019: Someone next to you, Something over there,

Momonga Complex / Wakabacho WHARF, Kanagawa



モモンガ・コンプレックス『となりの誰か、向こうの何か。』神奈川、2019年3月 撮影:北川姉妹

Someone next to you, Something over there, Momonga Complex, in Kanagawa, March 2019 Photo: Kitagawa sisters



## 牧宗孝/MIKEY

(演出家・振付家・ダンサー・音楽家 「東京ゲゲイ」主宰)[舞踊/東京]

#### Munetaka Maki / MIKEY

(director, choreographer, dancer, musician, artistic director of TOKYO GEGEGAY) [dance / Tokyo] http://tokyogegegay.com/ 撮影:ARISAK Photo: ARISAK

#### ▶継続助成対象期間

2017

2017年度から2018年度まで

#### ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

年度	2018年度	合計
938	1,000,000	1,999,938

## 999,938 ▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(パフォーマンス用音楽制作に充当) スタジオ提供:37日間 ゲストルーム提供:50日間

#### ッストルーム提供・JUI

▶2018年度の主な活動

2018年9-11月:「トリプルビル」参加 神奈川(「Dance Dance Dance@YOKOHAMA」)

「トリプルビル」参加 パリ、リヨン(「ジャポニスム 2018」公式企画) 12月:東京ゲゲゲイ『黒猫ホテル』日中平和友好条約締結40周年 記念事業 上海、北京(美琪大戯院、民俗劇院)

2019年1-3月:東京ゲゲゲイ歌劇団 vol.III『黒猫ホテル』全国ツ アー 東京、茨城、高知、愛知、宮城、大阪、福岡、広島、富山(太田 区民ホール・アプリコ、つくばノバホール、EXシアター六本木、高知 県立美術館、産業労働センター ウインクあいち、電力ホール、な んぱHatch、福岡国際会議場、広島 JMS アステールプラザ、オー バード・ホール)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2018

#### Amount of continuous grants (in yen)

	• •	
2017	2018	Total
999,938	1,000,000	1,999,938

## Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for creating performance music) Studio Rental: 37 days

Guest Room Rental: 50 days

## Major activities during fiscal 2018

September–November 2018: *TRIPLE BILL #1: French-Japanese collaboration project on hip-hop dance /* Dance Dance Dance @YOKOHAMA

TRIPLE BILL #1: French-Japanese collaboration project on hip-hop dance / Japonismes 2018, Paris, Lyon December: Black Cat Hotel, TOKYO GEGEGAY / Shanghai, Beijing January-March 2019: TOKYO GEGEGAY KAGEKIDAN III Black Cat Hotel national tour / Tokyo, Ibaraki, Kochi, Aichi, Miyagi, Osaka, Fukuoka, Hiroshima, Toyama



東京ゲゲゲイ歌劇団 vol.III『黒猫ホテル』全国ツアー 東京、2019年1月 <sub>撮影:ARISAK 提供:PARCO</sub>

TOKYO GEGEGAY KAGEKIDAN III *Black Cat Hotel* national tour, in Tokyo, January 2019 Photo: ARISAK Courtesy of PARCO

## 2018年度より From 2018



# **糸井幸之介**

(劇作家・演出家・音楽家 「FUKAIPRODUCE 羽衣」所属) [演劇/東京]

Yukinosuke Itoi (playwright, director, composer, member of FUKAIPRODUCE hagoromo) [theater / Tokyo] https://www.fukaiproduce-hagoromo.net/

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2021年度まで

▶2018年度の助成内容

金額:1,000,000円(公演、戯曲英訳、制作人件費等に充当) スタジオ提供:23日間

2018年度の主な活動

2018年5-6月:FUKAIPRODUCE羽衣第23回公演『春母夏母秋母 冬母』東京、愛知(吉祥寺シアター、穂の国とよはし芸術劇場PLAT) 8月:福島県立いわき総合高等学校 芸術・表現系列(演劇)第15 期生卒業公演『春母夏母秋母冬母-いわき総合高校ver-』作・演 出・音楽 福島(いわき芸術文化交流館アリオス)

11月:砂岡事務所プロデュース音楽劇 William Shakespeare 『Love's Labour's Lost』演出・音楽 東京(CBGKシブゲキ!!) 2019年2-3月:ロームシアター京都レパートリーの創造 木ノ下歌 舞伎『糸井版 摂州合邦辻』上演台本・演出・音楽 京都、愛知、神 奈川(ロームシアター京都、穂の国とよはし芸術劇場PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場

#### Grant-receiving term

From 2018 to 2021

- Details of support during fiscal 2018
- Grant: ¥1,000,000 (used for performance, translation, production coordination fee, etc.)
- Studio Rental: 23 days
- Major activities during fiscal 2018
- May–June 2018: *Mother in four seasons*, FUKAIPRODUCEhagoromo / Kichijoji Theatre, Tokyo; Toyohashi Arts Theatre PLAT, Aichi August: Iwaki Sogo High School Performing Arts Drama Course Graduation performance *Mother in four seasons* (Iwaki Sogot Ver.) / Playwriting, directing, music / Alios Iwaki Performing Arts Center, Fukushima

November: Sunaoka Production Produce *Love's Labour's Lost* / Directing, music / CBGK, Tokyo

February–March 2019: ROHM Theatre Kyoto's Repertory Premiere *Sesshu Gappo ga Tsuji* (Itoi Version), Kinoshita-Kabuki

/ Writing, directing, music / ROHM Theatre Kyoto; Toyohashi Arts Theatre PLAT, Aichi; Kanagawa Arts Theatre



FUKAIPRODUCE羽衣第23回公演『春母夏母秋母冬母』東京、2018年5月 <sup>撮影:金子愛帆</sup>

Mother in four seasons, FUKAIPRODUCEhagoromo, in Tokyo, May 2018 Photo: Manaho Kaneko



## シライケイタ

(劇作家・演出家 「劇団温泉ドラゴン」 所属)[演劇/東京]

#### Keita Shirai

(playwright, director, member of Onsen Dragon) [theater / Tokyo] https://www.onsendragon.com/

#### ▶継続助成対象期間

2018年度から2021年度まで

▶2018年度の助成内容 金額:1,000,000円(公演、パソコンに充当) スタジオ提供:22日間 ゲストルーム提供:11日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年4-5月:温泉ドラゴン『嗚呼、萬朝報!』演出 東京(高田馬 場ラビネスト)

5-6月:フリーハンド『女帝』脚本・演出 東京(CBGKシブゲキ!) 6-7月:劇団青年座『安楽病棟』脚本 東京(本多劇場) 7月:流山児事務所『満州戦線』演出 東京(ザ・スズナリ) 10月:新宿梁山泊『恭しき娼婦2018』脚色 東京(東京芸術劇場) 温泉ドラゴン『THE DARK CITY』脚本・演出 東京(ブレヒトの芝居小屋) 2019年3月:劇団俳小『殺し屋ジョー』演出 東京(シアターグリーン BOX in BOX)

#### Grant-receiving term

From 2018 to 2021

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥1,000,000 (used for performance, computers) Studio Rental: 22 days

- Guest Room Rental: 11 days
- Major activities during fiscal 2018

April–May 2018: *Oh, Yorozu Chouhou!*, Onsen Dragon / Directing / Takadanobaba RABINEST, Tokyo

May–June: *Empress*, Free hand / Writing, directing / CBGK Shibugeki!, Tokyo

June–July: *Mercy ward* / Seinenza / Writing / Honda Theater, Tokyo July: *Manchuria front*, Ryuzanji company / Directing / The Suzunari, Tokyo

October: *The Respectful Prostitute 2018*, Shinjuku Ryozanpaku / Adaptation / Tokyo Metropolitan Theatre

THE DARK CITY, Onsen Dragon / Writing, directing / Brecht no Shibaiqoya, Tokyo

March 2019: *Killer Joe*, Haishou / Directing / Theater Green (BOX in BOX), Tokyo



温泉ドラゴン『THE DARK CITY』東京、2018年10月 <sup>撮影:中山留理子</sup> THE DARK CITY, Onsen Dragon, in Tokyo, October 2018 Photo: Buriko Nakavama

#### 2017年度より From 2017



▶継続助成対象期間

2017年度

2,500,000

2018年度の助成内容

▶2018年度の主な活動

大阪、愛知(松竹座、御園座)

長野(まつもと市民芸術館)

2017年度から2019年度まで

2018年度までの助成金額(単位:円)

金額:2,500,000円(公演、団体運営に充当)

YJKT"』構成・演出助手 東京(歌舞伎座) 11月:木ノ下歌舞伎『勧進帳』演出・舞台美術

パリ(「ジャポニスム2018」公式企画)

演出神奈川(KAAT神奈川芸術劇場)

宣伝美術 東京(森下スタジオ)

スタジオ提供:79日間 ゲストルーム提供:61日間

2018年4-5月:スーパー歌舞伎II『ワンピース』演出助手

6月:木ノ下歌舞伎『三番叟』演出・美術、『娘道成寺』美術

8月:八月納涼歌舞伎 第二部『東海道中膝栗毛 "再伊勢参!?

12月:KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『オイディプスREXXX』

2019年3月:KUNI014『水の駅』演出・舞台美術・衣裳デザイン・

#### 杉原邦生

(演出家・舞台美術家 「KUNIO」主宰) [演劇/京都]

#### Kunio Sugihara

2018年度

2,500,000

(director, stage designer, artistic director of KUNIO) [theater / Kyoto] http://www.kunio.me/ 撮影:堀川高志 Photo: Takashi Horikawa

合計

5.000.000

**藤原ちから** (劇作家・演出家) [演劇/神奈川]

Chikara Fujiwara (playwright, director) [theater / Kanagawa] http://bricolaq.com/

#### ▶継続助成対象期間

#### 2017年度から2020年度まで

#### 2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
997,974	2,000,000	2,997,974

#### ▶2018年度の助成内容

金額:2,000,000円(リサーチ、事業、自己研修等に充当)

#### ▶2018年度の主な活動

2018年7月:『演劇クエスト・虹の按摩師』香港(香港アートセン ター・文化按摩師)

8-9月:『IsLand Bar』台北(「台北藝術祭」)

9月:『HONEYMOON』新潟、神奈川(妙高文化ホール、blanClass) 10月-2019年1月:『演劇クエスト・花の東京大脱走編』東京(早稲 田大学演劇博物館)

10月:「地域のアトリエ」#00 筆談会@土陽美術会展 #01 老い と演劇「OiBokkeShi」ドラマトゥルク・プロデューサー 高知(高 知県立美術館)

2019年2月:『演劇クエスト・トンブリーの名無し猫』バンコク (「Low Fat Art Fes vol.3」)

『IsLand Bar』神奈川(「TPAM Exchange」)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2020

#### Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total	
997,974	2,000,000	2,997,974	

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥2,000,000 (used for research, performances, etc.)

## Major activities during fiscal 2018

July: ENGEKI QUEST The Rainbow Masseur / Cultural Masseur, Hong Kong August–September: IsLand Bar / Taipei Arts Festival September: HONEYMOON / Myokoshi Bunka Hall, Niigata; blanClass, Kanagawa

October 2018–January 2019: ENGEKI QUEST Tokyo Exile / The Tsubouchi Memorial Theatre Museum, Waseda University, Tokyo February: ENGEKI QUEST No Name Cats in Thonburi / Low Fat Art Fes Vol. 3, Bangkok

IsLand Bar / TPAM Exchange, Kanagawa



『IsLand Bar』台北、2018年8月 撮影:Taipei Performing Arts Center *IsLand Bar*, in Taipei, August 2018 Photo: Taipei Performing Arts Center

Grant-receiving term From 2017 to 2019

#### Amount of continuous grants (in yen)

	5	
2017	2018	Total
2,500,000	2,500,000	5,000,000

#### Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥2,500,000 (used for performance, company management) Studio Rental: 79 days Guest Room Rental: 61 days

## Major activities during fiscal 2018

April–May 2018: Super Kabuki II *ONE PIECE* / Assistant director / Shochikuza Theatre, Osaka; Misonoza, Aichi

June: Sambaso, Kinoshita-Kabuki / Directing, stage design / Musume Dojoji / Stage design / Matsumoto Performing Arts Centre, Nagano August: Nouryo-Kabuki Tokaidochu-Hizakurige / Arrangement, assistant director / Kabukiza Theate, Tokyo

November: Kanjincho, Kinoshita-Kabuki / Directing, stage design / Japonismes 2018, Paris

December: *oedipusrexxx*, KAAT Productions / Directing / Kanagawa Arts Theatre

March 2019: *MIZU no EKI* (The Water Station), KUNIO 14 / Directing, stage design, costume design, publicity design / Morishita Studio, Tokyo



KUNI014『水の駅』森下スタジオ、2019年3月 場影:bozzo *MIZU no EKI* (The Water Station), KUNI014, at Morishita Studio, March 2019 Photo: bozzo



#### 前川知大

(劇作家・演出家 「イキウメ」主宰) [演劇/東京]

#### Tomohiro Maekawa

(playwright, director, artistic director of Ikiume) [theater / Tokyo] http://www.ikiume.jp/ 撮影:消忠之 Photo: Tadayuki Minamoto

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2020年度まで

▶2018年度までの助成金額(単位:円)				
2017年度	2018年度	合計		
524,000	1,727,332	2,251,332		

#### ▶2018年度の助成内容

金額:1,727,332円(戯曲翻訳、取材等に充当) スタジオ提供:4日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年5-6月:イキウメ『図書館的人生Vol.4 襲ってくるもの』東京、大阪(東京芸術劇場、ABCホール) 9月:現代演劇シリーズーリーディング 前川知大作『散歩する侵

略者』パリ(「ジャポニスム2018」公式企画)

10-11月:『ゲゲゲの先生へ』東京、長野、大阪、愛知、宮崎、福岡、 新潟(東京芸術劇場、松本市民芸術館、森/宮ピロティホール、穂 の国とよはし芸術劇場PLAT、メディキット県民文化センター、北九 州芸術劇場、りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館) 12月:イキウメ『カタルシツ演芸会・CO. JP』東京(スーパーデラックス)

## Grant-receiving term

From 2017 to 2020

#### Amount of continuous grants (in yen)

		- ·		
	2017	2018	Total	
	524,000	1,727,332	2,251,332	
Details of support during fiscal 2018				

Grant: ¥1,727,332 (play translation, research, etc.) Studio Rental: 4 days

#### Major activities during fiscal 2018

May–June: Toshokantekijinsei Vol. 4 Osottekurumono, Ikiume / Tokyo Metropolitan Theatre (Theatre East); ABC Hall, Osaka September: Contemporary Theater Reading Series Before We Vanish / Writing / Japonismes 2018, Paris

October–November: *Gegege no Sensei e* / Tokyo Metropolitan Theatre: Matsumoto Performing Arts Centre, Nagano; Morinomiya Piloti Hall, Osaka; Toyohashi Arts Theatre PLAT,

Aichi: Medikit Arts Center, Miyazaki; Kitakyushu Performing Arts Center, Fukuoka; Ryutopia Niigata City Performing Arts Center December: *CO. JP*, Ikiume / Super Deluxe, Tokyo



イキウメ『図書館的人生Vol.4 襲ってくるもの』東京、2018年5月 撮影:田中あき

Toshokantekijinsei Vol.4 Osottekurumono, Ikiume, in Tokyo, May 2018 Photo: Aki Tanaka



## **岩渕貞太** (振付家・ダンサー)

[舞踊/東京] Teita Iwabuchi

(choreographer, dancer) [dance / Tokyo] http://teita-iwabuchi.com/ 撮影:細川洁伸 Photo: Hironobu Hosokawa

# 継続助成対象期間 2017年度から2019年度まで

## ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
2,500,000	2,500,000	5,000,000

2018年度の助成内容 金額:2,500,000円(公演、自己研修費等に充当) スタジオ提供:21日間 2018年度の主な活動 2018年4月:ソロダンス『missing link』再演 宮城(せんだい演劇工房10-Box) 5月:ワークショップ「カラダを味わう。カラダのモードを探る。」 東京(森下スタジオ) 8月:現代音楽リサイタル「川島素晴works vol.2 by 神田佳子」 振付・演出協力 東京(豊洲シビックセンター) ワークショップ「カラダを味わう。カラダのモードを探る。」 東京(森下スタジオ) 8-9月:セゾン文化財団「Kiseki-Trajectories」参加 バッサー ノ・デル・グラッパ(イタリア)、パリ(ラ・ブリケトリ - ヴァル・ド・マルメ国立振付開発センターとMAC VAL美術館) 2019年1月:自主公演『残光|曙光』東京(BUoY) ゆる研(身体研究稽古)を年間を通して月に2~4回程度開催 神奈川(急な坂スタジオ)

#### Grant-receiving term

#### From 2017 to 2019

Amount of continuous grants (in yen)			
	2017	2018	Total
	2,500,000	2,500,000	5,000,000

# Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥2,500,000 (used for performance, research and study, etc.) Studio Rental: 21 days

## Major activities during fiscal 2018

April 2018: Solo performance *missing link*, revival / 10-BOX, Miyagi May: Workshop / Morishita Studio, Tokyo August: Contemporary classical music recital *Motoharu* 

Kawashima Works 2 by Yoshiko Kanda / Choreography, directing assistance / Toyosu Civic Center Hall, Tokyo Workshop / Morishita Studio, Tokyo

August–September: Japan Italy France Dance Exchange Program Kiseki–Trajectories, The Saison Foundation / Bassano del Grappa, Italy; La Briqueterie – Centre de développement chorégraphique national du Val-de-Marne, MAC/VAL Museum, Paris

January 2019: *TWILIGHT / DAWN /* BUoY Arts Center Tokyo Body research (YURU-KEN) held about 2–4 times a month throughout the year / Steep Slope Studio, Kanagawa



自主公演『曙光』東京、2019年1月 <sup>撮影:60</sup> DAWN, in Tokyo, January 2019 Photo:60



#### 平原慎太郎

(演出家・振付家 「OrganWorks」主宰) [舞踊/東京]

#### Shintaro Hirahara

(choreographer, dancer, artistic director of OrganWorks) [dance / Tokyo] http://theorganworks.com/ 撮影:SAKI MATSUMURA Photo: SAKI MATSUMURA

#### ▶継続助成対象期間

2017年度から2020年度まで

▶2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	2,000,000	3,000,000

## 2018年度の助成内容

金額:2,000,000円(公演、機材に充当) スタジオ提供:57日間 ゲストルーム提供:6日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年6月:「追手門高校表現コミュニケーションコース卒業制作 /For now END」大阪(茨木クリエイトセンター) 11月:まち×ひと×ダンスOrganWorks『語る町』北海道(飛生芸術祭) 12月:OrganWorks×Provisonal Danza『SEDA』東京(シアターX) 2019年1月:OrganWorks『聖獣』ツアー 愛知、広島(愛知県芸

術劇場、広島アステールプラザ)

2月:平原慎太郎 x G-Screw Dance Labo『GREASE03』東京 (座・高円寺)

#### Grant-receiving term

From 2017 to 2020

Amount of continuous grants (in yen)

2017 2017	5 IUlal
1,000,000 2,000,	3,000,000

- Details of support during fiscal 2018
- Grant: ¥2,000,000 (used for performance, etc.) Studio Rental: 57 days
- Guest Room Rental: 6 days

## Major activities during fiscal 2018

June 2018: Outemon High School Graduation Project For now END / Create Center Ibaraki, Osaka

December: SEDA, OrganWorks and Provisional Danza / Theater X, Tokyo

January 2019: Live with a sun, OrganWorks / Aichi Prefectural Art Theater; JMS Aster Plaza, Hiroshima

February: GREASE03, Shintaro Hirahara and G-Screw Dance Labo / ZA-KOENJI Public Theatre, Tokyo



OrganWorks×Provisonal Danza『SEDA』マドリッド、2018年10月 撮影:ラウラ・ロペス

SEDA, OrganWorks and Provisonal Danza, in Madrid, October 2018 Photo: Laura Lopez



#### 山口茜

(劇作家・演出家 「トリコ・A・プロデュー ス」「サファリ・P」主宰)[演劇/京都]

#### Akane Yamaguchi

(playwright, director, artistic director of Toriko A / Safari P) [theater / Kyoto] http://toriko-a.com/

#### ▶継続助成対象期間

2016年度から2018年度まで

# ▶2018年度までの助成金額(単位:円) 2016年度 2017年度 2018年度 合計 2,500,000 2,500,000 3,000,000 8,000,000 ▶2018年度の助成内容

金額:3,000,000円(公演、役員報酬に充当) スタジオ提供:15日間 ゲストルーム提供:30日間

#### ▶2018年度の主な活動

2018年5-6月:トリコ・A演劇公演2018『私の家族』大阪(ウィング フィールド)

12月:サファリ・P第四回公演『財産没収』京都、愛媛、沖縄、東京 (seed box、シアターねこ、銘苅ベース、こまばアゴラ劇場) 2019年2-3月:サファリ・P第五回公演『悪童日記』大阪、神奈川、京 都(八尾プリズムホール、横浜美術館、京都府立文化芸術会館)

#### Grant-receiving term

From 2016 to 2018

Amount of continuous grants (in yen)

[	2016	2017	2018	Total		
	2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000		
	Details of support during fiscal 2019					

Details of support during fiscal 2018

Grant: ¥3,000,000 (used for performances, etc.) Studio Rental: 15 days Guest Room Rental: 30 days

## Major activities during fiscal 2018

May–June 2018: *Our Family*, Toriko A 2018 / Wing Field, Osaka December: *This property is condemned*, Safari P #4 / seed box, Kyoto; Theatre Neko, Ehime; Mekaru Base, Okinawa; Komaba Agora Theater, Tokyo

February–March 2019: *Le grand cahier*, Safari P #5 / Yao Prism Hall, Osaka; Yokohama Museum of Art; Kyoto Prefectural Center for Arts & Culture



サファリ・P第二回公演『悪童日記』京都、2017年3月 <sup>撮影:堀川高志</sup> *Le grand cahier*, Safari P, in Kyoto, March 2017 Photo: Takashi Horikawa

山口茜の2016-2018年度の活動について 古後奈緒子(舞踊史研究・批評)

この3年間は、山口がトリコ・Aの傍ら立ち上げたサファリ・Pの 『悪童日記』に始まり、ちょうどその本拠地での再演を見届けて終わ る格好となった。その間の発展は再演地数とその会場規模の拡大 にも端的に表れている。アトリエ劇研という歴史的小劇場(2017年 8月末閉館)に始まり、八尾プリズムホール(390席)の演劇助成事 業に採択され、横浜美術館レクチャールーム(240席)でTPAMフリ ンジに参加、京都府立芸術文化会館(410席)もほぼ満席で、この 後もコソヴォFEMART festivalへの招聘、瀬戸内国際芸術祭2019 への参加と、上演機会が続いている。その意義は山口の劇作、演出 の手腕を認めるプロデューサーと観客が増えたことにとどまらな い。『財産没収』『私の家族』他と併せて展開された問題意識と方法 論が、広い意味でのアクセシビリティとの取り組みと功を奏して関 心を持続させてゆくならば、ジャンルの発展に資するところも少な くない。

手法上の展開は、3作品に共通する主題の掘り下げに伴って認 められる。山口が戯曲を手がけるトリコ・Aの『私の家族』は、同時代 に起こった連続殺人事件を取材し、犯罪で生計をたてる疑似家族 をつなぐ支配の関係を、それを普通とする側の視点から緻密に描 き出し、次第に異化してゆく作劇を行った。アクターとダンサーと協 働するサファリ・Pでは、カンパニー・デラシネラなどで見せていた フィジカルシアターのドラマトゥルクの手腕を、個別作品の演出の みならず、サファリ・Pという新たなプロジェクトのマネジメントを含 めて大きく発展させている。その際、人物と演者の同一性やその場 所の一貫性といったドラマ演劇の約束事を揺るがせ、観客との関 係も更新するとともに、新たな解釈を提出した。例えば『財産没収』 では、登場人物と会話に出てくる人物を「だまし絵」のように舞台空 間に具現化し、彼らとの同一化と棄却の間の揺れに、原作者の芸 術創造をとおしてのカミングアウトを浮かび上がらせた。『悪童日 記』では、小説の文体に、語り手である主人公の感覚の抑圧や閉 錯性、繰り出される冷酷な行為への契機、読者の支持を得る魅力 の源などを読みこみ、言うなればそのファシズムに通じる政治性 を、刈り込まれた台詞と象徴的に示唆される暴力、そしてアスリート のように体のきくダンサーたちのスペクタクルなアクトに具現化し た。以上のように、支配に関わる歪んだ認知の形成、共有、そこから の解放という問題系は、「書く女」の芸術とフィジカルシアターの手 法とともに、今後も注目される。



サファリ・P第四回公演『財産没収』京都、2017年8月 撮影:堀川高志

*This property is condemned*, Safari P #4, in Kyoto, August 2017 Photo: Takashi Horikawa
## Akane Yamaguchi's Activities 2016-2018 Naoko Kogo, Dance Researcher, Critic

These past three years started with a production of *Le* grand cahier by Safari P, a group that Akane Yamaguchi set up alongside her other troupe, Toriko A, and then concluded with a revival of the same play, once again in Kyoto, where she is based. In the interim, she greatly expanded both the locations for her performances as well as the scale of the venues. Beginning at the long-established fringe theater atelier GEKKEN (closed in August 2017), her opportunities to perform her work continued when she was selected for the theater subsidy program at Yao Prism Hall (capacity: 390), participated in the TPAM Fringe program with a production at the Yokohama Museum of Art's Lecture Hall (capacity: 240), and then almost filled the Kyoto Prefectural Center for Arts and Culture (capacity: 410), before going on to take part in the FemArt festival in Kosovo and the Setouchi Triennale 2019. The significance of this is not simply an increase in the number of audiences and producers who acknowledge her playwriting and directing skills. With the productions of *This property is condemned*, *Our Family*, and others, she has developed an awareness for social problems as well as approaches that can be connected, in the widest sense, to initiatives in theater accessibility and expanding audiences, which will then make the audiences more varied.

The evolution of method can be discerned alongside her delving into themes shared across the three plays. *Our Family*, which Yamaguchi wrote for Toriko A, is based on research into a recent serial killer incident, intricately depicting the power relations within a pseudo-family that makes a living through crime from the perspective of this as something utterly normal, and then gradually defamiliarizing things. For Safari P, which partners actors with dancers, she greatly developed her physical theater dramaturgy abilities previously demonstrated with the likes of Company Derashinera not only in terms of directing the individual plays but also into the management of this new Safari P project. This entails shaking up the conventions of drama—namely, the identity of a person with an actor, and consistency of place—and renewing the relationship with the audience, alongside presenting entirely fresh interpretations. In This property is condemned, for instance, the figures who appear in the conversation between the characters are realized onstage like trompe l'oeil, foregrounding, in the instability that lies between rejection and identification with them, how the writer of the source text was coming out through his art. In Le grand cahier, Yamaguchi decodes in the literary style of the original novel the narrator and protagonist's sensory suppression. self-enclosure, repeated opportunities to perform acts of cruelty, and the source of his appeal to the reader, realizing the political nature, so to speak, leading to fascism in the act of spectacle by the athletic dancers, the symbolically suggested violence, and the clipped dialogue. As the above shows, the problems of forming and sharing warped cognition related to control, and of liberation from it, will attract further attention in the future along with the physical theater techniques and art of this "woman who writes."



トリコ・A演劇公演2018『私の家族』大阪、2018年6月 <sup>撮影:松本成弘</sup> *Our Family*, Toriko A 2018, in Osaka, June 2018 Photo: Naribiro Matsumoto



サファリ・P第五回公演『悪童日記』京都、2019年2月 <sup>撮影:松本成弘</sup> *Le grand cahier*, Safari P #5, in Kyoto, February 2019 Photo: Narihiro Matsumoto

## 東野祥子



(振付家・ダンサー 「ANTIBODIESCollective」主宰)[舞踊/京都]

#### Yoko Higashino

(choreographer, dancer, artistic director of ANTIBODIES Collective) [dance / Kyoto] http://www.antibo.org/ 撮影:Fuzzy Photo: Fuzzy

## ▶継続助成対象期間

- 2016年度から2018年度まで
- ▶2018年度までの助成金額(単位:円)

   2016年度
   2017年度
   2018年度
   合計

   2,500,000
   2,500,000
   3,000,000
   8,000,000
- ▶2018年度の助成内容 今 5 · 2 000 000円(小)
- 金額:3,000,000円(公演、機材に充当) スタジオ提供:23日間
- ▶2018年度の主な活動

2018年4月:『ALVIN LUCIER & Ever Present Orchestra、 ANTIBODIES Performance』京都(西部講堂) ANTIBODIES Dance Workshop in 森下スタジオ 東京(森下 スタジオ)

ANTIBODIES Collective『エントロピーの楽園』神奈川(横浜赤 レンガ倉庫1号館)

6月:『惑星共鳴装置』インスタレーション&パフォーマンス 演出・ 振付・出演 愛知(「橋の下世界音楽祭」) 10月:ANTIBODIES Collective『エントロピーの楽園』犬島公演

岡山(犬島全域・自由回遊形式) 2019年2月:『カセット100』(ホセ・マセダ作曲、1971)演出・振付

- 神奈川(「TPAM2019」TPAMディレクション)
- イベント出演、ワークショップ等多数

#### Grant-receiving term

- From 2016 to 2018
- Amount of continuous grants (in yen)

2016	2017	2018	Total	
2,500,000	2,500,000	3,000,000	8,000,000	

- Details of support during fiscal 2018
   Grant: ¥3,000,000 (used for performances, etc.)
   Studio Rental: 23 days
- Major activities during fiscal 2018

April 2018: Alvin Lucier & Ever Present Orchestra, ANTIBODIES Performance / Kyoto University Seibu Hall

ANTIBODIES dance workshop / Morishita Studio, Tokyo

*Entropical Paradise*, ANTIBODIES Collective / Yokohama Red Brick Warehouse No. 1, Kanagawa

June: Installation and performance *Universal Mojulater /* Hashinoshita World Music Festival, Aichi

October: Entropical Paradise, ANTIBODIES Collective / Inujima, Okavama

February 2019: Cassette 100, composed by José Maceda (1971) / Directing, choreography / TPAM 2019 (TPAM Direction), Kanagawa



ANTIBODIES Collective 『A界隈』東京、2016年5月 <sup>撮影:Bozzo</sup> A - KA/WAI, ANTIBODIES Collective, in Tokyo, May 2016

A – KAIWAI, ANTIBODIES Collective, in Tokyo, May 2016 Photo: Bozzo 東野祥子の2016-2018年度の活動について 古後奈緒子(舞踊史研究・批評)

東京を拠点に活動してきた東野祥子ANTIBODIES Collective にとって、京都に拠点を変更した後の3年間であった。それ以前か ら、東野は街頭における様々なアクションとも連動し、表現活動の 文脈を社会の境界へ押し広げてきたため、報告者が目撃し得たの は、多岐にわたるその展開の僅か一部に過ぎない。一貫するのは、 反スペクタクルにとどまらない権力の分散、空間や群衆の身体の 扱いにおける脱中心化の姿勢である。それに対し、作品毎に異なる 場所の特性が、個別の社会的文脈の発見から、パフォーマンスの空 間を多元化する新たな手法へつながっているように見受けられる。

『A界隈とは何だったのか』においては、パフォーマンスを通して 異種混淆郷のような相貌を帯びた公共空間の記憶を、西部講堂で は空間に散らばるパフォーマー、ギャラリーUWUではランダムに組 んだモニタやプロジェクタの映像で再生した。観客は、二つの場所 を行き来しながら異なる媒体で再生された空間の論理を照応させ ることができた。『残響』は、この『A界隈〜』で西部講堂に実現され た音響環境に、ミュージシャン灰野敬二のアクトを拮抗させた。それ により、全般に舞台と客席の間を仕切らないANTIBODIESの作品 において、観客の回遊行動に作用する別の極を生みだしたように 思われる。舞台という注目の焦点をつくりながら、鑑賞者の個人と 集団の身体の秩序をかく乱する試みは、『エントロピーの楽園』の横 浜公演で先鋭化された。この作品では、久しぶりに集団の振付によ るステージアクトが展開されたが、同時に客席に浴びせられるサー チライトにより、鑑賞を妨げられる。また後半の回遊型場面において は、異形のパフォーマーによる観客の巻き込みも、強めに行われた。

以上の3公演において展開されてきた、空間における臨界領域 へのアクセスや、危機による群衆の組織は、犬島公演において具 体的な文脈を得たように思われる。それまで身体スケールを超え、 やや抽象的に感じられていた体系が、身近な社会のシステムにか かわる問題として前景化された。島全体をつかった回遊では、公道 からそれた場所でパフォーマンスが行われたことで、観客に自由な 回遊にとどまらぬ越境が促されていた。また、過去の芸術祭では開 拓されてこなかった場所、ツアー型鑑賞においては危険と避けら れるような場所が利用され、犬島の「境界 | 臨界」としての新たな側 面が発見された。以上の場所と戦略の異なる公演においては、お なじみの異形が登場し、時空間構成、技芸の配分における脱中心 化の方針も共通している。それにより空間の文脈の違いや活動の 変化が際立たせられたように思われる。



ANTIBODIES Collective『残響』京都、2017年7月 <sup>撮影:井上嘉和</sup>

*Reverberation*, ANTIBODIES Collective, in Kyoto, July 2017 Photo: Yoshikazu Inoue

## Yoko Higashino's Activities 2016-2018 Naoko Kogo, Dance Researcher, Critic

These three years came after Yoko Higashino's ANTIBODIES Collective had relocated from its previous base in Tokyo to Kyoto. Since Higashino coordinated with various actions she had already been performing in the city and expanded the contexts of her artistic activities to the borders of society, what the writer of this report was able to witness was merely a fraction of that wide-ranging development. Running throughout was a decentralized approach in terms of how she dealt with the body of the crowd, with space, and with a dispersion of power that went beyond simply anti-spectacle. By contrast, the site-specificity that varied with each work seems, in the discovery of individual social contexts, to connect the space of the performance to new, diversifying methods.

In What was "A KAIWAI" ?. the memory of public space bearing the appearance through the performance almost of a heterogeneous and chaotic place was recreated at Seibu Hall in Kyoto in the scattered performers in the space and, at Gallery UWU, in randomly assembled monitor and projector footage. The audience could pass between these two locations, corresponding with the logic of space replayed through different media. Reverberation antagonized musician Keiji Haino's act in the sound environment that What was "A KAIWAI" ? had realized in Seibu Hall. Accordingly, in the work of ANTIBODIES Collective where there is generally no division between the audience and the stage, an alternate pole seemed to emerge that worked on the migratory actions of the audience. This attempt to disturb the order of the individual viewer and mass body while creating the focus of attention that is the stage was fully refined in the Yokohama performances of Entropical Paradise. This piece featured, for this company, the rare development of a stage act

through group choreography, though simultaneously hindering the viewing experience through shining searchlights on the audience seating. In the second half, moreover, where the audience moved around the venue, the fantastical performers also forcefully pulled the audience into the experience.

The organization of the multitude through crisis and the entry into a threshold spatial territory developed over the course of the three performances above seemed to achieve a concrete context in the performance staged on the island of Inujima. Surpassing the previous physical scale, the setup that felt almost abstract was foregrounded in terms of problems related to familiar social systems. During the migration that utilized the entire island, the performance took place at locations that deviated away from the public roads, encouraging the audience to transgress boundaries in ways that went beyond merely wandering around freely. Employing places not yet developed for use at past arts festivals on the island as well as sites avoided in tour-style art projects for being potentially dangerous, the performance discovered new aspects of Inujima's boundaries and thresholds. Though their locations and strategies varied, the aberrations that appeared in the performances above were familiar, while they also shared a policy of decentralization in the construction of time and space and in the distribution of the artistic craftsmanship. In this way, the differences in the spatial contexts and shifts in activity seemed to be accentuated.



ANTIBODIES Collective『エントロピーの楽園』神奈川、2018年4月 <sup>撮影:Bozzo</sup>

Entropical Paradise, ANTIBODIES Collective, in Kanagawa, April 2018 Photo: Bozzo



ANTIBODIES Collective『エントロピーの楽園』犬島公演 岡山、2018年10月 <sup>撮影:井上嘉和</sup> Entropical Paradise, ANTIBODIES Collective, in Inujima, Okayama, October 2018 Photo: Yoshikazu Inoue

本プログラムは、日本を拠点に活動する劇作、演出、振付 の専門家として、一定の評価を受けているアーティストに、サ バティカル(休暇・充電)期間を設け、海外の文化や他分野を 含む芸術などに触れながら、これまでの活動を振り返り、さら に今後の展開のヒントを得てもらうことを目的としている。

2018年度は、桑原裕子の「しっかり立ち止まり、思いきり脱線し、『自分のための時間』を深く体感する時間。」を支援した。

桑原は約20年間続けてきた劇団「KAKUTA」の休止期間 にサバティカルを実施。今の自分が興味を持つこと、求める こと、自然に吸収していくことを純粋に探究し、創作活動にお ける慢性的な疲労と視野の閉塞から脱出することを目指し た。複数の国を訪問し、様々な人と交流、観察することで、改 めて人間への関心を再確認し、演劇にも気持ちが向かったよ うだ。

2019年度には劇団活動の本格的な再開の他、穂の国とよ はし芸術劇場PLATの芸術文化アドバイザー等、様々な活動 が予定されており、一層の活躍が期待される。

## 2. Contemporary Theater and Dance Sabbatical Program

This program offers a sabbatical period for Japan-based artists who have established a certain level of status as specialists in the fields of playwriting, director, or choreography, aiming to provide opportunities for them to come into contact with overseas culture and arts from their own and other fields while also looking back over their activities to date and acquiring insights for their future development.

In the 2018 fiscal year, the program provided a grant for Yuko Kuwabara to "stop and get away from everything" and "truly experience 'me time.""

Kuwabara accordingly put her theater company, KAKUTA, which she has run for around 20 years, on hiatus and went on sabbatical. She aimed to fully seek out her current interests and desires as well as naturally absorb things, while also escape from the chronic fatigue and occlusion of perspective that accompanies creative work. By visiting many countries and interacting with and observing various people, she could reconfirm her interest in the human condition and renew her zeal for the theater.

In 2019, her many plans include relaunching her company as well as serving as culture and arts advisor for Toyohashi Arts Theatre PLAT.



撮影:相川博昭 Photo: HIROAKI AIKAWA

#### ▶桑原裕子

しっかり立ち止まり、思いきり脱線し、 「自分のための時間」を深く体感する時間。 2018年7月4日-8月4日 アメリカ・フランス・スウェーデン・フィンランド 1,000,000円

#### ▶Yuko Kuwabara

A sabbatical for truly experiencing "me time," for stopping and getting away from everything July 4 – August 4, 2018 U.S.A, France, Sweden, Finland ¥1,000,000



ルート66出発点、2018年7月 Starting Point of Route 66, July 2018



ヒストリックルート66、2018年7月 Historic Route 66, July 2018



ウパトキ国定公園、2018年7月 Wupatki National Monument, July 2018



アムトラック車窓の風景、2018年7月 A scene from an Amtrak train window, July 2018



クングスタン(ストックホルム)、2018年7月 Kungsgatan, Stockholm, July 2018



スオメンリンナ島の水上要塞(フィンランド)、2018年7月 Fortress of Suomenlinna, Finland, July 2018

創造環境イノベーションは、現代演劇・舞踊界が現在抱え ている問題点を明らかにし、その創造的解決を目指した新規 事業に対して支援する。当財団で課題を設定する「課題解決 支援」、および新規事業の立ち上げを支援する「スタートアッ プ支援」の2つのカテゴリーで公募した。「課題解決支援」の 2018年度のテーマは2016年度から引き続き「舞台芸術の観 客拡大策」とした。2018年度は両カテゴリーで7件の事業に 対して助成を行った。

「課題解決支援」は新たに2件の事業を支援した。京都国際 舞台芸術祭実行委員会の「多様な観客を創造する-英語を 活用した"飛び石"プロジェクト」は、日本において舞台芸術に 触れたことのない、日本に暮らす英語話者が新たな観客層と なるよう、国際舞台芸術祭KYOTO EXPERIMENTに辿り着く までの飛び石(手段)を作る事業。「ヴァーチャル飛び石」では SNSやウェブサイトを通じてフェスティバルを知ってもらうた め、効果的な文体を作り出すための実践的なワークショップ を開催し、SNSを担当する3名のアンバサダーを起用した。 「リアル飛び石」はフェスティバルと観客の交流の場となる ミーティングポイントを設置し、前夜祭イベントではアンバサ ダーが来場者と交流を図ることで関心を高め、チケットを購 入して来場してもらうことを目指した。全有料公演の来場者数 に対する外国語話者来場者数の割合が2017年度の3.48%か ら5.65%に増えていることは成果が表れている証でもあり、 2020年度には10%という目標も達成してほしい。地点の「観劇 観能エクスチェンジ・プログラム は、現代演劇と伝統芸能(能 楽)を横断する観客を養成する事業。現代演劇の観客には観 能の機会を、能楽ファンには現代演劇に触れてもらう機会を 提供し、舞台芸術鑑賞の素養を備えた層をターゲットとして、 それぞれのジャンルでコアな観客を新たに開拓する。また、 企画者向けのプログラムとして、広報・宣伝の研究会を実施 する。現代演劇、能のいずれかに関心を持つ観客にアピール するという仮説が実際とは異なっていたため、今後に向けて、 プログラム内容の見直しが行われた。引き続き、双方の観客 に対する、より丁寧な働きかけが求められる。能には現代演 劇とは異なる慣習や状況もあるが、この事業を通じて能楽関 係者との交流や企画につながっており、長期的な視点で成果 を捉える必要もありそうだ。企画者向けの研究会では、観客 拡大策、ターゲティング、価格設定について講師を招いて学 ぶ機会を作った。参加者間の交流を通じて、新たなアイデア が生まれることにも期待している。

「スタートアップ支援」では新たに2件の事業に対して助成 を行った。**S20**の「振付家ワークショップ vol.1」は、振付を芸 術として教育する環境が少ない日本において、振付の方法を 教える・学ぶのではなく、国内外で活躍するプロデューサー、 技術関係者、ジャーナリストなどを招き、振付について多角的 に検討・議論することで、参加者が自分のアイデアの発展の させ方、作品の具現化の方法を模索する場を設け、国際的に 通用する振付家を育成する事業。少人数制で、多角的な視野 で振付を学び、考えられる機会が提供されていた。作品のア イデアを口頭でプレゼンテーションする回など、日本ではまだ 珍しいワークショップも設定されており、参加者にとって、作 品について考えを深め、他の人に伝える訓練として貴重な機 会だったのではないか。また成果発表までに複数の中間発表 があり、作品を練り上げることも体験できたと思う。助成期間 中にこのようなプログラムに賛同し、連携していける組織が見 つかるとよい。アーツシード京都の「プロジェクト『Theatre E9 Kyoto』は、京都において近年劇場が相次いで閉館し、 それによって若い芸術家と専門家の流出、また観客の劇場離 れが懸念される中、新たな機能を備えた小劇場を設立し、上 演・観劇・人材育成の機会を提供して行くことを目指す事業。 2回のクラウドファンディングは目標額に達し、大口の寄付も 得られるなど、多くの人の賛同、支援を得ることに成功し、 2019年6月に開館した。開館前から民間劇場の公共性を考え るシンポジウムやレクチャー、地域の子供向けワークショップ 等も開催し、舞台芸術関係者や地域住民との関係作りにも注 力している。コワーキングスペースとカフェの運営団体との事 業も予定しており、開館後の運営基盤構築につながることが 期待される。

2年目の助成となったダンス保育園!!実行員会による「ダ ンス保育園!!」は、子育てをしながら創作活動に取り組む舞 踊家や関係者と、子育て中も芸術鑑賞を楽しみたい観客層な ど多様な立場の人々を応援する「仕組みづくり」を目的とする 事業。長期的にはスタジオ、ワークショップ、託児スペースを 併設した新しい形の複合施設の業態提案につなげることを 目指す。2018年度は、実施地域の広がり、企業から関心を得 られたこと、「ママ・ダンサーズ」など活動に広がりが見られ、 今後の発展やパートナーシップの可能性につながった。東 京・新宿区にある東長寺から会場協力を得られるようになっ たのに加え、柔軟なアイデアによって助成終了後も活動の継 続ができるための運営体制作が作れるとよい。

今年度で2つの事業が助成最終年度となった。アートネット ワーク・ジャパンによる「立川市南側エリア創客プロジェクト」 は、廃校を利用した「たちかわ創造舎」を拠点に、行政、公共 ホール、商工会議所、商店街、学校、図書館等が横断的に連 携して演劇を通した事業を実施することで相乗効果を高め、 コミュニティの再生という地域課題に寄与すると共に演劇の 創客へつなげていこうとしている。気軽に楽しめる「よみしば い」スタイルの演劇である「ほうかごシアター」、クリスマス公 演とも参加者が増えているという明確な成果に加え、市民団 体からのほうかごシアターの依頼、立川市教育委員会や市内 の小学校に広がる、演劇をコミュニケーション教育に活かす ことへの認識など、幅広い広がりも大きな成果であり、今後の 可能性を感じる。容易にはアプローチが届かないこともある 中、パートナーシップを築けそうな施設や人に対するアンテ ナを張っておく必要性に気づいたことも重要だ。今後はます ます多面的に展開が予定されている。姜侖秀の「インターナ ショナル・シェアハウス「テ(照)ラス||は、岡山県真庭市の空 き家をシェアハウスとして改装し、ワーキングホリデー等で来 日する外国人などに有償で滞在してもらい、一室をアーティ スト1名に無償提供し滞在してもらうプロジェクト。助成最終 年度に、当初の目的であった演出家の滞在とワークショップ、 成果発表が実現した。実現に時間がかかったのは、地域に活 動を理解してもらうことや、地域の状況や要望を理解するこ とが必要だったためである。様々な試行錯誤の中で、予期せ ぬ出会いや展開も生まれ、軌道修正も行われ、柔軟な姿勢か ら、今後は当初の想定とは異なっても現実的な活動形態を企 図することになったことは、大きな成果だと考える。2019年7 月に、両事業の報告会「地域課題に対して演劇ができること-アーティストと行政の連携による取組みの報告 |を森下スタ ジオで行い、参加者間で成果と課題が共有された。事業報告 会の抄録を当財団のウェブサイトで公開している。



京都国際舞台芸術祭実行委員会「多様な観客を創造する-英語を活用した "飛び石"プロジェクト」によるフェスティバル前夜祭 京都、2018年10月 撮影:久田元太 提供:KYOTO EXPERIMENT事務局

Pre Festival Night of "Creating a Diverse Audience - Stepping Stones for English Speakers" organized by Kyoto International Performing Arts Festival Executive Committee, in Kyoto, October 2018 Photo: Genta Hisada Courtesy of Kyoto Experiment



地点「観劇観能エクスチェンジ・プログラム」でのレクチャー 京都、2018年10月 Lecture in "Audience Exchange Program between Contemporary Theater and Traditional Noh Theater" organized by Chiten in Kyoto, October 2018



アートネットワーク・ジャパン「ほうかごシアター」東京、2018年6月 "Audience Creation Project in South Tachikawa organized by Arts Network Japan in Tokyo, June 2018

This program supports new projects that identify and seek creative solutions for issues faced by the contemporary theater and dance sectors. We invited applications for two categories: Support for Problem-Solving Projects, for which we propose a theme; and Support for Startup Projects, which helps launch new projects. We again chose "Audience Expansion Solutions" as the 2018 theme for the Support for Problem-Solving Projects category, continuing on from 2016. We supported seven projects in total over the two categories in 2018.

Two new projects were selected for grants within the Support for Problem-Solving Projects category. Kyoto International Performing Arts Festival Executive **Committee's** Creating a Diverse Audience—Stepping Stones for English Speakers project aimed to make titular stepping stones for helping English-speaking audiences living in Japan with no experience of the performing arts locally to attend the international performing arts festival Kyoto Experiment. In order to create "virtual stepping stones" and communicate the festival through social media and online platforms, the organizers held a practical workshop about effective writing styles and appointed three social media "ambassadors." In terms of "real stepping stones," the organizers set up "meeting points" to serve as exchange sites for the festival and audiences, with the ambassadors mixing with visitors at a party held the night the festival opened, aiming to build buzz and encourage potential new audiences to buy tickets. That the proportion of foreign language speakers among ticket buyers increased from 3.48% in 2017 to 5.65% in 2018 demonstrates that the tactics yield results, and we hope the festival is able to achieve its target of a 10% non-Japanese audience rate in 2020. Chiten's Audience Exchange Program between Contemporary Theater and Traditional Noh Theater aims to cultivate an audience that straddles both contemporary and classical performing arts. Providing opportunities for contemporary theater audiences to watch Noh and, likewise, opportunities for Noh fans to come into contact with contemporary theater, the project targets different yet equally committed theatergoing demographics while newly cultivating a core audience for each. The project also holds study sessions about PR and marketing as a program for organizers. Though premised on the idea of appealing to audiences with interests in either contemporary theater or Noh, the actual circumstances among audiences proved somewhat different, leading Chiten to reconsider and revise the project's next stage. More careful approaches are required for both kinds of audiences. Nonetheless, the project does facilitate exchange and connections between them, even though Noh and contemporary theater have differing customs and circumstances, and it also seems important to take a long-term view on its results. At the study sessions for organizers, attendees had the chance to learn from instructors about ways to expand audiences, targeting, and pricing. We anticipate many ideas will emerge from the exchange

that unfolded among participants.

In the Support for Startup Projects category, grants were awarded to two new projects. S20's Workshop for Choreographers Vol. 1 aspires to be a world-class training project for choreographers in Japan, where there is little education about choreography as an art. Rather than teaching and learning choreography methods, however, the project arranges platforms for participants to search for ways to develop their ideas and realize their work through a process of wide-ranging consideration and discussion about choreography with producers, technicians, and journalists working at home and abroad. It offers opportunities to study and think about choreography in small groups and from a variety of approaches. The program included a type of workshop format still unusual in Japan, whereby participants give presentations about their performance ideas at the very start, making it a valuable opportunity for participants to deepen their ideas about their work and undertake training in how to communicate these ideas to others. There are several interim presentations prior to the final presentation, allowing participants to experience the process of refining their work. We hope that the organizers can find a partner organization during the grant period so that they can take the project forward. Against a backdrop of concern over the recent closures of many theater venues in Kyoto, and the resulting loss of young artists and specialists as well as audiences, Arts Seed Kyoto's Theatre E9 Kyoto Project aims to establish a small theater venue furnished with a new kind of functionality and offer opportunities for staging performances, watching performances, and training. The project ran two sets of crowdfunding and achieved its targets, attracting much support and endorsement not least in the form of large donations, and subsequently opened in June 2019. Prior to the opening, the project also organized a symposium about the public nature of private-sector theater venues as well as lectures and workshops for local children, and is placing much focus on building up relationships between performing arts industry peers and residents in the community. The project plans to partner with coworking space and cafe operators, and we look forward to seeing how it feeds these ideas into its management after opening.

Entering the second year of its grant, the **Dance & Nursery!! Project** is an initiative that aims to create frameworks for supporting people in a variety of positions, from dancers and industry peers working creativity while raising children, to audiences with children who nonetheless want to enjoy themselves when they go to see performances. Its long-term goal is to develop the project into a new kind of complex equipped with studio, workshop, and childcare facilities. In 2018, the project extended its scope, expanding the area in which it implemented its activities, attracting interest from the private sector, and organizing such initiatives as the "mama dancers," all of which helped create potential partnerships and further developments for the future. In addition to its arrangement with Tochojji, a temple in Tokyo that has allowed the project to use its location as an event venue, we hope that the project is able next to cultivate a management structure that means it can continue its activities through flexible ideas after the grant finishes.

The year also saw two projects come to the end of their grants. Based at the Tachikawa Arts Factory, a former school building, the Audience Creation Project in South Tachikawa by Arts Network Japan (ANJ) endeavors to enhance synergy by holding theater-related events and programs through partnerships involving governments, public halls, chambers of commerce, shopping streets, schools, libraries, and more, and then build on this to create new theater audiences while also contributing to tackling the regional challenge of revitalizing the community. In addition to such clear signs of progress as the increasing numbers of both audiences and performances for the project's Christmas shows and After-School Theater program of informal play readings, the current reach of the initiative, not least in the form of requests from citizen groups for After-School Theater events and the recognition of how theater can be utilized for teaching communication skills that has now spread to elementary schools in the city and the Tachikawa City Board of Education, also indicates its impressive results so far and provides a sense of its future potential. Given that some approaches cannot always so easily attain their targets, it is also important that the organizers have realized the necessity to keep their antennae tuned for individuals or facilities with whom partnerships might be possible. The project plans to continue developing widely in the future. Yoonsoo Kang's International Share House TERASU is a project that has renovated a vacant house in Maniwa City, Okayama Prefecture, renting out the rooms to people visiting Japan as tourists or on working holiday visas, while also letting an artist stay in one room for free. For the final year of its grant, Kang organized a residency by a theater director, which was one of the original goals of the grant proposal, and held workshops and a presentation of the results of the stay. Time was required for locals in the community to understand the activities that the project was programming, though time was also likewise needed to appreciate the area's situation and demands. Through a process of trial and error emerged unexpected encounters and developments, and one particularly significant outcome would seem to be that the project altered its course and cultivated a flexible stance whereby it will in future plan activities that adopt more realistic formats, even if it means diverging from what was originally assumed. In July 2019, both projects gave presentations at Morishita Studio about the potential for theater in relation to regional dilemmas as well as about partnerships between artists and government bodies, sharing their results and challenges with one another. A summary of these reports is available on The Saison Foundation website (Japanese only).



S20「振付家ワークショップ vol.1」森下スタジオ、2018年8月 "Workshop for Choreographers vol.1" S20 at Morishita Studio, August 2018



姜侖秀「インターナショナル・シェアハウス「照ラス」」ワーク・イン・プログレス 岡山、2018年4月

撮影:International Share house TERASU

"International Share House TERASU" organized by Yoonsoo Kang in Okayama, April 2018

Photo: International Share House TERASU



ダンス保育園!!実行委員会「ダンス保育園!!」の「ママ・ダンサーズ」東京、 2018年10月 <sup>撮影:片岡陽太</sup>

"Dance & Nursery!!" organized by Dance & Nursery!! Project in Tokyo, October 2018

#### 課題解決支援

#### ▶京都国際舞台芸術祭実行委員会

多様な観客を創造する-英語を活用した"飛び石"プロジェクト 2018年5月1日-2018年12月28日 京都(KYOTO EXPERIMENT事務局、ロームシアター京都他) 1,500,000円

#### ▶合同会社地点

観劇観能エクスチェンジ・プログラム 2018年7月17日-2019年3月30日 京都(アンダースロー、京都観世会館、ロームシアター京都) 1,500,000円

#### スタートアップ支援

#### ►一般社団法人アーツシード京都 プロジェクト「Theater E9 Kyoto」 2018年4月1日-2019年3月31日 京都(Theatre E9 Kyoto) 4,000,000円

▶NPO法人アートネットワーク・ジャパン(ANJ) 立川市南側エリア創客プロジェクト 2018年4月1日-2019年3月31日 東京(たちかわ創造舎) 1,000,000円

#### ▶合同会社S20

振付家ワークショップ vol.1 2018年7月7日-9月1日 東京、神奈川(森下スタジオ、STスポット) 850,000円 スタジオ提供:14日間

#### ▶姜侖秀

インターナショナル・シェアハウス「テ(照)ラス」 2018年4月1日-2019年3月31日 岡山(真庭市) 1,000,000円

#### ▶ダンス保育園!!実行委員会

ダンス保育園!! 2018年4月1日-2019年3月31日 東京、京都他(東長寺、「Dance New Air2018」公式プログラム、 「KYOTO STEAM 2019」他) 1,000,000円 1. Contemporary Theater and Dance Creative Environment Innovation Program

Support for Problem-Solving Projects: Audience Expansion Solutions

#### Chiten LLC.

Audience Exchange Program between Contemporary Theater and Traditional Noh Theater July 17, 2018–March 30, 2019 Kyoto (Under-Throw, Kyoto Kanze Kaikan, ROHM Theatre Kyoto) ¥1,500,000

## Kyoto International Performing Arts Festival Executive Committee

Creating a Diverse Audience—Stepping Stones for English Speakers May 1-December 28, 2018 Kyoto (Kyoto Experiment Office, ROHM Theatre Kyoto, etc.) ¥1,500,000

## Support for Startup Projects

#### NPO Arts Network Japan (ANJ)

Audience Creation Project in South Tachikawa April 1, 2018–March 31, 2019 Tokyo (Tachikawa Culture Factory) ¥1,000,000

## General Incorporated Association Arts Seed Kyoto

"Theatre E9 Kyoto" Project April 1, 2018–March 31, 2019 Kyoto (April 1, 2018–March 31, 2019) ¥4,000,000

#### Dance & Nursery!! Project

Dance & Nursery!! April 1, 2018–March 31, 2019 Tokyo, Kyoto, etc. (Tochoji, Dance New Air 2018, KYOTO STEAM – International Arts x Science Festival 2019, etc.) ¥1,000,000

#### ►S20, LLC.

Workshop for Choreographers Vol.1 July 7–September 1, 2018 Tokyo, Kanagawa (Morishita Studio, ST Spot) ¥850,000 / Studio Rental: 14 days

#### ►Yoonsoo Kang

International Share House TERASU April 1, 2018–March 31, 2019 Okayama (Maniwa City) ¥1,000,000 本プログラムでは、日本と海外のアーティスト/カンパニー が協力し、計画性をもって複数年継続して作業が進展する国 際プロジェクトに対して支援する。最長で3年にわたって助成 金のほか森下スタジオ(スタジオ、ゲストルーム)を優先貸与 する。2018年度は、新規5件、2017年度からの継続が5件採 択され、計10件の事業が実施された。事業は、アーティストが 中心となり準備期間から段階を経て作品発表まで進展してい く創作プロセスを重視したもの、プロデューサーが事業の主 導をとり国内外での上演を目指して製作を進めて行く事業、 出会いの場や機会となるプラットフォームを提供する事業、と 様々な形態がある。

演出・劇作家の柴幸男が率いるmamagotoによる台北芸 術祭2018『我並不哀傷,是因為你離我很遠。(わたしが悲しく ないのはあなたが遠いから)』は、日本と台湾を拠点に活動 するプロデューサー新田幸生と柴との強い繋がりにより実現 した柴にとって初めての挑戦となる国際共同製作だ。2017年 にフェスティバル/トーキョーで上演された作品の2会場2作 品上演の構造はそのままに、2018年度台湾にて、大幅に改訂 した戯曲と書き下ろし上演を実施した。

また、本年度は、メキシコとの共同事業が2件実施された。 団体せきかおりによる「RAISU/ライス Contemporary Dance Production Center (CEPRODAC)における振付家、関かお りによるクリエーション・レジデンシー・プロジェクト|と鈴木ユ **キオプロジェクト**だ。前者は2014年に当財団のヴィジティン グ・フェローとしてメキシコから来日したマリアナ・アルテガの キュレーションで実現したダンスカンパニーCEPRODACとの 共同事業である。メキシコシティに滞在して作られた振付は、 双方の国での上演を経て、今後どちらの国でも上演可能なも のとして引き継がれる。後者『Contagions』は、長らく鈴木ユ キオの舞踏に関心を持ち、ワークショップに参加するために 度々日本を訪れていたダンサー/プロデューサー、アウラ・ア レオラの招聘によるものだ。初年度は今後の事業展開を見据 え、双方の理解の深化を目標に即興ダンスやワークショップ、 野外スタジオでのパフォーマンスなど様々な企画を実施した。 今後時間を掛けて事業の継続に取り組んでいく考えだ。

東雲舞踏による「Asia Butoh Tree Team Asia」は、主宰の川本裕子がこの10年近く舞踏の普及のために不定期に通っていたタイ、マレーシア、香港のダンサーたちとアジアの 視点で捉えなおす舞踏カンパニーを設立するために開始されたプロジェクトだ。3年間の助成期間を有効に使って実績 を重ね、カンパニー公演が実現する日を待ちたい。

「INSIDE」は、当財団の2015年度ヴィジティング・フェロー でフランスから来日した振付家・ダンサーの**ダヴィデ・ヴォン**  パクと川口隆夫を中心とした共同プロジェクトだ。2020年の 作品発表に向けて、試演会やレジデンスを日仏で繰り返しな がら作品構想を練っている。

precogによる岡田利規タイ国際共同制作プロジェクト『プ ラータナー:憑依のポートレート』は、タイの小説家ウティット・ ヘーマムーンの原作を岡田利規の脚本・演出、コンタクト・ゴ ンゾの塚原悠也による空間構成で2年をかけて作られた作品 である。本年はバンコクで初演を迎え、国際演劇評論家協会 (IATC)タイセンターのDance and Theatre Awards 2018で Best Play賞を獲得。12月にはフランスのフェスティバル・ドー トンヌ・パリおよびジャポニスム2018公式企画に招聘され、パ リのポンピドゥ・センターで上演し反響を得た。当初計画して いたタイ側のパートナーとの共同製作は叶わなかったが、現 地での丁寧なネットワーク作りは、いずれ何らかの成果とし て現れるだろう。当財団では、リサーチ・創作期間のみの支援 で助成は2018年度で終了となったが、2019年に東京公演が 開催された。

マームとジプシーによる『IL MIO TEMPO-わたしの時間-』 は、イタリアの劇場Marche TeatroとフェスティバルFabbrica Europaとの共催事業で、藤田貴大がインタビューを通して作 品に反映させる脚本・演出のもと、日本とイタリアの俳優で創 作された作品だ。途中、イタリアでの公演が延期になる事態も あったが、2019年3月に実現することができた。国際共同事業 の創作、制作の両面で学ぶことが多かったと報告にあり、その プロセスはweb上にドキュメントとして発表している。日本で の上演の目途がまだたっていないが、いずれ実現して欲しい。

本年度で3年間の支援が終了したPort Bによる『ポタリーズ・ シンクベルト:マクドナルド放送大学』は、フランクフルトの劇 場ムーゾントゥルムを事業のパートナーに制作した。難民を 講師に、実際のマクドナルド店舗を学校に見立てて実施され た公演「マクドナルド大学」と展示からなる事業だ。多くの 人々の関心を呼び、本事業の影響を受け様々な事業が派生 しているが、申請時に計画されたウィーン、ブタペストでの実 施は諸事情により実現することができなかった。本年度は、舞 台をベルリンに移し、シュプレー川に浮かぶ船上とHAU劇場 ロビーに設えられたマクドナルド店舗で、あらかじめ録音さ れた難民講師による講座をラジオで聴く「マクドナルド放送 大学|が実施され、大きな反響を得た。その反響は日本にまで 届き、2018年11月に約2ヶ月にわたり東京・Misa Shin Gallery にて展示が実現し、さらに2019年5月には六本木アートナイト で、マクドナルド六本木ヒルズ店にて本作を発表することが できた。予想を超える展開を見せた事業だったが、益々の広 がりが期待される。



東雲舞踏「Asia Butoh Tree Team Asia」バンコク、2018年12月 "Asia Butoh Tree Team Asia\_Butoh training, Workshop, Lecture" organized by Shinonome Butoh in Bangkok, December 2018



鈴木ユキオプロジェクト『Contagions』メキシコシティ、2018年10月 <sup>撮影:Fausto Jijón Quelal</sup> *Contagions* organized by YUKIO SUZUKI projects in Mexico City, October 2018 Photo: Fausto Jijón Quelal



団体せきかおり「RAISU/ライスContemporary Dance Production Center (CEPRODAC)における振付家、関かおりによるクリエーション・レ ジデンシー・プロジェクト」メキシコシティ、2018年7月 撮影:David Flores Rubio

"RAISU Artist Residency & Creative Development Project for Kaori Seki at Contemporary Dance Production Center[CEPRODAC]" organized by Dantai Seki Kaori in Mexico City, July 2018 Photo: David Flores Rubio



precog「岡田利規タイ国際共同制作プロジェクト『プラータナー』」バンコ ク、2018年8月

撮影:Sopanat Somkhanngoen

"Toshiki Okada/Thai Artist Collaboration project *PRATTHANA*", organized by precog, in Bangkok, August 2018 Photo: Sopanat Somkhanngoen



フローティング ボトル『Floating Bottle Project』 京都、2018年10月 撮影:守屋友樹 提供:KYOTO EXPERIMENT事務局 "Floating Bottle Project" organized by Floating Bottle, in Kyoto, October 2018 Photo: Yuki Moriya. Courtesy of Kyoto Experiment.



mamagoto「台北芸術祭2018『我並不哀傷, 是因為你離我很遠。(わたしが悲しくないのはあなたが遠いから)』」台北、2018年9月 撮影:登曼波

2018 Taipei Arts Festival "*In our distance, there is no sorrow.*" organized by mamagoto, September 2018 Photo: Mambo Key This program supports sustained, multiyear international projects involving Japanese and overseas artists or companies. In addition to a grant of up to three years, priority use is also provided for the studios and guest rooms at Morishita Studio. In 2018, five new projects were selected for grants and five projects were selected to carry over from 2017, for a total of ten projects. The program involves a wide range of projects, including those that focus on the creative process with artists at the center and proceeding from the preparation stage through to the presentation of the final piece, projects led by producers that develop a production with the aim of performing it at home and abroad, and projects that provide a platform serving as a way to bring people together.

Staged at the 2018 Taipei Arts Festival by **mamagoto**, a company led by playwright and director Yukio Shiba, *In our distance, there is no sorrow*. was Shiba's first ever international co-production that realized connections between him and Yukio Nitta, a producer based in both Japan and Taiwan. First performed at Festival/Tokyo in 2017 as a double bill, each play at a separate yet adjacent theater, it was heavily rewritten for its Taiwan performances the following year.

This year's program included two joint projects between Japanese and Mexican partners: RAISU Artist Residency & Creative Development Project for Kaori Seki at Contemporary Dance Production Center (CEPRODAC) by Dantai Seki Kaori and YUKIO SUZUKI projects. The former was a collaboration between Seki and the dance company CEPRODAC, curated by Mariana Arteaga, a Visiting Fellow from Mexico in 2014. Created while Seki stayed in Mexico City, the choreography was presented in both Japan and Mexico, and is set to continue in the future as something stageable in either country. The latter is Contagions, commissioned by the dancer and producer Aura Arreola, who long had an interest in Yukio Suzuki's butch and frequently visited Japan to participate in workshops. During the project's first year, it held a variety of events such as improvised dance, workshops, and performances at an outdoor studio, aiming to deepen understanding of one another as well as look ahead to the subsequent development of the project. In the future, the collaborators intend to continue the project over a sustained period of time.

The Asia Butoh Tree Team Asia project by **Shinonome Butoh** is a project launched in order to establish a company that reinterprets Butoh from Asian perspectives with dancers from Thailand, Malaysia, and Hong Kong, where Yuko Kawamoto has intermittently visited over almost a decade to spread butoh. After spending the three-year grant period effectively and building up various achievements, we look forward to the day when the project can bring performances by the new company to the stage.

INSIDE is a joint project by Takao Kawaguchi and **David Wampach**, the French choreographer and dancer who visited Japan in 2015 as a Visiting Fellow. Ahead of the presentation of a performance in 2020, he spent his stay this time developing the work while taking part in a residency and holding previews in Japan and France.

The outcome of a Toshiki Okada and Thai international co-production project by precog, Pratthana – A Portrait of Possession was made over the course of two years, adapted and directed by Toshiki Okada from a novel by Thai author Uthis Haemamool, and with scenography by contact Gonzo's Yuya Tsukahara. It was premiered in Bangkok and then won Best Play at the International Association of Theatre Critics, Thailand Centre's Dance and Theatre Awards 2018. In December, it was presented at the Festival d'Automne à Paris and Japonismes 2018. where it made a big impact on audiences at the Centre Pompidou. While the project was unable to realize a co-production as originally planned, the network that it built up carefully there will surely yield some kind of result. The Saison Foundation grant offered support only for the research and creative development period. coming to an end in 2018, though there were also performances in Tokyo in 2019.

*IL MIO TEMPO* by **mum & gypsy** was a joint initiative with the Italian theater Marche Theatro and festival Fabbrica Europa, created with Japanese and Italian actors from a script and directing by Takahiro Fujita. Though the performances in Italy had to be postponed, they could finally take place in March 2019. The company reported that it learned much in terms of both the production and creation aspects of undertaking an international co-production, and also published documentation of that process online. It remains as yet uncertain when or if the production will be performed in Japan, but we certainly hope that this can happen at some point.

*McDonald's Radio University* was created by **Port B**, which came to the end of its three-year grant this year, in partnership with the Frankfurt theater Künstlerhaus Mousonturm as a series of lectures and an exhibition, using actual branches of McDonald's in the city as "universities" led by refugee "professors." Though the project attracted widespread attention and had a far-reaching impact, circumstances prevented it from taking place in Vienna and Budapest as originally planned at the time of the grant application. This year, the project moved to Berlin, where a different version was installed at a pseudo-branch of McDonald's in the lobby of the Hebbel am Ufer performance center and on a boat traveling along the Spree, which people could visit to listen to prerecorded audio of the refugee "professors" on radios. Once again a major success, it then came to Japan and was exhibited at Misa Shin Gallery in Tokyo for around two months from November, before subsequently reappearing in May 2019 at a branch of McDonald's in the Roppongi Hills as part of Roppongi Art Night. Having developed beyond initial expectations and proved a triumph so far, we look forward to the project's continued expansion.



山下残「ファーミ・ファジール&山下残『GE14』」神奈川、2019年2月 <sup>撮影:前澤秀登</sup> "FAHMI FADZIL & ZAN YAMASHITA *GE14*" organized by Zan Yamashita, in Kanagawa, February 2019 Photo: Hideto Maezawa



David Wampach『INSIDE--HIVについて考えるところから始める』 東京、2018年7月 *INSIDE starting with thoughts on HIV* organized by David Wampach, in Tokyo, July 2018

#### 東雲舞踏

Asia Butoh Tree Team Asia 2018年6月3日-2019年2月26日 クアラルンプール、パタヤ、バンコク、東京(Rimbun Dahan、Sea Breeze Hotel、Bangkok Art and Culture Center、森下スタジオ) 1,000,000円 スタジオ提供:11日間

#### ▶鈴木ユキオプロジェクト

Contagions 2018年9月8日-10月26日 メキシコシティ(Casa del Lago) 1,000,000円

#### ▶団体せきかおり

RAISU/ライスContemporary Dance Production Center [CEPRODAC]における振付家、関かおりによるクリエーション・レ ジデンシー・プロジェクト 2018年5月19日-2019年2月21日 東京、メキシコシティ(森下スタジオ、CEPRODAC、Black Box, Centro Nacional de las Artes、ムーブ町屋ムーブホール他) 1,500,000円 スタジオ提供:18日間

#### ▶株式会社 precog

岡田利規タイ国際共同制作プロジェクト 2018年4月1日-2019年3月31日 バンコク、パリ他(チュラロンコーン大学文学部演劇学科ソッサイパ ントゥムコーモン劇場、ポンピドゥ・センター) 1,500,000円 2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	1,500,000	2,500,000

#### ▶フローティング ボトル

Floating Bottle Project 2018年7月31日–10月28日 福岡、京都(Studio Kura、Space bubu、ロームシアター京都) 1,000,000円 2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	ミ 2018年度	合計
1,000,00	0 1,000,000	2,000,000

#### ▶ 一般社団法人 Port B

『ポタリーズ・シンクベルト:マクドナルド放送大学』 2018年6月21日-2019年4月2日 ベルリン、フランクフルト(HAU劇場、ムーゾントゥルム劇場) 1,500,000円 2018年度までの助成金額(単位:円)

2010年度までの助成並額(単位・円)

2016年度	2017年度	2018年度	合計
1,300,000	1,500,000	1,500,000	4,300,000
		-	

#### ▶ 一般社団法人 mamagoto

台北芸術祭2018『我並不哀傷,是因為你離我很遠。(わたしが悲し くないのはあなたが遠いから)』 2018年4月2日-9月30日 台北(國立臺北藝術大學(国立台北芸術大学)内「戲劇廳」と「舞蹈 廳」) 1,500,000円

#### ▶合同会社 マームとジプシー

マームとジプシー 『IL MIO TEMPO – わたしの時間 – 』 2019年2月18日-3月7日 フィレンツェ(Fabbrica Europa、Teatro Studio di Scandicci Mila Pieralli) 1,500,000円 2018年度までの助成金額(単位:円)

2016年度	2018年度	合計
1,400,000	1,500,000	2,900,000

#### ▶山下残

 ファーミ・ファジール&山下残
 2018年4月1日-2019年3月31日
 クアラルンプール、鳥取、神奈川(ルンバ・パンタイ選挙区、旧横田 医院、Kosha33・日本大通り)
 1,000,000円
 2018年度までの助成金額(単位:円)

2017年度	2018年度	合計
1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### David Wampach

INSIDE 2018年4月1日-2019年3月31日 東京、パリ(森下スタジオ、Cafe Black A) 1,000,000円 スタジオ提供:12日間 ゲストルーム提供:16日間 2. Contemporary Theater and Dance: International Projects Support Program

#### Dantai Seki Kaori

RAISU Artist Residency & Creative Development Project for Kaori Seki at Contemporary Dance Production Center ICEPRODAC1

May 19, 2018-February 21, 2019

Tokyo, Mexico City (Morishita Studio, Move Hall, Move Machiya, Contemporary Dance Production Center, Black Box, Centro Nacional de las Artes) ¥1,500,000 / Studio Rental: 18 days

#### Floating Bottle

Floating Bottle Project

July 31-October 28, 2018

Fukuoka, Kyoto (Studio Kura, Space bubu, ROHM Theatre Kyoto)

¥1,000,000

Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

#### mamagoto

2018 Taipei Arts Festival "*In our distance, there is no sorrow.*" April 2–September 30, 2018 Taipei (Taipei National University of the Arts Experiment

Theatre / Dance Theatre) ¥1,500,000

#### Shinonome Butoh

Asia Butoh Tree Team Asia\_Butoh training, Workshop, Lecture June 3, 2018–February 26, 2019

Kuala Lumpur, Pattaya, Bangkok, Tokyo (Rimbun Dahan, Sea Breeze Hotel, Bangkok Art and Culture Center, Morishita Studio) ¥1,000,000 / Studio Rental: 11 days

#### mum & gypsy

IL MIO TEMPO

February 18-March 7, 2019

Firenze (Fabbrica Europa, Teatro Studio di Scandicci Mila Pieralli)

¥1,500,000

Amount of continuous grants (in yen)

2016	2018	Total
1,400,000	1,500,000	2,900,000

10 Grantees / Total Appropriations: ¥12,500,000

#### Port B

Potteries Thinkbelt: McDonald's Radio University June 21,2018–April 2, 2019

Berlin, Frankfurt (HAU, Künstlerhaus Mousonturm) ¥1,500,000

Amount of continuous grants (in yen)

2016	2017	2018	Total
1,300,000	1,500,000	1,500,000	4,300,000

#### precog

Toshiki Okada/Thai Artist Collaboration Project April 1, 2018–March 31, 2019 Bangkok, Paris (Sodai Pantoomkomol Centre for Dramatic Arts, Faculty of Arts Chulalongkorn University, Centre Pompidou (Japonismes 2018 / Festival d'Automne à Paris)) ¥1,500,000

Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,500,000	2,500,000

#### ►YUKIO SUZUKI projects

Contagions September 8–October 26, 2018 Mexico City (Casa del Lago) ¥1,000,000

#### David Wampach

INSIDE April 1, 2018–March 31, 2019 Tokyo, Paris (Morishita Studio, Cafe Black A) ¥1,000,000 Studio Rental: 12 days / Guest Room Rental: 16 days

#### Zan Yamashita

FAHMI FADZIL & ZAN YAMASHITA April 1, 2018–March 31, 2019 Kuala Lumpur, Tottori, Kanagawa (Lembah Pantai Constituency, Former Yokota Hospital, Kosha33 Nihon Odori Street) ¥2,000,000

Amount of continuous grants (in yen)

2017	2018	Total
1,000,000	1,000,000	2,000,000

## 芸術交流活動【非公募】

海外の非営利団体との継続的パートナーシップに基づく 本プログラムでは、人物交流事業や日本文化紹介事業に対 して助成を行っている。

本年度は、2件の事業に対して助成を行った。

ニューヨークに本部を置く**アジアン・カルチュラル・カウン** シル(ACC)が実施する日米の芸術家、学者、専門家、機関を 対象に行っている相互的フェローシッププログラムに対して 助成。2018年度助成金は、2019年度以降アメリカ/日本へ渡 航・滞在する対象者に支給される。 ※なお、本事業へは1989年より29年間継続した支援を行っている。

ACC Saison Foundation Fellowとして3名を採択

●河内崇(演劇制作、テクニカル・ディレクター、ステージ・マネージャー) 期間:2ヶ月 内容:ニューヨークにて、演劇におけるテクニカル(技術)専 門職の実践調査。

 マルガリータ・ブラッシュ(演劇、人形劇団「Margarita Blush Productions」主宰) 期間:2ヶ月 内容:日本における現代及び伝統双方における人形劇や 文楽と、その実践を研究。

●ジェイスン・ハワード(ダンサー)

期間:4ヶ月

内容:神戸のNPO法人DANCE BOXでのレジデンスプロ グラムに参加。日本伝統の舞台芸術を学ぶとともに神戸と シカゴのダンスの交流活動を実施。

そのほか、日本から4名を派遣:

- ○北條知子(サウンドアート、実験音楽) 期間:6ヶ月 内容:ニューヨークにて、フェミニズムと音楽(サウンド)の 交点、また、オノ・ヨーコの活動に焦点を当てたサウンド アートと実験音楽のアーカイブリサーチ。
- ○磯村暖(ヴィジュアルアート)

期間:6ヶ月 内容:ニューヨークにてLGBTQや移民問題に焦点を当て たポリティカル&ソーシャルエンゲージドアートの潮流の 調査。

# ○嶋田美子(美術家・美術史家) 期間:1ヶ月 内容:香港にて1960-70年代における香港のオルタナティブアート教育の調査。

助成対象2件/助成総額6,500,000円

○**杉原信幸**(美術家、NPO法人原始感覚舎 理事長) 期間:6ヶ月 内容:台湾における原住民文化の調査とアーティストや研 究者との交流。

日本に1名を受け入れ:

 ○カーステン・キャリー(音楽家・パフォーマー・ギタリスト) 期間:3ヶ月 内容:東京にて、ACCの過去の日本グランティ(田中悠美 子 2006、本條秀慈郎 2015)等との交流における三味線奏 法の学習。

団体助成

○特定非営利法人ブリッジフォージアーツアンドエデュケー ション(演劇) 期間:2ヶ月 内容:インドネシア・ジョグジャカルタにおいて、カンボジ ア、インド、インドネシア、日本、マレーシア、タイのアーティ ストとともに、多文化ワークショップを開催

○**麗江工作室**(音楽)

期間:2ヶ月 内容:中国雲南省のリージャン・スタジオと、北海道・飛生を 拠点とするレジデンスプログラムの交流プログラムを支援。

その他、日本関連のプログラムとして以下の二事業が決定している。

個人助成

#### OACC Taiwan Program

邱 心依 & 邱 心悦(シンイ・チウ&シンユエ・チウ、音楽) 期間:2ヶ月 内容:台湾より日本における三味線および薩摩琵琶の奏 法学習を通じた、東アジア伝統音楽の調査のために来日。

#### 団体助成

○**VT アートサロン**(キュレトリアル)

期間:2ヶ月(日本へ)

内容:シンガポールと台湾から、冷戦時代の地政学の遺産 である「island chain/アーキペラゴ(多島海)」を再構成す る調査・展示プログラム「Island Hopping - Reversing Imperialism」の第二フェーズにおける、沖縄での調査と アーティストやアートの専門家との交流支援。 ニューヨークのジャパン・ソサエティーによる、日本現代戯 曲英語版プレイ・リーディング・シリーズは、日本の現代演劇 を北米に紹介することを目的に、日本人劇作家の現代戯曲の 英訳版を、米国人演出家が現地の俳優を起用してリーディン グ形式で紹介する事業。2019年2月に、関西を拠点に活動す るサリngROCKの戯曲『100 Years Stray(漏れて100年)』を ハーレムを拠点に活動する劇団ザ・ムーヴメント・シアター・ カンパニーのリーダーの一人であるTaylor Reynoldsが演 出した。アフタートークには、サリngROCKも登壇し作品につ いての説明や質疑応答に参加した。事業の様子は、インター ネット上で期間限定で公開され日本の観客にも視聴された。

#### ▶アジアン・カルチュラル・カウンシル

日米芸術交流プログラム(2019年度の活動に充当) 2019年1月1日-12月31日 アメリカ、日本 6,000,000円 森下スタジオ(スタジオ、ゲストルーム貸与)

#### ▶ジャパン・ソサエティー

日本現代戯曲英語版プレイ・リーディング・シリーズ 2019年2月2日-3日 ニューヨーク(ジャパン・ソサエティー) 500,000円



ジャパン・ソサエティー「日本現代戯曲英語版プレイ・リーディング・シリーズ」 ニューヨーク 2019年2月

"Contemporary Japanese Plays in English Translation Play Reading Series" organized by Japan Society, Inc., in New York, February 2019 Artistic Exchange Project Program (designated fund program)

This program, which is based on continuing partnership with non-profit organizations outside of Japan, supports projects for personnel exchange and promotion of Japanese culture.

Since 1989, The Saison Foundation has given support each year to the Japan-United States Arts Program, an interactive fellowship program of the New York-based **Asian Cultural Council (ACC)** for U.S. and Japanese artists, scholars, specialists and organizations. From 2019, the grant will be awarded to those who visit or stay in the U.S. or Japan as ACC Saison Foundation Fellows.

## Japan-United States Arts Program/ ACC Saison Foundation Fellow

•Takashi Kawachi (Theater)

A 2-month Individual Fellowship to observe technical theater practice in New York.

## •Margarita Blush (Puppet Theater)

A 2-month Individual Fellowship to study traditional puppetry and movement practice in Japan.

## •J'Sun Howard (Dance)

A 4-month Individual Fellowship to undertake a residency at NPO Dance Box (ACC 2016) in Kobe, study traditional theater practice, and plan for future exchange of dancer/choreographers between Kobe and Chicago.

#### **• Tomoko Hojo** (Sound Arts, Experimental Music)

A 6-month New York Fellowship to conduct archival research on sound art and experimental music, with a particular focus on Yoko Ono and the intersection of feminism and sound.

## ODan Isomura (Visual Arts)

A 6-month New York Fellowship to observe trends in political and socially engaged art with a focus on LGBTQ and immigration issues.

- •Yoshiko Shimada (Visual Art, Arts Historian) A 1-month Fellowship to research Hong Kong's alternative art education of the 1960s and 70s.
- **Nobuyuki Sugihara** (Visual Arts, President of NPO Primitive Sense Company)

A 6-month Individual Fellowship to research on Taiwanese aboriginal culture, and exchange with artists and art professionals in Taiwan.

•Kirsten Carey(Music, Performance, Guitar) A 3-month Individual Fellowship to study shamisen technique with ACC grantees such as Yumiko Tanaka (ACC 2006) and Hidejiro Honjo (ACC 2015).

## $\bigcirc \textbf{Bridge for the Arts and Education}(Theater)$

An Organization / Project Grant to support a 2-month artistic exchange in Indonesia, including workshops with artist from Cambodia, India, Indonesia, Japan, Malaysia and Thai.

## OLijiang Studio Foundation (Music)

A 2-month artistic residence in China to support the Lijiang/Tobiu Hokkaido Reciprocal Residency Program.

## **OVT Art Salon**

Organization / Project Grant to support a 2-month exchange between curators from Taiwan and Singapore and artists in Okinawa for the second phase of Island Hopping–Reversing Imperialism

## OHsin Yi & Yueh Chiu Students, National Taichung University of Science and Technology

A 2-month Individual Fellowship to study shamisen and Satsuma Biwa technique in Japan

Play Reading: Contemporary Japanese Plays in English Translation Series, which we have been supporting continually too, is a project by **Japan Society, Inc**. for introducing English translations of Japanese contemporary plays by having American directors and cast for readings. Taylor Reynolds as director, Saring Rock's *100 Years Stray* was featured this year. The reading was offered to audiences at reasonable prices (\$10–15) at Japan Society and video was shared via the Internet and gained many viewers in Japan as well.

Asian Cultural Council

ACC Japan-United States Arts Program Fellowships (for activities taking place in year 2019) January 1–December 31, 2019 U.S., Japan ¥6,000,000 Morisita Studio (Studio and Guest Room Rental)

#### Japan Society, Inc.

Contemporary Japanese Plays in English Translation Play Reading Series February 2–3, 2019 New York (Japan Society) ¥500,000 海外から公演、アーティスト・イン・レジデンス、コンペティ ション、会議などへ招聘を受けた芸術家、制作者に対して渡 航費を支援。招聘されたにもかかわらず、海外と日本の会計 年度の違いなどにより渡航費の手配が間に合わなかったと いう理由で、貴重な機会を逸することを避けるため、渡航目 的の重要性、緊急性を鑑みて助成する。

#### ▶三浦基

トフストノーゴフ記念ボリショイ・ドラマ劇場マスタークラス 2018年4月8日-19日 サンクトペテルブルグ(トフストノーゴフ記念ボリショイドラマ劇 場) 195,320円

#### ▶捩子ぴじん

『Unbearable Darkness』 2018年6月18日-7月2日 デュッセルドルフ(tanzhaus nrw) 157,540円

#### ▶坂田まもる

ATOM Choreographic Series #2 2018年6月26日-7月9日 ソフィア(ダンスステーションソフィア、ジェネレーター、ソフィア大 学講堂) 107,490円

#### 長谷川まいこ

ATOM Choreographic Series #2 2018年6月26日-7月9日 ソフィア(ダンスステーションソフィア、ジェネレーター、ソフィア大 学講堂) 107,490円

#### ▶太田信吾

Residencies 8-12 2018 2018年10月13日-11月20日 エッセン(PACT Zollverein) 238,800円

#### ▶ちぇちりあ

第6回アテネビエンナーレ(サエボーグのパフォーマンスに出演) 2018年10月23日-11月2日 アテネ [「第6回アテネビエンナーレ」) 107,290円

#### ▶宮川ひかる

第6回アテネビエンナーレ(サエボーグのパフォーマンスに出演) 2018年10月23日-11月2日 アテネ [「第6回アテネビエンナーレ」] 107,290円

#### ▶佐川大輔

ONZ Black Box Program 2018 2018年11月26日-2019年1月7日 クアラルンプール、マカオ、香港他(ONZ Production他) 59,685円

#### ▶中原くれあ

ONZ Black Box Program 2018 2018年11月26日-2019年1月7日 クアラルンプール、マカオ、香港他(ONZ Production他) 59,685円



三浦基「トフストノーゴフ記念ボリショイ・ドラマ劇場マスタークラス」 サンクトペテルブルグ 2018年4月 Tovstonogov Bolshoi Drama Theater Master Class, Motoi Miura, in Saint Petersburg, April 2018



捩子 ぴじん [Unbearable Darkness] デュッセルドルフ 2018年6月 <sup>撮影:Katja Illner</sup> *Unbearable Darkness*, Pijin Neji, in Düsseldorf, June 2018 Photo: Katja Illner



坂田まもる、長谷川まいこ 「ATOM Choreographic Series #2」ソフィア 2018年7月 撮影:Ivan-Alexander Kjutev ATOM Choreographic Series #2, Mamoru Sakata and Maiko Hasegawa, in Sofia, July 2018 Photo: Ivan-Alexander Kjutev

We offered grants that would cover flight costs to artists and managers who were invited to perform, or to take part in artist-in-residencies, competitions, workshops and conferences in foreign countries. This program is designed to help Japanese performing arts practitioners to travel and participate in events taking place outside of Japan that might become precious opportunities in their careers, which they might have had to give up attending despite being invited due to the differences in the fiscal years between Japan and other nations/areas and thus lacking funds to cover airfares. Grants are awarded in accordance with the significance and urgency of the purposes of traveling abroad.

#### Motoi Miura

Tovstonogov Bolshoi Drama Theater Master Class April 8–19, 2018 Saint Petersburg (Tovstonogov Bolshoi Drama Theater) ¥195,320

#### ► Pijin Neji

Unbearable Darkness June 18–July 2, 2018 Düsseldorf (tanzhaus nrw) ¥157,540

#### Mamoru Sakata

ATOM Choreographic Series #2 June 26–July 9, 2018 Sofia (Dance Station Sofia, GENERATOR, Sofia University) ¥107,490

#### ►Maiko Hasegawa

ATOM Choreographic Series #2 June 26–July 9, 2018 Sofia (Dance Station Sofia, GENERATOR, Sofia University) ¥107,490

#### Shingo Ota

Residencies 8-12 2018 October 13-November 20, 2018 Essen (PACT Zollverein) ¥238,800

#### ►cecilia

AB6 Athens Biennale 2018 (for performance of Saeborg) October 23–November 2, 2018 Athens ("AB6 Athens Biennale 2018") ¥107,290

#### ►Hikaru Miyakawa

AB6 Athens Biennale 2018 (for performance of Saeborg) October 23–November 2, 2018 Athens ("AB6 Athens Biennale 2018") ¥107,290

#### Daisuke Sagawa

ONZ Black Box Program 2018 November 26, 2018–January 7, 2019 Kuala Lumpur, Macau, Hong Kong, etc. (ONZ Production, etc.) ¥59,685

#### Kurea Nakahara

ONZ Black Box Program 2018 November 26, 2018–January 7, 2019 Kuala Lumpur, Macau, Hong Kong, etc. (ONZ Production, etc.) ¥59,685



9 Grantees / Total Appropriations: ¥1,140,590

太田信吾「Residencies 8-12 2018」エッセン 2018年11月 <sup>撮影:Laura Harvey</sup> Live Biennale提供 Residencies 8-12 2018, Shingo Ota, in Essen, November 2018 Photo: Laura Harvey Courtesy: Live Biennale



ちぇちりあ、宮川ひかる「第6回アテネビエンナーレ(サエボーグのパフォー マンス)」アテネ 2018年10月 <sup>撮影:Nysos Vasilopoulos</sup>

"AB6 Athens Biennale 2018 [Performance of Saeborg]", cecilia and Hikaru Miyakawa, in Athens, October 2018 Photo: Nysos Vasilopoulos



佐川大輔、中原くれあ「ONZ Black Box Program 2018」 ペナン 2019年1月 ONZ Black Box Program 2018, Daisuke Sagawa and Kurea Nakahara, in Penang, January 2019

森下スタジオのその他の利用者 (2018年4月1日-2019年3月31日)

日本語表記 五十音順

〈スタジオ/Studio〉 ()利用日数/number of days

有限会社アップタウンプロダクション(10) Uptown production Inc.

ARICA(14)

池内美奈子(6) Ikeuchi Minako

AbsT(7)

合同会社S20(1) S20 LLC.

一般社団法人大橋可也&ダンサーズ(24)Kakuya Ohashi and Dancers

かもねぎショット(5) Kamonegi Shot

カンパニーデラシネラ(63) Company Derashinera

クリエイティブ・アート実行委員会(15) creative art executive committee

KENTARO!!(1)

GER0(23)

一般社団法人Ko&Edge(3) Ko&Edge

一般社団法人Co.山田うん(12) Co.Yamada Un

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.l.co.(2) Contact Improvisation Group C.l.co.

株式会社サイ(13) SAI Inc.

財団、江本純子(2) Junko Emoto Company

東雲舞踏(3) Shinonome Butoh

NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)(1) Japan Contemporary Dance Network (JCDN) Other users of Morishita Studio (April 1, 2018–March 31, 2019)

鈴木ユキオプロジェクト(16) YUKIO SUZUKI Projects

Somatic Field Project(7)

tant-tanz(2)

Dance New Air 実行委員会(3) Dance New Air Executive Committee

Dance Theatre LUDENS(8)

デュ社(4) Duex Shrine

Trajal Harrell(6)

フェスティバル/トーキョー実行委員会(1) Festival/Tokyo Excutive Committee

特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(1) Open Network for Performing Arts Management

富士山アネット(3) FujiyamaAnnette

森下企画(65) MORISHITA-KIKAKU

山﨑広太(2) Kota Yamazaki

燐光群/(有)グッドフェローズ(28) Theater company RINKOGUN/GOOD FELLOWS Inc.

 $\langle \texttt{f}$ ストルーム/Guest Room $\rangle$ 

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.l.co.(3) Contact Improvisation Group C.l.co.

Trajal Harrell(9)

Mariana Arteaga Vazqez(5)

自主製作事業・共催事業

SPONSORSHIP AND CO-SPONSORSHIP PROGRAMS 1.セゾン・アーティスト・イン・レジデンス セゾンAIRパートナーシップ

アーティスト・イン・レジデンスを通じて、海外の芸術家や 芸術団体との双方向の国際文化交流の活性化を目的とする プログラム。海外の文化機関と提携し、海外のアーティストの 招聘、海外のアーティスト・イン・レジデンスに日本のアーティ ストの派遣を行った。



平成30年度文化庁「アーティスト・イン・レジデン → ス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」

## 1.Saison Artist in Residence Saison AIR Partnership

This program aims to stimulate bidirectional international cultural exchange with overseas artists and art organizations through artist residencies. In partnership with cultural bodies abroad, the program both invites foreign artists to stay in Japan and also sends Japanese artists to participate in artist-in-residency programs based outside Japan.

Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, in the fiscal 2018

#### **日本・イタリア・フランスダンス交流事業** 「**Kiseki - キセキ - Trajectories**」 期間:2018年8月16日~9月17日(イタリア、フランス)

Dance Exchange Program between Japan, Italy and France "Kiseki – Trajectories" Residency: August 16–September 17, 2018 in Italy and France

セゾン文化財団とイタリアのコムーネ・ディ・バッサーノ・デ ル・グラッパ、フランスのラ・ブリケトリ - ヴァル・ド・マルヌ国立 振付開発センターが提携するダンス交流事業。

2017年に森下スタジオで実施したレジデンシーに続き、2018 年8月、コムーネ・ディ・バッサーノ・デル・グラッパ、2018年9月、 ラ・ブリケトリ・ヴァル・ド・マルヌ国立振付センターでレジデン シーを実施。日本からは振付家・ダンサーの岩渕貞太、イタリア からは振付家・パフォーマーのジョルジャ・ナルディン、フランス からは振付家・サーカス・アーティストのサチエ・ノロが参加。当 財団は岩渕貞太をイタリアとフランスに派遣。滞在中、ラ・ブリケ トリ・ヴァル・ド・マルヌ国立振付センターとヴァル・ド・マルヌ現 代美術館(MAC/VAL)で滞在成果としてのショート・パフォーマ ンスを発表した。

This dance exchange project is organized by The Saison Foundation in partnership with Comune di Bassano del Grappa in Italy and La Briqueterie – Centre de développement chorégraphique national du Val-de-Marne in France.



日本・イタリア・フランスダンス交流事業「Kiseki - キセキ - Trajectories」 Dance Exchange Program between Japan, Italy and France "Kiseki – Trajectories"

Following the residency in 2017 at Morishita Studio, residencies were held with participants from, respectively, Comune di Bassano del Grappa in August 2018 and La Briqueterie – Centre de développement chorégraphique national du Val-de-Marne in September 2018. The participants were the choreographer Teita Iwabuchi (from Japan), choreographer and performer Giorgia Nardin (from Italy), and choreographer and circus artist Satchie Noro (from France). The Saison Foundation funded Iwabuchi's residencies in Italy and France. While he was staying at La Briqueterie – Centre de développement chorégraphique national du Val-de-Marne and Musée d'Art Contemporain du Val-de-Marne (MAC/VAL), he presented a showcase performance as the culmination of his residency.

#### Bloom Up Residency 交換プログラム

期間:2018年6月1日~6月18日(日本)、 2018年9月24日~10月14日(ドイツ)

Bloom Up Residency Exchange Program

Residency: June 1–18, 2018 in Japan, September 24–October 14, 2018 in Germany

セゾン文化財団とミュンヘンの舞台芸術フェスティバル、RODEO の実施するレジデンシー・プログラム「Bloom Up Residency」 が提携する交流事業。

2018年6月、2016年度にヴィジティング・フェローとして来日し たヤナ・トネスが主宰するパフォーマンス・コレクティブ、THE AGENCYを招聘。滞在中、新作『Take it like a man - an alternative contemporary men's movement』(男なら 男らしくしろ - 現代の新しい男性運動)の構想を発展させるた め、草食男子や絶食系男子、ジェンダーレス男子等、日本にお ける新しい男性のあり方や男性運動のリサーチを支援した。

また、2018年9月、ミュンヘンの舞台芸術フェスティバル、 RODEOの実施するレジデンシー・プログラムに映像作家、東 加奈子を派遣し、THE AGENCYとの共同制作を支援。RODEO にてリサーチの滞在成果をパフォーマンス形式で発表した。

Bloom Up Residency Exchange Program is a residency program organized by The Saison Foundation in partnership with the Munich performing arts festival RODEO.

In June 2018, the program invited performance collective THE



Bloom Up Residency 交換プログラム <sup>撮影:Franz Kimmel</sup> Bloom Up Residency Exchange Program Photo: Franz Kimmel

AGENCY, which is led by Yana Thönnes, a Visiting Fellow in 2016. During the group's residency in Tokyo, the program support its research into trends in masculinity and male gender movements in Japan such as the emergence of so-called "herbivore men" and "fasting men" as well as genderless men in order to develop the ideas for its new work, *Take it like a man – an alternative contemporary men's movement*. The Foundation also provided support for the video artist Kanako Azuma's participation in a residency program organized by the festival RODEO in Munich in September 2018 as well as her co-production project with THE AGENCY. At the end of her time at RODEO, they presented a performance showing the results of her residency.

## TÓPOS交換プログラム

期間:2018年9月11日~9月20日、12月14日~12月23日(日本)

## TÓPOS Exchange Program

Residency: September 11–20, 2018, December 14–23, 2018 in Japan

セゾン文化財団とスペインのコレクティブ、「Colectivo La Perdición」が提携する交流事業。

ピナ・バウシュ・ヴッパタール舞踊団の専属ダンサーとして活動 するパウ・アラン・ジメーノを招へいし、ジョセフ・ナジに師事するダ ンサーの石井順也と、笠井叡等の作品に出演する小暮香帆による 日本・スペインダンスプロジェクト「TÓPOS(トポス)」を支援した。 滞在中、パウ・アラン・ジメーノは石井順也や小暮香帆と共同制作 を行い、砂漠や砂丘、滝、湧き水といった絶えず変化するフローか ら生まれる新たな身体表現の可能性に着目した作品を創作。 2018年12月、Super Deluxeにてワークインプログレスを発表。ま た、2019年2月、TPAMフリンジの一環として、YCC ヨコハマ創造 都市センターにて、『ノート・オン・ライフ』を発表した。

This program was an exchange initiative organized by The Saison Foundation in partnership with the Spanish collective Colectivo La Perdición.

The program invited Pau Aran Gimeno, who works as a dancer for Tanztheater Wuppertal Pina Bausch, to Japan to take part in the Japanese-Spanish dance project TÓPOS,



TÓPOS交換プログラム <sup>撮影:喜多村みか</sup> TÓPOS Exchange Program Photo: Mika Kitamura

created by Junya Ishii, a dancer who has studied under Josef Nadj, and Kaho Kogure, who has appeared in work by the likes of Akira Kasai.

During his stay, Gimeno worked collaboratively with Ishii and Kogure, creating a piece that focuses on the potential for new physical expression born from such constantly changing occurrences of "flow" as deserts, sand dunes, waterfalls, and spring water. This was staged at Super Deluxe in December 2018 as a work in progress. In addition, the TÓPOS project performed *Notes on Life* at YCC Yokohama Creative City Center as part of the TPAM Fringe program in February 2019.

## ヴィジティング・フェロー(リサーチ・プログラム)

現代演劇・舞踊の海外ネットワークの拡大、相互理解の促進 のため、重要な役割を担うことが期待される海外のアーティ ストやアーツ・マネジャー(プロデューサー、プログラム・ディ レクター、プレゼンター、キュレーター等)を招聘し、森下スタ ジオのゲストルームを拠点とする滞在機会を提供。日本の現 代演劇・舞踊の状況、背景、魅力を発見、理解してもらうため に、日本との継続的な協働事業を視野に入れた日本の現代 演劇・舞踊分野のリサーチを支援した。

## Visiting Fellows (Research Program)

In order to expand overseas networks for contemporary theater and dance as well as promote mutual understanding, the Foundation invites artists and arts managers (producers, program directors, presenters, curators, and so on) from abroad expected to play important roles in this regard to visit Japan and stay at the guest room facilities at Morishita Studio.

The Foundation supported research into Japanese contemporary theater and dance with an emphasis on developing sustainable collaborations with Japan so as to encourage understanding and awareness of the conditions, backgrounds, and appeals of contemporary theater and dance in Japan.



#### **パウラ・ロソレン** ドイツ 振付家・ダンサー

滞在期間:2018年10月15日~11月1日

Paula Rosolen Choreographer, dancer / Germany Residency: October 15-November 1, 2018

パウラ・ロソレンはドイツを拠点に活動する振付家で、ポップカル チャーや日常生活に内在するダンスを視覚化する作品を創作。代表作、 『Aerobics! – A Ballet in 3 Acts』(2015)では、エアロビクスをテーマにダ ンス、振付との関係を模索し、2016年に初演された『Puppets』では、文楽 や獅子舞、人形浄瑠璃を取り上げ、人形遣いの動きに着目した作品を発 表している。日本ではDance New Air 2018で、『Aerobics! – A Ballet in 3 Acts』を発表した。

滞在中、新作の創作の一環として、手旗信号やカラーガードについて、 美学及び協調運動の観点からリサーチを行った。また、武道家、日野晃の 道場を訪問し、交流を深めた。 Paula Rosolen is a Germany-based choreographer who creates work that visualizes the dance latent in pop culture or our everyday lives. With her major work *Aerobics! – A Ballet in 3 Acts* (2015), she explored the relationship between aerobics with dance and choreography, while with *Puppets*, which was premiered in 2016, she focused on the movements of puppeteers in the traditional Japanese puppet theater forms of Bunraku and Ningyo Joruri as well as the Shishi-mai lion dance. She presented *Aerobics! – A Ballet in 3 Acts* as part of the Dance New Air 2018 festival in Japan. During her stay in Tokyo, she researched flag semaphore and color guards from the perspectives of both aesthetics and coordinated movement as part of the development of a new work. She also visited the *dojo* of the martial arts master Akira Hino.



#### **シャンカル・ヴェンカテーシュワラン** インド 演出家 滞在期間:2019年1月10日~2月4日

Sankar Venkateswaran Theater director / India Residency: January 10–February 4, 2019

シャンカル・ヴェンカテーシュワランは、インド・ケーララを拠点に国際 的に活躍する演出家で、劇団シアター・ルーツ&ウィングスを主宰し、 2015-16年にケーララ州国際演劇祭の芸術監督を務めた。現在、ケーラ ラの山間部に住む先住民族とともに劇場を建設し活動を展開している。 日本では、2016年にKYOTO EXPERIMENTで太田省吾作『水の駅』を上 演し注目を集めている。

滞在中、新作のため「身体、空間、観客における政治と展望-現代日本 社会の演劇とダンス」をテーマに、日本の演劇、舞踊、儀式、祭りにおける 「演者と観客」の関係が持つ多次元にわたる現象についてリサーチを実施。また、京都造形芸術大学の京都芸術劇場studio 21やシアターコモン ズ<sup>1</sup>9にて、『犯罪部族法』を上演したほか、能楽師、観世喜正を訪問し、交 流を深めた。 Based in Kerala, India, Sankar Venkateswaran is an international theater director and head of the company Theatre Roots & Wings, and also served as artistic director of International Theatre Festival of Kerala from 2015 to 2016. He is currently working to build a theater with indigenous people in the mountains of Kerala. He staged Shogo Ohta's *The Water Station* at Kyoto Experiment in 2016, attracting much attention locally.

During his residency, he conducted research on multidimensional phenomena that possess some kind of performer-audience relationship within Japanese theater, dance, rituals, and festivals, exploring the theme of theater and dance in contemporary Japanese society as well as politics and future prospects in regard to the body, space, and audience as part of the development of a new theater piece. In addition to staging *Criminal Tribes Act* at Kyoto University of Art and Design's Kyoto Art Theater studio 21 and at Theatre Commons '19, he visited the Noh performer Yoshimasa Kanze and deepened his cultural exchange with Japan.



**レア・モロ** スイス 振付家・ダンサー 滞在期間:2019年2月18日~3月12日 <sup>撮影:Tina Ruisinger</sup>

#### Lea Moro

Choreographer, dancer / Switzerland Residency: February 18–March 12, 2019 Photo: Tina Ruisinger

レア・モロはベルリンとチューリッヒを拠点に活動する振付家、パフォーマーで、スイスの若手アーティストとして注目を浴びている。 2013年に初演されたソロ作品『Le Sacre du Printemps, a ballet for a single body』はHAU劇場やSophiensaele(ベルリン)で上演。 また、2015年に初演したグループ作品『(b)reaching stillness』は German Dance Platform 2016やSwiss Dance Day 2017で紹介さ れ、Arsenic(ローザンヌ)、ImPulsTanz(ウィーン)等の欧州有数の劇 場やフェスティバルにツアーされた。

滞在中、「出会い」を探求するプロジェクト、「Sketch of Togetherness」

のリサーチを実施。整体師や鍼灸師、美容師にインタビューを行い、寺社や 酒蔵を訪問した。日本の振付家やダンサーとも面会し、交流を深めた。

The Berlin- and Zurich-based choreographer and performer Lea Moro is a much-discussed emerging Swiss artist. Her solo piece *Le Sacre du Printemps, a ballet for a single body,* which premiered in 2013, has been performed at Hebbel am Ufer and Sophiensaele in Berlin. Following its premiere in 2015, her ensemble work *(b)reaching stillness* was presented at German Dance Platform 2016 and Swiss Dance Day 2017, and also toured to major theaters and festivals in Europe like Arsenic in Lausanne and ImPulsTanz in Vienna.

During her stay in Japan, she conducted research on a project called Sketch of Togetherness, where she searches for different kinds of encounters. She interviewed chiropractors, acupuncturists, and beauticians, and also visited temples, shrines, and sake breweries. She also held meetings with Japanese choreographers and dancers, deepening her connections with the performing arts scene in Japan.



**ダヴィド・カベシーニャ** ポルトガル Alkantara 共同芸術監督 滞在期間:2018年10月13日~11月15日 場巻:BrunoSima

#### David Cabecinha

Co-Artistic Director, Alkantara / Portugal Residency: October 13-November 15, 2018 Photo: BrunoSimão

ダヴィド・カベシーニャは演劇とダンスを中心にプロジェクトやフェ スティバル、レジデンシーを企画・制作するリスボンの組織Alkantara で共同芸術監督としてプログラムを担当。舞台芸術フェスティバル、 Alkantara Festivalでは、2018年にチェルフィッチュの『三月の5日間』 リクリエーション、2016年に川口隆夫の『大野一雄について』が上演さ れている。

滞在中、「Artists Exchange in Asia」と題し、アジアでの文化交 流事業について理解を深め、ポルトガルを軸とする3ヶ国間交流プ ロジェクトの実現に向け、アーティストやプロデューサー、制作者と 交流を深めるリサーチを実施。フェスティバル/トーキョーやKYOTO EXPERIMENTを視察し、数多くの日本の芸術家やプロデューサー、 制作者と親交を深めた。2020年のAlkantara Festivalにて、日本の 芸術家の作品を招聘し、その作品を紹介する計画をしている。

David Cabecinha is the co-artistic director at Alkantara, which organizes and coordinates projects, festivals, and residencies with a focus on theater and dance. At Alkantara Festival, a performing arts event in Lisbon, chelfitsch's *Five Days in March – Re-creation* was performed in 2018 and Takao Kawaguchi's *About Kazuo Ohno* was staged in 2016.

During his stay in Japan, he worked towards furthering his understanding of cultural exchange projects in Asia and realizing a trinational exchange project centered on Portugal, while also conducting research that deepened his connections with artists, producers, and production coordinators. He saw performances at Festival/Tokyo and Kyoto Experiment, and met with many Japanese artists, producers, and coordinators. At the 2020 Alkantara Festival, he plans to invite a Japanese artist to present his or her work.



**アンジェラ・コンケ** フランス/オーストラリア Dancehouse 芸術監督 滞在期間:2019年1月21日~2月20日

Angela Conquet Artistic Director, Dancehouse / France, Australia Residency: January 21–February 20, 2019

アンジェラ・コンケは2011年からメルボルンのダンス専門劇場、 Dancehouseで芸術監督を務め、オーストラリア国内外でインディペ ンデントに活動し、実験的な作品を創作する振付家やダンサーの公演 を手掛けている。また、オーストラリア最大規模の舞台芸術フェスティ バル、AsiaTOPA 2017では、川口隆夫を招聘し、『大野一雄について』 を上演している。

滞在中、「Body Archives」と題し、文化の継承や保存、革新をテーマに、伝統芸能や舞踏、舞踏以降の様々なダンス、デジタルメディアと コンテンポラリーダンスの関係性について理解を深めるリサーチを実施。横浜ダンスコレクションやTPAM in 横浜を視察し、数多くの日本の振付家やプロデューサー、制作者と面会をし、親交を深めた。2020 年のAsiaTOPAにて、日本の振付家やダンサーを招聘し、その作品を 紹介する計画をしている。

Angela Conquet has served as the artistic director of Dancehouse, a specialist dance theater venue in Melbourne, since 2011, and also works independently in and outside Australia on productions by experimental dancers and choreographers. For the 2017 edition of AsiaTOPA, Australia's largest performing arts festival, she invited Takao Kawaguchi to present *About Kazuo Ohno*.

During her residency, she explored the themes of cultural inheritance, preservation, and innovation as part of a project called Body Archives, conducting research that deepened her understanding of the relationship between digital media and contemporary dance as well as about various kinds of dance including traditional performance, butoh, and post-butoh movements. She also viewed events at Yokohama Dance Collection and TPAM in Yokohama, meeting with numerous Japanese choreographers, producers, and coordinators, and deepening her network in the country. She plans to invite Japanese choreographers and dancers to take part in AsiaTOPA in 2020.

#### 舞台芸術のAIRミーティング

会期:2019年2月10日 会場:Kosha33

共催:国際舞台芸術ミーティングin 横浜(TPAM)2019

レクチャー登壇者:水野立子(NPO法人 ジャパン・コンテンポラリー ダンス・ネットワーク プログラム・ディレクター)、矢作勝義(穂の国と よはし芸術劇場PLAT 芸術文化プロデューサー)、横堀ふみ(NPO法 人DANCE BOX プログラム・ディレクター)

シンボジウム登壇者:アンジェラ・コンケ(ダンスハウス 芸術監督/ オーストラリア)、キャサリン・リー(台北国際芸術村 ディレクター/ 台湾)、村川拓也(演出家)、水野立子(NPO法人 ジャパン・コンテン ポラリーダンス・ネットワーク プログラム・ディレクター)、矢作勝義 (穂の国とよはし芸術劇場プラット 芸術文化プロデューサー)、横 堀ふみ(NPO法人DANCE BOX プログラム・ディレクター) ゲスト:レア・オローリン(ResArtis 総裁/英国)、ダニエル・ファビ エ(La Brigueterie 芸術監督/フランス)等

国内における舞台芸術のアーティスト・イン・レジデンスの普及を 目的に、国内の最新のAIRの状況や運営のノウハウを共有するレク チャーと、舞台芸術におけるAIRの新しい可能性を探るシンポジウム を開催。国内外の劇場の芸術監督やプロデューサー、アーティスト、 研究者等、延べ約100名が参加した。

## Performing Arts AiR Meeting

Period: February 10, 2019 Venue: Kosha33

Co-organized by TPAM – Performing Arts Meeting in Yokohama 2019

Lecturer: Ritsuko Mizuno (Program Director, NPO Japan Contemporary Dance Network), Katsuyoshi Yahagi (Chief Producer, Toyohashi Arts Theatre PLAT), Fumi Yokobori (Program Director, NPO Dance Box)

Panelists: Angela Conquet (Artistic Director, Dancehouse), Catherine Lee (Director, Taipei Artist Village / Treasure Hill Artist Village), Takuya Murakawa (Theater director), Ritsuko Mizuno (Program Director, NPO Japan Contemporary Dance Network), Katsuyoshi Yahagi (Chief Producer, Toyohashi Arts Theatre PLAT), Fumi Yokobori (Program Director, NPO Dance Box)

Guest: Leo O'Loughlin (President, ResArtis), Daniel Favier (Artistic Director, Centre de développement chorégraphique national du Val-de-Marne in France)

In order to promote and spread information, a lecture was held for sharing the latest situation regarding residencies in Japan and management know-how as well as a symposium exploring new possibilities for performing arts artist-in-residence programs. The events were attended by around 100 people including theater artistic directors, producers, artists, and researchers from Japan and overseas.

## 「舞台芸術の広報・宣伝」研究会

会期:2018年5月11日、5月25日、7月2日、7月27日
会場:森下スタジオ
コーディネーター/講師:冠那菜奈(アートメディエイター、Tiarart. com代表)
講師:熊井玲(ステージナタリー編集部 編集長)
高宮知数((株)ファイブ・ミニッツ代表、東日本国際大学地域振興
戦略研究所客員教授)
島貫泰介(美術ライター、編集者)
ゲストコメンテーター: 森隆一郎(アートやカルチャーで社会にクリ
エイティブな渚を生み出す「渚と」主宰)

舞台芸術作品をより多くの、より多様な人々に届けるための、人々 が作品に関心を抱き、作品を見たくなる、劇場に足を運ぶように働き かける広報・宣伝の方法、チラシ、ダイレクトメールといった従来の 手法の必要性の有無、より良い活かし方、インターネット、SNS等、デ ジタルツールの効果的な活用法を研究し、新たなアイデア、実践の ための手法を考える研究会を実施した。

20名が参加したこの研究会では、レクチャー、討議、グループワークを通じて動員数の増加、観客層開拓のための広報・宣伝方法(販売促進、営業方法)を検討し、最終回には参加者それぞれが独自のプランを発表した。検討された施策のうち優れたものについては実際に試行し、効果を評価したうえで、各地での普及につなげていくことを最終的な目標としている。2019年度の「創造環境イノベーション」に、本研究会の参加者から施策案件の申請があり、助成することになった。

## 2. Performing Arts PR and Marketing Study Sessions

Period: May 11, 25, July 2, 27, 2018 Venue: Morishita Studio Coordinator, Lecturer: Nanana Kanmuri (Art mediator, Tiarart.com) Lucturer: Rei Kumai (Chief Editor, Stage Natalie) Tomokazu Takamiya (President, FIVE MINUTES Co., LTD. ; Visiting Professor, Higashi Nippon International University Institute of Regional Development Strategy) Taisuke Shimanuki (Art writer, Editor) Guest Commentator: Ryuichiro Mori (nagisato)

A series of study sessions was organized for considering ways to develop new ideas and practices as well as research effective uses of digital tools like the Internet and social media, the necessity of and better means of utilizing conventional approaches like flyers and direct mail marketing, and other PR and marketing means that can encourage people to see a performance and also reach more and new kinds of audiences.

The sessions considered marketing and publicity approaches (promotion and management methods) for developing and increasing audiences through holding lectures, discussions, and group activities with the 20 participants, who each presented their own plans at the final session in the series. The ultimate goal of the series is to share throughout Japan the outstanding approaches from among those considered during the study sessions, after testing them in actual situations and evaluating their effectiveness. One of the participants in the sessions subsequently submitted an application to the 2019 Creative Environment Innovation Program, which was then selected for sponsorship by the Foundation. 地域における舞台芸術の振興、海外でのアーツ・マネジメント 留学・研修、国際交流事業の成果や森下スタジオで実施された 事業など、当財団の助成・共催事業に関連した論考、レポートを 幅広く掲載。芸術団体、自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンク タンク、研究者などに無料配布している。毎号印刷版を1,100部 以上発行し、ウェブ版は当財団のメーリングリスト登録者1,400 名以上に告知している。(以下、執筆当時の肩書を記載)

#### 第83号(2018年7月発行) 特集:演出は著作物か?

- ・舞台公演は著作物か?演出家に著作権はあるのか? 福井健策[弁護士(日本・ニューヨーク州)/日本大学芸術学部・ 神戸大学大学院客員教授/骨董通り法律事務所代表パート ナー/国会図書館審議会会長代理/内閣知財本部委員]
- ・演出家とは、何をする仕事か
- 谷 賢一[作家・演出家・翻訳家/DULL-COLORED POP主宰 /新国立劇場演劇研修所講師]
- ・インタビュー:演出は著作物だと思う派のジレンマ
- 藤田 貴大[マームとジプシー主宰/演劇作家]
- ・演出家の役割:英国演劇の場合

川島健[同志社大学文学部教授(英文学研究、演劇研究)]

#### 第84号(2018年10月発行) 特集:民間による公共

- ・「公共」の形を変える「踊る阿呆」たち
- 大澤 寅雄[株式会社ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト 室主任研究員/NPO法人アートNPOリンク理事/NPO法人 STスポット横浜監事]
- ・芸術と公共についてTPAM(ティーパム)の仕事を通して 考えたこと。

丸岡 ひろみ[TPAM-国際舞台芸術ミーティングin横浜ディレク ター/PARC-国際舞台芸術交流センター理事長/特定非営利 活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM)副 理事長]

- ・「わたくし」の公共性
- 佐藤 信[劇作家·演出家/座·高円寺(杉並区立杉並芸術会館) 芸術監督]
- ・民間劇場にとっての公共性とは何か?
- あごうさとし[劇作家・演出家/一般社団法人アーツシード京都 代表理事/同志社女子大学嘱託講師/京都造形芸術大学非 常勤講師]

第85号(2018年12月発行) 特集:「国際的な舞台芸術祭」とは?

自 主 製

作

事

業

- ・手をかけて育て、時には旅もさせる
- 河合 千佳[フェスティバル/トーキョー共同ディレクター/日本 大学芸術学部演劇学科非常勤講師]
- ・国際的な舞台芸術フェスティバルの意義って、なあに?
   スウェイン 佳子[福岡ダンスフリンジフェスティバル芸術監督/
   NPO法人コデックス(Co.D.Ex.)代表理事]
- ・危機の時代の「祝祭」

相馬 千秋[NPO法人芸術公社代表理事/アートプロデューサー / 立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教授/シアター コモンズ実行委員長兼ディレクター/あいちトリエンナーレ 2019キュレーター(パフォーミングアーツ)]

・郷土芸能は舞台芸術か

千田 優太[一般社団法人アーツグラウンド東北代表理事/ARCT 代表/三陸国際芸術祭フェスティバルマネージャー/岩手県 西和賀町文化創造館運営委員]

- ・細部と日常と思想 中島 諒人[演出家/鳥の劇場芸術監督、鳥の演劇祭フェスティ バル・ディレクター/BeSeTo演劇祭日本委員会代表]
- ・自己中の誘惑から自由になるために
   橋本 裕介「KYOTO EXPERIMENTプログラム・ディレクター/特定

非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM) 理事長/ロームシアター京都プログラム・ディレクター]

- ・真の国際芸術祭とは 宮久保 真紀[Dance New Airチーフプロデューサー/一般社 団法人ダンス・ニッポン・アンシエイツ代表理事/公益財団法人 地域創造 公共ホール現代ダンス活性化事業コーディネーター]
- ・悲しい現実は避けられないのか-国際文化祭典法と芸術 文化の評価基準の問題

山川 三太[株式会社オフィス・サンタ代表取締役/『踊る。秋田』 フェスティバル・ディレクター]

- ・「国際文化祭典法」における"国際"の示す先から 横堀 ふみ[NPO法人DANCE BOXプログラム・ディレクター/ 特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM)理事]
- ・2030年代に向けて、今できること 横山義志[SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部/東京芸術 祭直轄事業ディレクター/学習院大学・静岡県立大学非常勤 講師/特定非営利活動法人舞台芸術制作者オープンネット ワーク(ON-PAM)理事(政策提言調査室担当)]
- ・芸術活動が活きる祭典を
   小林 真理「東京大学教授]

#### 第86号(2019年3月発行) 特集:その土地と踊る-アーティ ストが地域に入っていく時

- ・ダンスの生態系とメッシュワーク 武藤 大祐[ダンス批評家/群馬県立女子大学文学部准教授 (舞踊学・美学)/振付家]
- ・日本での十年 A Decade in Japan
   ショーネッド・ヒューズ[振付家]
- ・風まかせの途中-へんてこなお祭りの逞しさに勇気づけられて 白神 ももこ[モモンガ・コンプレックス主宰、振付家/演出家/ ダンサー]

The Saison Foundation's newsletter *viewpoint* carries a wide range of reports and essays on issues that are more or less related to the activities supported by the Foundation, such as our Saison Fellows program, projects aimed to improve the infrastructure within the performing arts sector in Japan, international collaboration projects, reports from our Sabbatical program grantees, etc. 1,100 copies are published for each issue of the print version, which are circulated free of charge to art organizations, local and national government offices, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc. Additionally, more than 1,400 people registered on our mailing list are notified whenever the digital version of each issue is uploaded to the Foundation's website. (The following titles and organizations of the writers are of those at the time of publication.)

## Issue No. 83 (July 2018) Feature: Is Direction Copyrighted Work?

- Is Stage Production Protected Under Copyright? Does It Belong to Stage Director?
- by Kensaku Fukui, Attorney-at-Law (Admitted in Japan and the State of New York); Visiting Professor of Art, Nihon University; Managing Partner, Kotto Dori Law Office; Co-Chair, Legal Deposit System Council of the National Diet Library; Member of the Intellectual Property Strategy Headquarters of the Cabinet of Japan
- What Is the Job of a Director? by Kenichi Tani, Writer, Director, Translator, Leader of DULL-COLORED POP; Lecturer at the New National Theatre Drama Studio
- The Dilemma of the Direction-Is-Copyrighted-Work Faction Interview with Takahiro Fujita, Leader of Mum & Gypsy; Director & Playwright
- The Role of Theatre Director: A Study on British Theatre by Takeshi Kawashima, Professor of British Literature and British Theatre, Faculty of Letters, Doshisha University

## Issue No. 84 (October 2018)

## Feature: Private Sector, Public Good

- The "Dancing Fools" Who Change the Shape of Our "Public Good"
- by Torao Ohsawa, Senior Researcher, Center for Arts and Culture, NLI Research Institute; Board Member, Art NPO Link; Auditor, ST Spot Yokohama
- $\cdot$  What I Thought About Art and Publicness Through My Work At TPAM

by Hiromi Maruoka, Director, TPAM – Performing Arts Meeting in Yokohama; President, Japan Center, Pacific Basin Arts Communication (PARC); Vice President, Open Network for Performing Arts Management (ON-PAM)

- The Public-ness of the Self by Makoto Satoh, Playwright, Director; Artistic Director, ZA-K0ENJI Public Theatre
- What Is the Publicness of a Private Theatres?
- by Satoshi Ago, Playwright, Executive Director; Arts Seed Kyoto; Part-time Lecturer, Doshisha Women's College of Liberal Arts; Part-time Lecturer, Kyoto University of Art and Design

## Issue No. 85 (December 2018)

## Feature: About International Performing Arts Festivals

• Raise It With Tender Loving Care, but Let It Travel Sometimes by Chika Kawaii, Co-Director, Festival/Tokyo (F/T); Theatre

Course Adjunct Instructor, College of Art, Nihon University

• So What's the Significance of International Performing Art Fesivals?

by Yoshiko Swain, Artistic Director, Fukuoka Dance Fringe Festival; Executive Director, Co.D.Ex.

- $\cdot$  Festival in Times of Crisis
- by Chiaki Soma, Representative Director, Arts Commons Tokyo; Art Producer; Specially Appointed Associate Professor, College of Contemporary Psychology, Department of Body Expression and Cinematic Arts, Rikkyo University; Executive Committee Chairperson and Executive Director, Theater Commons Tokyo; Performing Arts Curator, Aichi Triennale 2019
- $\cdot$  Is Folk Entertainment Performing Arts?

by Yuta Chida, Representative Director, Arts Ground Tohoku; Director, Art Revival Connection Tohoku (ARCT); Festival Manager, Sanriku International Arts Festival

- Details, Everyday Life, and Values
- by Makoto Nakashima, Director; Artistic Director, BIRD Theatre Company; Festival Director, BIRD Theatre Festival; Representative, BeSeTo Theater Festival Japan Committee
- How to Become Free From the Temptations of Egotism by Yusuke Hashimoto, Program Director, KYOTO EXPERIMENT; President, Open Network for Performing Arts Management (ON-PAM); Program Director, ROHM Theatre Kyoto
- $\cdot$  What a True International Festival Is

by Maki Miyakubo, Chief Producer, Dance New Air; Director, Dance Nippon Associates; Coordinator, Revitalizing Contemporary Dance in Public Halls Project, Japan Foundation for Regional Art-Activities

- Can't We Evade the Sad Reality? The Problem of the Act on International Cultural Festivals and the Evaluation of Arts and Culture
- by Santa Yamakawa, President, Office Santa; Festival Director, Odoru Akita
- From Where the "International" in the "Act on International Cultural Festivals" Points Us To

by Fumi Yokobori, Program Director, DANCE BOX; Board Member, Open Network for Performing Arts Management (ON-PAM)

- $\cdot$  What We Can Do Now Towards the 2030s
- by Yoshiji, Yokoyama, Dramaturg, Shizuoka Performing Arts Center (SPAC); Director of Directly Managed Programs, Tokyo Festival; Part-time Lecturer at Gakushuin University and the University of Shizuoka; Board Member (in charge of the Research Office for Advocacy), Open Network for Performing Arts Management (ON-PAM)
- For Festivals That Will Vitalize Art Activities by Mari Kobayashi, Professor, The University of Tokyo

## Issue No. 86 (March 2019)

Feature: Dancing With the Land – When Artists Enter Local Communities

- Ecology of Dancing and the Concept of Meshwork by Daisuke Muto, Dance Critic; Associate Professor of Dance Studies and Aesthetics, Gunma Prefectural Women' s University; Choreographer
- A Decade in Japan
- by Sioned Huws, Director, Choreographer, Dancer
- In the Middle of Letting Things Drift or How I Was Encouraged by the Sturdiness of Weird Festivals
- by Momoko Shiraga, Leader and Choreographer of momonga complex; Director and Dancer

**リアル・アーティストカンバセーション・ワークショップ(RAC)** 共催:ブリティッシュ・カウンシル 会期:2018年5月17日~7月12日 会場:森下スタジオ

アーティストおよび制作者を対象とした英語ワークショッ プ。ブリティッシュ・カウンシルの講師派遣による協力のもと、 約二ヶ月間、週一回実施した。セゾン・フェローなど助成対象 者を中心に計14名が参加し、様々な使用状況を想定して英 語でのコミュニケーションの練習を重ねた。まとめとして自身 の芸術活動によって実現させたいことを発表するプレゼン テーションを実施。舞台芸術界でも普段なかなか顔を合わせ ることがない参加者同士の意見交換の場としても機能した。

#### 庭劇団ペニノ×セゾン文化財団 演劇体験拡張講座およ

び新作『蛸入道 忘却ノ儀』創作上演

期間:

演劇体験拡張講座 庭劇団ペニノ『蛸入道 忘却ノ儀』を10

倍楽しむ会

2018年6月21日~6月25日

新作公演『蛸入道 忘却ノ儀』上演

2018年6月28日~7月1日

会場:森下スタジオ

企画・制作:庭劇団ペニノ

主催:合同会社アルシュ

助成(上演に対して):芸術文化振興基金 公益財団法人ア サビグループ芸術文化財団 アーツカウンシル東京(公益財 団法人東京都歴史文化財団)

庭劇団ペニノの2018年新作創作および公演のために森 下スタジオを提供した。併せて公演前に、より深く作品内容、 背景を知るための知識普及講座を開催。研究者等を招き本 作に関連したテーマの講座を実施した。森下スタジオのCス タジオを寺のお堂に仕立て、通常の演劇形式とは異なる儀式 的なパフォーマンスを展開する公演となった。演劇体験拡張 講座 630名/公演1215名を動員。 共

**梅田宏明 + Somatic Field Project**『1-resonance』 公演:2018年6月30日・7月1日 会場:あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター) 稽古場提供期間:2018年5月1日から6月27日の間で19日間 提供

主催:合同会社S20、Somatic Field Project

協力:城崎国際アートセンター(豊岡市)

助成:アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化 財団)

2014-2016年シニア・フェロー期間中に開始した若手ダン サーの育成とトレーニングの長期リサーチプロジェクトの成 果を本公演の形で発表、セゾン文化財団は稽古場として森下 スタジオを無償提供した。公演では、Somatic Field Project による新作、海外では多く上演されながらも国内では未発表 であったソロ作品『Intensional Particle』、『1. centrifugal』 の再演が上演された。また、ロビーではインスタレーション (VR作品)も展示した。

**コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール2018** 期間:2018年11月22日~25日 会場:森下スタジオ 主催:NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワー ク(JCDN) 共催:Big Family Tokyo 助成:アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化 財団) 教育、福祉、医療、まちづくりなど地域社会の様々な場での

ダンスの活用を推進するコミュニティダンス・ファシリテー ターの、東京での初開催となる養成スクール開催に森下スタ ジオおよびゲストルームを提供。コミュニティダンスの先進事 例を持つイギリスより講師を招き、基礎コースと応用コースが 開催され、いずれも人気を博した。

## **Real Artist Conversations**

Co-organizer: British Council Period: May 17–July 12, 2018 Venue: Morishita Studio

This was an English-language workshop for artists and production coordinators. In partnership with the British Council, who provided specialist instructors, the program was held once a week for a period of around two months. It was attended by a total of 14 people, comprising mainly recipients of Saison Fellow grants, who were given training in English communication in a wide range of scenarios. The program culminated in a presentation of how participants wished to realize the training through their artistic activities. In this way, the workshop served as an opportunity for opinions to be exchanged between peers in the performing arts industry who ordinarily do not meet face to face.

## Niwa Gekidan Penino + The Saison Foundation

*Octopus Monks* Creative Development and Premiere, Pre-Performance Lecture Program Period:

Niwa Gekidan Penino

Theater: *Octopus Monks* Creative Development and Pre-Performance Lecture Program: June 21-25, 2018 Niwa Gekidan Penino

Octopus Monks Premiere : June 28-July 1, 2018

Venue: Morishita Studio

Producition: Niwa Gekidan Penino

Organizer: Arche LLC.

Support for the Premiere: Japan Arts Council, Asahi Group Arts Foundation, Arts Council Tokyo

The theater company Niwa Gekidan Penino was provided with the use of Morishita Studio for developing and performing a new production in 2018. In addition, a special Pre-Performance Lecture Program was organized before the performances in order to offer audiences the opportunity to learn more about the work and its background. It featured lectures on themes related to the play given by invited researchers and other speakers. Morishita Studio's Studio C was transformed into a temple hall, which hosted a ritualistic performance quite unlike conventional theater. The learning program attracted 630 attendees and the performances a total audience of 1,215.

## Hiroaki Umeda + Somatic Field Project 1-resonance

Performance: June 30, July 1, 2018 Venue: OWLSPOT Theatre Morishita Studio Rental Period: 19 days during May 1-June 27, 2018 Organizer: S20 LLC., Somatic Field Project Cooperarion: Kinosaki International Arts Center Support: Arts Council Tokyo

The Saison Foundation provided complimentary use of Morishita Studio as a rehearsal space for this performance, which was the result of a long-term research project on training and development for young dancers launched during a 2014–16 Senior Fellowship. The performance comprised a new piece by Somatic Field Project, the local premiere of *Intensional Particle*, a solo work that had already been staged overseas many times but never before in Japan, and a revival of *1. centrifugal.* In the theater lobby, a virtual reality artwork installation was also exhibited.

## Community Dance Practitioner Training School 2018

Period: November 22-25, 2018 Venue: Morishita Studio Organizer: NPO Japan Contemporary Dance Network Co-sponsor: Big Family Tokyo Support: Arts Council Tokyo

The Saison Foundation provided the use of Morishita Studio and its guest rooms for this training program held for the first time in Tokyo by a community dance facilitator working to promote dance in various places among local communities, including education, welfare, healthcare, and community development. Featuring an instructor from the UK, where there is an established precedent for community dance, the program offered foundational and applied courses, which both proved popular.

事業日誌 会計報告 評議員·理事·監事·顧問名簿 FINANCIAL REPORT TRUSTEES, DIRECTORS, AUDITORS AND ADVISER

## 2018年4月-2019年3月

業		
日	2018年	
誌	5月22日	第30回理事会開催(2017年度事業報告および同附
		属明細書並びに財産目録承認の件、事業執行およ
		び法人管理の状況報告)
	6月15日	第10回評議員会開催(2017年度事業報告および同
		附属明細書並びに財産目録承認の件、評議員・理
		事・監事選任の件)
		第31回理事会開催(理事長·副理事長·常務理事選
		出、顧問選任の件)
	6月29日	2017年度事業報告等を内閣府に提出
	8月1日	2019年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》募集開始
	9月26日	2019年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》セゾン・
		フェロー申請締切
	10月17日	第32回理事会開催(アドバイザリー委員会委員選任
		の件)
	10月18日	2019年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》サバ
		ティカル/パートナーシップ・プログラム/セゾン・
		アーティスト・イン・レジデンス申請締切
	11月26日	2019年度アドバイザリー委員会(創造環境イノベー
		ション)開催
	12月27日	2019年度アドバイザリー委員会(セゾン・フェロー/
		サバティカル/パートナーシップ・プログラム/セゾ
		ン・アーティスト・イン・レジデンス)開催
	2019年	
	1月24日	第33回理事会開催(2019年度事業計画および収支予
		算承認の件、事業執行および法人管理の状況報告)
	1月25日	2019年度助成等決定発表
	1月29日	2019年度事業計画・予算を内閣府に提出
	3月19日	2018年度助成対象者懇親会を森下スタジオ新館にて
		開催

2018	
May 22	The 30th Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and management, settlement of accounts for fiscal year 2017; report on the current state of activities and management of the foundation)
June 15	The 10th Board of Trustees Meeting in Tokyo (Agenda: report on activities and management, settlement of accounts for fiscal year 2017, Selection of Trustees and Directors, and Auditors) The 31th Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: Election of President,Vice President, Managing Directors and appointment of Advisor)
June 29	Submit annual report 2017 to the Cabinet Office
August 1	Application period for the 2019 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/ Guestroom Awards and Saison Artist in Residence Program begins
September 26	Application deadline for the 2019 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards: Saison Fellows
October 17	The 32nd Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: Selection of members of the Advisory Meeting)
October 18	Application deadline for the 2019 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio/ Guestroom Awards: Sabbatical / Partnership / Saison Artist in Residence
December 26	Advisory meeting for the 2019 Contemporary Theater Grant and Studio/Guestroom Awards: Creative Environment Innovation Program held in Tokyo
December 27	Advisory meeting for the 2019 Contemporary Theater Grant and Studio/Guestroom Awards: Saison Fellows / Sabbatical / International Projects Support Program / Saison Artist in Residence held in Tokyo
2019	
January 24	The 33rd Board of Directors Meeting in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2019; report on the current state of activities and management of the foundation)
January 25	Announcement of 2019 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio/Guestroom Awards and Saison Artist in Residence
January 29	Submit annual plan 2019 to the Cabinet Office
March 19	Party for 2018 Grantoos at Morishita Studio

Party for 2018 Grantees at Morishita Studio

March 19

**REVIEW OF ACTIVITIES** 

## 正味財産増減計算書 2018年4月1日~2019年3月31日

# NET ASSETS VARIATION STATEMENT from April 1, 2018 to March 31, 2019

単位:円/in yen

I 経常収益の部	Ordinary Revenue	
1. 基本財産運用収入	Investment income from endowment fund	201,671,588
2. 特定資産運用収入	Investment income from designated fund	9,645,670
3. 賃貸収入	Income from lease	18,833,820
4. 受取寄附金	Contributions	1,250,000
5. その他の収入	Other income	9,020,837
経常収益計	Total Ordinary Revenue	240,421,915

Ⅱ 経常費用の部	Ordinary Expenses	
1. 事業費	Program services	188,241,220
(うち助成金	Grant	63,814,817)
2. 管理費	Management and general	33,766,399
	Total Ordinary Expenses	222,007,619
	Total of Profit and Loss on Appraisal	175,381,442
当期経常増減額	Current Change in Ordinary Profit	193,795,738
当期経常外増減額	Current Change in Extraordinary Profit	3,701
当期正味財産増減額	Current Change in Net Assets	193,679,439

会計報告 FINANCIAL REPORT

貸借対照表	
2019年3月31日現在	

BALANCE SHEET as of March 31, 2019

		単位:円/in yen
産の部	ASSETS	
動資産	Current assets	
現金預金	Cash	169,946,314
未収収益等	Accrued revenue	573,591
動資産合計	Total current assets	170,519,905
定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment	
土地	Land	2,556,129,607
有価証券	Securities	6,540,378,296
基本財産合計	Total endowment fund	9,096,507,903
持定資産	Designated fund	483,425,732
その他の固定資産	Other fixed assets	304,989,650
定資産合計	Total fixed assets	9,884,923,285
	TOTAL ASSETS	10,055,443,190

Π	負債の部	LIABILITIES	
	負債合計	TOTAL LIABILITIES	16,518,185

Ⅲ 正味財産の部	NET ASSETS	
	Net assets	10,038,925,005
(うち当期正味財産増加額	Increase of assets	193,679,439)
 負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	10,055,443,190

## 資金助成の概況 Summary of Grants 1987–2018

分野 category	年度 year	申請件数 number of applications	助成件数 number of grants	助成金額(円) grants in yen
現代演劇·舞踊助成	1987-2014	4,360	1071	2,261,553,385
Contemporary Theater and	2015	194	53	57,016,917
Dance Program Grants	2016	209	50	57,596,259
	2017	213	49	56,535,164
	2018	175	49	57,217,922
	累計 total	5,151	1,272	2,489,919,647
	1987-2014		226	772,374,952
Designated Fund	2015		2	6,500,000
Program Grants	2016		1	6,000,000
	2017		2	6,500,000
	2018		2	6,500,000
	累計 total		233	797,874,952
 合計 grand total			1,505	3,287,794,599

## 2018年度《現代演劇・舞踊公募プログラム》の申請・採択状況 Data on Contemporary Theater and Dance Programs in 2018

	芸術家への直接支援 Direct Support to Artists			パートナーシ Partnership	ップ・プログラ Programs	Д			セゾン・アーティスト・ イン・レジデンス		
プログラム	セゾン・フェロー Saison Fellows			創造環境イノベーション Creative Environment Innovation Program		国際 プロジェクト	フライト・ グラント	合計	Saison Artist in Residence		
programs	ジュニア・ フェロー Junior Fellows	シニア・ フェロー Senior Fellows	サバティカル (休暇・充電) Sabbatical Program	課題解決 支援 Support for Problem- Solving Projects	スタートアップ 支援 Support for Startup Projects	支援 International Projects Support Program	Flight Grant	Total	セゾンAIR パートナー シップ Saison AIR Partnership	ヴィジ ティング・ フェロー Visiting Fellows	
申請件数 number of applications	60* (38/18/4)**	31* (23/7/1)**	2	6	6 13*		42	175	6	26	
助成件数 number of awards	13* (8/4/1)**	9* (6/3/0)**	1	2	5	10*	9	49	2	5	
助成金額(円) grants in yen	13,000,000	18,727,332	1,000,000	3,000,000 7,850,000		12,500,000	1,140,590	57,217,922	-	-	

\* 継続を含む Including extended grants

\*\*(演劇/舞踊/パフォーマンス) [theater/dance/performance]

## 2018年度 森下スタジオ 稼働状況(収益事業を含む)

Morishita Studio Occupancy Report for FY2018/19 (including days used for profit-making business)

2018年度 FY2018/19		4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September	10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March	年間合計 Total	
開館E	]数 Days open	25	31	30	31	31	28	31	30	28	28	28	31	352	年間 稼働率(%)
休館E	]数 Days closed	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	13	Annual
Total o	J能延べ日数(開館日数×4スタジオ) of available studio days open x 4 Studios)	100	124	120	124	124	112	124	120	112	112	112	124	1,408	rates (%)
A Number o	Aスタジオ(中/109.35㎡) Studio A (Medium/109.35 sq.m) 本館1階 1F, Main Bldg.	25	31	30	31	31	28	28	30	28	28	28	31	349	99.1
101	Bスタジオ(中/109.35㎡) Studio B (Medium/109.35 sq.m) 本館2階 2F, Main Bldg.	25	30	29	31	31	27	31	29	28	28	28	31	348	98.9
「days used per s	Cスタジオ(大/238.56㎡) Studio C (Large/238.56 sq.m) 本館1階 1F, Main Bldg.	25	31	30	31	31	28	28	30	28	28	28	30	348	98.9
studio	Sスタジオ (小/77.97㎡) Studio S (Small/77.97 sq.m) 新館1階 1F, Annex"	25	31	29	31	29	28	31	30	28	28	28	31	349	99.1
利用実績延べ日数 Total of used studio days		100	123	118	124	122	111	118	119	112	112	112	123	1,394	99.0
	《働率(%) ly occupancy rates (%)	100.0	99.2	98.3	100.0	98.4	99.1	95.2	99.2	100.0	100.0	100.0	99.2		

【ゲストルームについて】 森下スタジオ新館2階にある3つのゲストルームは、2018年度中に計510日間利用された。

[Guest Rooms] Our three Guest Rooms on the second floor of the Annex was used for 510 room days in 2018.

## 2018年度 寄附受取実績について Contributions received in FY2018/19

2018年度にご支援いただきました以下の法人および個人に深く感謝申し上げます。 The Saison Foundation is grateful to the following donors for their contributions made in fiscal year 2018/19.

法人賛助会員として	株式会社パルコ
As a Legal Entity Support member	Parco Co., Ltd.
一般寄附として	匿名希望(個人1名)
As a general donation	Anonymous individual



庭劇団ペニノ×セゾン文化財団 演劇体験拡張講座/「蛸入道 忘却ノ儀』 創作上演 森下スタジオ、2018年6月 撮影:杉彫信介

"Octopus Monks Creative Development and Pre-Performance Lecture Program" and Octopus Monks organized by NIWA GEKIDAN PENINO, at Morishita Studio, June 2018 Photo: Shinsuke Sugino



ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク「コミュニティダンス・ファシ リテーター養成スクール2018」森下スタジオ、2018年11月 "Community Dance Practitioner Training School 2018" organized by Japan Contemporary Dance Network, at Morishita Studio, November

2018

#### (2019年6月末現在/五十音順)

Continental Hotel Co., Ltd

▶評 議 員		►TRUSTEES	
石井 達朗	舞踊評論家	Toshi Ichiyanagi	Composer and pianist; General Artistic Directo
一柳 慧	作曲家/ピアニスト/公益財団法人神奈川芸術文化財団		Kanagawa Arts Foundation
	芸術総監督	Tatsuro Ishii	Dance critic
植木 浩	一般社団法人現代舞踊協会 会長	Kazuko Koike	Professor Emeritus, Musashino Art Universit
内野 儀	学習院女子大学 国際文化交流学部日本文化学科 教授		Director, Towada Art Center
小池 一子	武蔵野美術大学 名誉教授/十和田市現代美術館 館長	Kazuko Matsuoka	Theater critic and translator
	パイオニア株式会社 顧問/一般財団法人Marching J財団	Kiyoshi Mizoochi	Theater critic
	代表理事/株式会社ナカノフドー建設 監査役/ダイキン	Mitsuyoshi Numano	Professor, Graduate School of Humanities a
	工業株式会社 顧問	Hiroshi Rinno	Sociology, The University of Tokyo Chairman and Chief Executive Officer, Cre
堤 たか雄	一般財団法人セゾン現代美術館代表理事・館長		Saison Co., Ltd.
	東京大学大学院 人文社会系研究科 教授	Shunichi Sato	Corporate Adviser, Pioneer Corporation; Preside
松岡 和子		Shameni Sato	Marching J Incorporated Foundation; Corpora
水落潔			Auditor, Nakano Corporation ; Adviser, Dail
H	演劇評論家		Industries,Ltd.
	評論家/劇作家	Takao Tsutsumi	President, Director, Sezon Museum of Modern
林野 宏	株式会社クレディセゾン 代表取締役会長CEO	Tadashi Uchino	Professor, Faculty of Intercultural Studies, De
			of Japanese Studies, Gakushuin Womer
▶理事·監事			College
		Hiroshi Ueki	President, Contmporary Dance Association
>理事長			Japan
片山 正夫*		Masakazu Yamazaki	Critic and playwright
>副理事長		► DIRECTORS AND AU	IDITORS
堤 麻子	ー般財団法人セゾン現代美術館 評議員	PRESIDENT	
		Masao Katayama*	
>常務理事			
久野(島津)	敦子*	▷VICE PRESIDENT	Trustee, Sezon Museum of Modern Art
		Asako Tsutsumi	
>理事		▷MANAGING DIRECT	2P
鍵岡 正謹	岡山県立美術館 顧問	Atsuko Hisano*	
堤 康二	一般財団法人セゾン現代美術館 評議員	Atsuko misano	
中野 晴啓	セゾン投信株式会社(代表取締役社長		
北條 愼治	元・株式会社クレディセゾン 常務取締役	Shinji Houjyou	Former Managing Director, Credit Saison Co., L
渡邊 紀征	元·株式会社西友 取締役会議長·代表執行役	Masanori Kagioka	Adviser, Okayama Prefectural Museum of A
		Haruhiro Nakano	President and Chief Executive Officer, Sais
▷監事			Asset Management Co.,Ltd
~血 <del>ず</del> 伊藤 醇	公認会計士	Koji Tsutsumi	Trustee, Sezon Museum of Modern Art
F藤 醇 三宅 弘	ム誌云前上 弁護士 / 獨協大学 特任教授		Former Chairman of the Board and Representat
<del>-</del> 14	开设工 / 判顾八子 1711-331又		Executive Officer, Seiyu GK
▶顧問			
堤 猶二	株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル	⊳AUDITORS	Cortified public accountant
	代表取締役会長	Jun Ito Hiroshi Miyako	Certified public accountant
		Hiroshi Miyake	Attorney at Law; Professor, Dokkyo Univers
*常勤			
*常勤		►ADVISER	
*常勤		►ADVISER Yuji Tsutsumi	Chairman & CEO, Yokohama Grand Int

\*full-time

#### セゾン文化財団 法人賛助会員の募集

セゾン文化財団では、当財団の趣旨に賛同し、活動を支援していただける法人賛助会員を募っております。 新しい文化を創造するアーティストたちの創造活動に、ぜひお力をお貸しください。 詳細につきましては下記URLにてご覧になれます。 http://www.saison.or.jp/support/index.html

## Legal Entity Support

The Saison Foundation seeks generous contributions from legal entities - such as corporations and foundations - who recognize the purpose of our foundation and how our activities may make an impact on the performing arts. By supporting us, you support the creative work and activities by artists who will be part of shaping new culture for the world. For further information, please contact us by email at support@saison.or.jp.

#### 公益財団法人セゾン文化財団

設立年月日 1987年7月13日 正味財産 10.038.925.005円(2019年3月31日現在)

常務理事/プログラム・ディレクター:久野敦子

事業部 岡本純子 プログラム・オフィサー 堤 治菜 プログラム・オフィサー 稲村太郎 プログラム・オフィサー

管理部 福冨達夫 管理部長/森下スタジオ ジェネラル・マネジャー 橋本美那子 アドミニストレーター

> 斉藤邦彦 森下スタジオ マネジャー 前川裕美 森下スタジオ マネジャー 上田 亘 森下スタジオ マネジャー 橋本真也 森下スタジオ アシスタント・マネジャー

#### 2018年度 事業報告書

2019年10月発行

公益財団法人セゾン文化財団 〒104-0031 東京都中央区京橋3-12-7 京橋山本ビル4階 TEL: 03(3535)5566 FAX: 03(3535)5565 foundation@saison.or.jp http://www.saison.or.jp

ウィリアム・アンドリューズ(P54、55、57、58、66、70-76を除く) 翻訳

デザイン 太田博久/ゴルゾポッチ

#### THE SAISON FOUNDATION

Date of Establishmen Net assets	t July 13, 1987 ¥10,038,925,005 (as of March 31, 2019)				
Managing Director / Program Director: Atsuko Hisano					
Program	Junko Okamoto Haruna Tsutsumi Taro Inamura	5			
Administration	Tatsuo Fukutomi Minako Hashimoto	Administrative Manager / General Manager, Morishita Studio Administrator			
	Wataru Ueda	Manager, Morishita Studio Manager, Morishita Studio Manager, Morishita Studio Assistant Manager, Morishita Studio			

#### **ANNUAL REPORT 2018**

Published: October 2019

THE SAISON FOUNDATION Kyobashi Yamamoto Bldg. 4F, 3-12-7 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan TEL: +81 3 (3535) 5566 FAX: +81 3 (3535) 5565 foundation@saison.or.jp http://www.saison.or.jp/english

Translated by William Andrews (except pp. 54, 55, 57, 58, 66, 70–76)

Designed by Hirohisa Ota / golzopocci



THE SAISON FOUNDATION

公益財団法人セソ"ン文化財団 2018年度事業報告書 2018年4月-2019年3月